

せかい探究部

1期生 論文集

VOLUME 1

SOPHIA GLOBAL EDUCATION AND DISCOVERY
高校生探究学習プログラム「せかい探究部」1期生
2020.6 - 2021.3

巻頭言

「せかい探究部」は、高校生を対象とするオンライン探究学習プログラムである。新型コロナウイルス感染症が世界で蔓延する中、日本を含む多くの国々で学校での学びの機会が制約を受けることになった。そのような状況下での学びの機会を絶やさないという信念をもとに、2020年6月より立ち上げられたプログラムである。日本の各地の高校生、そしてアメリカ合衆国ハワイ州やシンガポールの高校に通う高校生18人が第1期生として2021年3月まで「せかい探究部」の10ヶ月に及んだ活動に参加した。

また「せかい探究部」は、上智学院（上智大学を運営する学校法人）を主な出資者としてタイのバンコクに設立された教育事業会社である Sophia Global Education and Discovery Co., Ltd. (Sophia GED)がプロデュースする事業である。大学リソースを活用した探究学習に焦点をあてつつ、教育を通して大学と高校を繋げる高大連携プログラムの新たな形を模索してきた。第1期生とともに試行を重ねた10ヶ月に及ぶ探究の「旅」でもあった。

「せかい探究部」第1期生は、東南アジアの様々な事柄を対象に、それぞれの関心事をテーマとして「せかい探究部」のモットーであるワクワク感、高揚感が溢れる探究学習をやり遂げた。本論文集は、テーマの気づきと発見から問いの設定、テーマに関する先行研究レビュー、研究・調査方法の設定、データやエビデンスの収集と分析、そしてそれらの考察から導かれる結論まで、学術論文の作成作法に従って書き上げた渾身の論文集である。

もちろん時間的制約やコロナ禍にて実際の東南アジアでのフィールド調査ができなかったこともあり、それぞれが完璧な学術論文に仕上がっていると主張するところではない。むしろ高校生がそういった制約にもかかわらず、また日々の高校での勉強や活動や受験勉強と併せて、本論文集に所収された水準の論文を書き上げたことは賞賛に値する。このことは、今後の高校での勉強や大学へ進学してからのさらなる学びへの自信となるに違いない。

私自身、「せかい探究部」の活動に「顧問」として従事し、東南アジアに関するレクチャー・シリーズや論文指導を主とする個別ゼミを通じた第1期生との出会いと時間は本当に貴重な財産であり、コロナ禍におけるオンラインでの探究学習における新鮮な体験であった。今後も第1期生がさらに探究を深めていくことを切に願っている。

廣里恭史（「せかい探究部」顧問）

Sophia GED 代表取締役社長/上智大学グローバル教育センター教授

せかい探究部 1 期生 論文集

カンボジアでマイクロファイナンスを用いて効果的に低所得者層を活性化させるには (関西学院千里国際高等部 3 年 白井真由夏・矢野莉央)	2
フィリピンのイメージを文化的面から向上させるためには (公文国際学園高等部 2 年 福井七海)	8
タイの若者におけるピー信仰と宗教観との関連 (共立女子高等学校 2 年 北東 愛海)	13
風水とコロナ対策から見るシンガポールー政府と国民の関係性とはー (成城学園高校 2 年 梅原 里緒)	20
ASEAN 諸国における LCC 就航の現状及び今後の就航の提案 (立命館宇治高等学校 2 年 吉岡 聖都)	33
タイの環境問題はどのようにすれば解決できるのかーバイクによる大気汚染に着目してー (文化学園大学杉並高等学校 2 年 江原 咲月)	40
タイにおける都市部、地方中間層の実態 (共立女子高等学校 2 年 佐保田 千優)	45
東ティモールの教育と言語 (京都府立洛北高校 2 年 山元 なのは)	50
Comparative Analysis in Education of a Multicultural Society: Malaysia and Hawaii (Kalani High School Grade 11 Mana Iketani)	57
名文化に見るタイの社会状況とタイ人気質 (共立女子高等学校 3 年 土方 楓子)	68
ラオスにおける教育への信頼性と就学傾向の関係性 (順天高等学校 2 年 石川沙瑛子)	75
富裕層と貧困層の幸せの感じ方の相違ータイの経済格差を踏まえてー (つくば開成高等学校 3 年 谷川 明穂)	84
栄養教育の観点から見えるタイのスラムにおける貧困問題 (山形県立山形東高校 2 年 土田 一花)	90
環境変化による環境意識の変容についてー心理学を用いたフィールド実験ー (大阪高等学校 2 年 小川 宗一郎)	97

カンボジアでマイクロファイナンスを用いて 効果的に低所得者層を活性化させるには

関西学院千里国際高等部3年 白井 真由夏 矢野 莉央

1. 序論

近年、貧困によって多くの人々が犠牲になり、教育格差や地域格差などが広がりを見せる一方で、その撲滅に向け様々な取り組みが行われている。そんな中、解決策の一つとして、世界中がマイクロファイナンス(Microfinance: MF)に注目を集めている。これは主に発展途上国の貧困層に小口の融資や貯蓄などのサービスを提供し、彼らが零細事業の運営に役立て、自立し、貧困から脱却することを目指す金融サービスで、昨今は新しい金融ビジネスモデルとしても有力視されつつある。教育や医療経済など様々な分野で海外の支援に依存しているカンボジアでは実際、MFを通して独自に成功を収めた例が少なからず存在する。カンボジアのKラムニア・S.シャロン(2009)はMFを活用し、結婚式や宗教儀式、祝賀行事など、地域で開催される様々なイベントに必要な機材レンタルの事業を拡張させ、月収は5万円に達し、これはカンボジアの平均月収の2万3000円を遥かに超えている。一方で、近年営利目的のマイクロファイナンス認可機関(MFI)が横行し、それに伴う多数の問題が報告されている。廣畑伸雄(2016)は「マイクロファイナンス認可機関の支店・出張所が急速に増えている。しかしながら、融資を受けられるのは資産を持つ富裕層だけに限定されており、マイクロファイナンス認可機関からの借入金に利子を付加して小農に転貸し、利益を得ている富裕層も散見される。」また、Aカーフォード(2010)によると、MFI側が支店を郊外に設けても利用者数が少なく、見込まれる収益も低いいため、支店を設けないといった問題が生じているとしている。このように、大手MFIは貧困層を視野に入れず、都市部に住む裕福な顧客たちを中心に融資しているのが現状である。どちらの考察から見ても、カンボジアにあるMFIの貧困層に対する配慮の欠如は明確である。MFIの原点にあるのは、バングラディッシュのグラミン銀行の創設者であるムハメド・ユヌス氏が掲げた貧困格差の解決であり、資本主義的な利潤追求ではなかったはずだ。では、本当に資本を必要としている貧困層が貰えないケースの多い、カンボジアでどのようにMFを用いて効果的に低所得者層を活性化させれば良いのだろうか。

本研究における目的は、世界の深刻な貧困問題を踏まえ、低所得者がMFを最大限に活用し、活性化する方法を探ることである。先述した通り、カンボジアにあるMFIの貧困層に対する配慮の欠如は明らかで、実際のところMFは十分な効果を発揮していない。カンボジアにおけるMFの現状から、文献調査、インタビュー調査によってどのようにすればMFをうまく活用できるかを考察していきたい。

今回の研究にあたり私たちはより効果的調査を進めるべく、またあらゆるセクターからのアプローチを模索するため、先行研究における調査とインタビューにおける調査の二つの方法を駆使し、研究を進めることにする。当問題を分析するにあたり、一つの分野のみから調査をするこのトピックはあらゆる分野を跨いでいるということもあり、あまりに危険すぎる。そのため、インタビューで経済学的側面から見た当問題をより深く分析し、先行研究を通じた、幅の広い研究結果を元にする事その上で、当問題を経済学的側面・学術的側面の二つから分析することで、最も効果的なMFの活用方法を提示する。

2. 概念と定義

今回設定したリサーチクエスションにおいて注目すべきは「マイクロファイナンス」と「低所得者」のこれら2つのキーワードである。本項では、これらの定義を詳しく示していきたい。

2-1. マイクロファイナンス

序論でも述べたが、マイクロファイナンスとは主に発展途上国の貧困層に小口の融資などを提供、自立を促し、最終的に低所得者が貧困から脱却することを目指す金融サービスである。融資を無担保または低金利で借りられるこのMFは、将来の備えや計画に対応するための預金口座などの一般的な金融サービスが受けられない貧困層にとって、好条件であると言える。将来を見据えたうえで経済的自立を目指す計画を立て、貧困層からの脱却を目指しているなど、ただ資金を貸し出すのではないというのが、このMFの特徴でもある。

2-2 低所得者

一般的に、低所得とは比較的所得額が低いことや収入が少ないことが言われるが、その定義は場合によって異なることが多い。よって、実際の具体的なデータをもとに、本論文におけるカンボジアにおける低所得者を定義したい。世界銀行は、2015年10月、国際貧困ラインを2011年の購買力平価（PPP）に基づき、1日1.90ドルと設定している。よって以上より、1日あたり1.90ドルを下回る貧困層をカンボジアにおける低所得者と定義する。

3. マイクロファイナンスの現状

今回の調査において、まずは世界全体を俯瞰的に見て、MFがしっかりと活用されているのかを確認する。また、問題があるのであればそれは世界共通なのかを確認する。その後、題にあるカンボジアにおける現状を確認することで、当国特有の問題と世界に共通する問題を明確化する。なお、カンボジアにおけるMFを調べ際に利用して論文は英語であるため、和訳した状態で間接引用することとする。

3-1 世界におけるマイクロファイナンスの現状

まずは、MFにおける問題点を整理する前に利点を確認することとする。確かに、現状MFには、成功事例と失敗事例がある。しかし、データを介して見ると、一般的にその返却率は90%以上を超えている。つまり、貧富の差関係なく返却することに成功しているというれっきとした証拠だろう。実際、このサービスを利用しているほとんどが中間層から貧困層だと言われている。そのため、この驚異の90%は確実にMFが貧困層におけるシステムとして成功しているということになる。このような数字がある一方で、問題点も山積みなのは否めない。その一つが多重債務の問題だ。MFは結局は金貸しの商売だ。そのため、利率が高い方が貸し手としては得をする。そのため、多くの金融機関はより利益を上げるために、すでに別でMFを借りている人にまた借りることを進める。これが連鎖的に進み、気づけば低金利がメリットのMFがただの闇金へと化してしまっているのだ。第二の問題として、MFの返却時期が挙げられる。一般的にMFは低金利だが、返却は分割で支払い、その最初が半月単位で訪れるケースが多い。そのため、農業や製造業を主としているケースが多い発展途上国では作物や製品が売れるまでに間に合わず、結果的に返却にも間に合わないのだ。農業においては、天候によって作られる量も変動するため、定期的な安定した収入が見込めない。そのため、返却も難しくなってしまうのだ。第3の問題として利用層が貧困層ではなくなっ

てしまっているということがあげられる。元を辿れば、このMFは貧困層のためのサービスであった。しかし、序論で述べたとおり、実際は、このサービスが浸透するにつれ、中間層以上のある程度安定した仕事についている人が利用している傾向にある。高野・高橋（2011）によると、「MF機関の顧客も増加し、認知度が高まれば高まるほど、貧困層への融資の到達に限界が見られるようになる」としている。また、「MFは、組織の持続性を図るために一定以上の金利水準を借り手にかさねばならない。国際機関や先進国政府からの補助金や助成金が現地のMF期間に入ってくると、市場金利以下の低金利で貸し出すことも可能になる。しかし、援助機関からの資金の借り手に関する指定がなければMF機関はその持続性を斟酌し、信用リスクの低い中流層以上に融資する誘因が大きくなる。」としている。つまり、MFの定義が曖昧であり、低金利というメリットがかえってMF機関を苦しめているということだ。

3-2 カンボジアにおけるマイクロファイナンスの現状

カンボジアにおけるMFは現状については諸見解がある。スアネ氏（2009）はカンボジアにおけるMFの事例を大成功であると過大評価しており、紛争があったカンボジアで、その後人的支援のために利用されたのがきっかけのMFが今では貧困撲滅を目指すための有用な材料となっていると説明している。カンボジアでは、世界各国同様90%以上の返却率を確認することができ、そのツールがうまく機能しているということがわかるだろう。一方で、世界レベルで見た時と同じように様々な問題点がある。その中でも、今回はカンボジアならではの問題と、この国でMFが失敗だとされる最も大きな原因の計2つを紹介する。まず、最も大きな問題点としてあげられるのが、過剰債務である。Rテアット氏（2009）によると、この問題はMF産業全体に多大なる影響を与えており、国民の15%がMFを利用している中、高い金利や通常ではありえないような家のローンへの支払いなどに当てているというような問題が過剰債務を引き起こしているとしている。同筆者によると、カンボジアにおける高金利はかなりの問題であり、2017年5月にはカンボジア政府によって金利を年18%までにおさえる金利キャップ政策が施行されたとされている。しかし、この政策が裏目に出て、金利を制限したことにより、金融機関が求める利率を達成することが小型融資ではすることができず、結果的には大型融資ばかりをとってしまい、小型融資メインの貧困層は借りづらくなってしまったという問題がある。また、Rテアット氏（2009）によると、カンボジアならではの現状としてMFの利用にあたり約30%近くが家のローンの支払いに当てているとしていることをあげている。これにより、高額な債務が増え、結果的に複数から借りて

しまっている利用者は過剰債務者という位置付けになってしまっているのだ。つまり、この当国特有の問題と、高金利というあらゆる国で頻繁に起きている問題が、この過剰債務という最も大きな問題を引き起こしているのだ。さらに言えば、この問題の元凶にはファイナンシャルリテラシーの低さがあると述べている。Rテアット氏（2009）によると、貯金や借入、投資に関する知識の低さが結果的にこのような問題を起きていると述べている。そのため、カンボジアにおいては、これらの先行研究から教育、経済、法律の3点からの問題が最も大きな問題となっており、これがカンボジアでMFが貧困層に有用に使われていない原因であるだろう。

4. 調査方法

本研究を進める上で、カンボジアのMFについての理解をより深めるために文献調査に加えてインタビュー調査を実施した。事前に今回の研究内容に沿った20個の質問項目を考え、廣里恭史教授のご支援をいただきながらカンボジアのMFの専門家とのやり取りを経て、ZOOMを用いたオンライン上でのインタビューを行った。本項ではそれら調査方法について述べる。

4-1. 調査概要

調査年月日：2020年12月27日

調査対象者：Phon Sophat（Cambodia Econometric Association CEO）

調査方法：ZOOMを利用したオンラインでのインタビュー

4-2. 調査対象者に関する説明

カンボジア在住のDr.Sophatにインタビューを行った。彼は、カンボジア国立銀行の職員（インタビュー当時）でありながら、経済学を専攻し、MFについて研究をしている。（本論文執筆時、現在はCambodia Econometric AssociationのCEOになられた。）今回の研究において文献調査対象にあたる彼の論文「Microfinance Development in Cambodia: Challenges and a Case Study of AMK(2020,4)」ではカンボジアにおけるマイクロファイナンスの今後の発展と課題について述べられており、研究を進める上で必要な質問に加え、それらについて更なる理解を得るための質問を考え、インタビューを行った。

5. 結果

今回の調査において英語でのインタビューを用いたためわかりやすいように日本語翻訳後、文章を簡潔にまとめるため、少し修正を行った。

Cambodia Econometric Associationのソファット氏（2020年12月27日、Zoom）は以下のように回答した。

政府によって導入された金利上限政策への評価と将来性

まず、前提として持続可能な社会作りを行うためにはこの金利政策は必要である。一方で、この政策にも良し悪しがあり、良さを追求するためにはある程度のゴールが必要だろう。例えば、MFを利用することで、新たな商品などを開発、生産できるようにし、MFを持続可能なシステムとするという手もある。そうすることで、この金利政策がよりMFを促進する手助けになる。実際に、タイなどの他国では同じような金利政策がありながらも、上記のようなシステムを構築することで持続可能性を追求していた。産業ベースで考えると、この政策はポジティブに働いていたと言える。しかし、懸念すべきは、この政策は短期的なものであり、長期的には役に立たないということである。

カンボジアの金融リテラシーを向上させるために必要な経済的なアプローチとは

まずは、教育をベースにした新世代への教育が必要であろう。（高校課程などにおいて）実際、カンボジアには様々な若者向けのプログラムが存在しており、金融の使い方や投資の方法などを教える授業がある。そしてそれらの活動は政府が掲げている政策の一部でもある。また、大人向けにもそういったプログラムがあり、テレビやラジオを通じた教育を行っている。その影響からか、確実に昔よりも一般市民の金融に関する知識は向上しているだろう。しかし、農業を行うような高齢者は未だそのような知識を持っていないというのも事実である。

農村部でマイクロファイナンスを普及させる方法とは

まず、前提として、カンボジアでは貧困層にMFを利用促進させるためのポリシーや政策が存在するというを理解してほしい。実際に、MFを利用した農村部での顧客が生産した商品をMFのクレジットオフィサーが宣伝することで、結果的に彼らが利益を得ることができる取り組みなども行われている。具体的に中央銀行では、MFを通じて生産された商品をテレビやラジオで宣伝することでMFを浸透させ、同時に貧困層の生産した商品をより売りやすくするといったようなことをしている。そのため、カンボジアにおいてはこのやり方が妥当だろう。

MFにおいて、利益と社会的利益のバランスを取る方法はあるのか

無論、前提としてあるのはより貧困な人がこのシステムを通じて利益を享受できるようにするのが目的であるということだ。そのため、社会的利益とのバランスは取れているだろう。実際に他国では、5人組制度などがあるように、複数人で借りることで貧困層がよりアクセスしやすいようにしている。カンボジアにおいても、5人組のような制度があり、知識がなく、プラットフォームがない彼らだからこそ、この制度を通じて、MFから資金を調達しやすくしている。このシステムで、MFは利益を追求するだけでなく、より多くの貧困層が借りやすいシステムを構築することで、社会的利益にも貢献している。また、借りてもそれをどう利用していかかわらず、物の購入に当ててしまっているケースがあるため、そこに対する啓蒙教育も必要だろう。そのため、彼らの収入を上げるためには、MFに関する教育を行わないといけないのも事実だ。また、MFの定義がないのが結果的にビジネスよりになってしまう原因でもある。だからこそ、MFに関する教育を促し、特に農家にMFをどう使えば利益を出すことができるかを知らせることで社会的利益を強調するべきなのではないか。

カンボジアにおけるマイクロファイナンスの将来性

まず、前提としてMFはあらゆるセクターのため、特に貧困層のために効果的であるのは事実であり、直接的に農家や貧困層にMFは良い影響を現時点で与えている。一方で、現状としてMFを促進するために必要な投資家がMFの利用現状を理解していないケースがある。そのため、それを透明化するためにカンボジアにおいてはMFを教育やテクノロジーに当てることでMFの必要性を明確化し、将来性があることをアピールする必要がある。実際に、中央銀行によると、0.03%の農家しかテクノロジーを使えていないという現状があり、電話さえも使えないケースがあるということがわかっている。そのため、彼らの商品を営業にかけることができず、結果的に利益を得られていない状況がある。だからこそMFを使って、テクノロジー促進し、MFの将来性を確立するべきなのではなかろうか。

マイクロファイナンスは貧しい人々の生活の質を向上させるために有益か

もちろんMFは貧困削減には必要なツールであり、有益だ。MFを通じて子供の教育、生活レベルの促進を行っており、結果的にQOLにつながっているといってもいいだろう。同時に、農家への金融リテラシー教育することでMFの利用価値を上げ、彼らの生活の質の向上を図っている。

世界が経済的に発展できるように、MFは位置づけられるべきか

まず前提として、国によってMFの問題点はバラバラである。しかしながら、MFの定義は貧困を助けるという万国共通のものがああり、その定義を明確化する必要がある。そうしなければ、特に農家などが不利益を被る可能性がある。そのため、MFのシステム自体を柔軟にし、不動の地位を確立すべきだ。現在、短期的なMFはあっても、長期的では利用しにくいケースもある。そのため、カンボジアにおいては、中央銀行や政府がより厳格にMFの定義を示すべきであり、MF機関も自社が具体的ターゲットとする分野を明確化する必要がある。

MFにこれまで携わっていて遭遇した、最も困難な経験は

まずは、情報が不足しているという問題がある。情報量の少なから、リサーチする際に、自分たちにメリットのある情報が引き出せないといったような弊害あった。その原因とも言えるのが、MFの調査機関の少なさだろう。

あなたにとってMFとは

まず、MFは貧困のためにあり、貧困層に寄り添うシステムであるべきだろう。特にカンボジアにおいては、農家のためにあるべきであり、彼らの生活基盤を向上させるためにこそ、MFが必要なのではなかろうか。

6. 考察

今回の文献調査やインタビュー調査を通じて、前提として貧困層の社会的地位を向上させるには、MFがとても有用であるということがわかった。しかし、今だ問題は点在しており、それらを解決するためには教育などを含む経済学的側面からのアプローチと、法的拘束力のある法学的側面からのアプローチのハイブリットこそが必要だ。そのため、考察ではこの問題を上記の二つの側面から考えることで、より効果的かつ有用な結論を導き出すこととする。

6-1. 経済学的観点からの考察

経済学的観点からの考察を行う上で、以下の三点に着目したい。

まず一つ目に、農村部に着目した政策を行う必要があるということだ。持続可能な社会づくりには、農村部の発展は必要不可欠である。ところが、インタビュー結果からもわかるように、大きな労働力となる貧困層は軽視される傾向にある。その上で、教育とテクノロジーの導入は農家にとって大きな即戦力となり、足り

ない技術面を補い、人件費や時間などのコスト削減、効率化を図ることで高効率で生産することが可能になり、経済活動が活発になるのではないかと考えられる。

そして二つ目に、金利キャップ政策ではなく、融資の大きさによって金利を変えるという仕組みの導入の提案をしたい。つまり、小口融資にはほとんど金利を課さず、大口融資にはより多くの金利を課すということだ。現状やインタビュー結果を踏まえると、貧困層の負担を極限まで減らすことが必要であることがわかる。MF を利用する貧困層にとって負担が大きすぎると、モチベーションが維持できないだけでなく、安定しない収入の中では限界がある。そんな中で、この新たな仕組みにより貧困層の負担を極限まで減らすことが可能になり、さらに大口融資から得られる利益は小口融資から得られる利益を補い、結果的に全体的に貸し出す側が得られる利益は同じになる。よって、金利という負担をできるだけ減らすことによって、借り手が得られる利益はより多くなることで余裕が生まれ、QOL の上昇、貧困層からの脱却、さらには新しいビジネスに挑戦しやすいことでMF の顧客が増えることにも繋がるなど、ビジネスとして良い循環を生み出すことができるのではないか。ただこの新たな政策のデメリットとしては、金利上昇に伴う大口融資の減少と、さらには目標が低く設定されることになるため、小口融資の低金利はモチベーションの低下に繋がってしまうことが挙げられる。

そして三つ目に、MF をより長期的なものにするためには、競争市場による発展が必要不可欠であると考えられる。競争市場の確立によって得られるメリットは、生産者側のモチベーション維持と、競争による質の向上、市場価格の決定による適正価格での販売が可能になるということである。しかし懸念される点として、多数グループの市場参入によって、一部の生産者に利益が回らない寡占状態になることが挙げられる。ただ、これは生産から販売の基盤が定まっており、市場が比較的安定していることが前提であるため、そこに至るまでの外部からの十分なサポートは必須であると言えるだろう。

以上の、農村部に着目した政策、金利キャップ政策に代わる累進的に金利を課す制度、競争市場の確立はカンボジアのMF をより発展させるのではないかと考えられる。ただ、これらには限界とデメリットはあるため、どれにおいても長期的な視点から考えていく必要があると考えられる。

6-2. 法的・制度的観点からの考察

法学的側面から考えると、大きく分けて3つのアプローチ方法が必要だということがわかったと言えよう。

まず一つ目が、金融キャップ政策に対するアプローチだ。調査からわかった通り、この政策はカンボジアにおいてとてもポジティブな働きかけであったにもかかわらず、あらゆる問題によってデメリットばかりが主張されてしまっている。そのため、そこを改善するために、初手として長期的にこの政策が活用できるシステムを構築するべきだろう。キャップは間違いなく金融リテラシーの低いカンボジア国民にとって、盾のような存在になっていることは間違いがない。しかし、その後、彼らを助ける政策がないがために、MF を活用しづらくなり、キャップ政策の副作用でもある、多重債務につながっているのだ。だからこそ、タイなどが行ったように、MF を利用した商品の開発販売を国として手助けできるシステムを政策の一環として確立することで、キャップ政策の副作用を抑制させる必要がある。

二つ目にあげられるのが、政策を通じた教育現場の促進だ。特にカンボジアにおいては、金融セクターに関する市民教育が整っていない。教育レベルでの MF 促進が進まない限りは、国として MF を有用に活用することは難しいだろう。しかし、調査からわかった通り、その教育がないのではなく、実際にあるが、浸透していないというのがお問題なのだ。だからこそ、国と教育庁が連携し、若者から、お年寄りまでが理解できる金融に関する教育を教育制度に組み込むことによって知識を促進するべきだろう。

三つ目にあげられるのはMF の定義の曖昧さを是正するということだ。調査結果からもわかるように、この曖昧さが、本来は貧困層を助けるためのMF が全く違う利益のみを目的としたビジネスよりのMF につながってしまっている。だからこそ、国が政府の提言として、ここを明確化し、貧困層を助けるためのシステムであるということを説明するべきなのだ。

このように、法学的側面から見ると、貧困層へのアプローチを政府、そして法的拘束力のある提言としてMF の地位を確立することで、この問題はある一定程度は解決するのではないだろうか。無論、これではまだまだ不十分ではあるが、まずはある程度の基盤を確立することで、この問題の初歩的な解決には繋がるのだろう。

7. 結論：まとめと今後の課題

本稿ではカンボジアでどのようにMF を用いて効果的に低所得者層を活性化するための施策を考察した。返済率は 90% と効果をはっきりと示す数字がある中で、大手 MF は貧困層を視野に入れず、都市部に住む裕福な顧客たちを中心に融資しているのが現状である。そこで文献調査に加え、現地の情勢に詳しい Dr.Sophat にイン

タビュー調査を行い、MF を通じて貧困層に対して効果的な施策を模索した。

経済学的、法学的観点からの考察を経て、農村部に着目した金融キャップ政策に対するアプローチ、政策を通じた教育現場の促進などが挙げられた。さらには、競争市場の確立による更なる MF の発展と、金利キャップ政策に代わる累進的に金利を課す政策など新たな視点からのアプローチも見られる。そしてもっとも重要であると言えるのは、MF の定義の曖昧を是正することだろう。これにより、MF というサービスが貧困層のためにあるものであることをより確固たるものにできるのではないだろうか。

新たな政策や改善の導入は、効果は期待できるが、それだけでは根本的な解決は難しいだろう。よって、経済的、法的なアプローチを根幹として、社会全体の意識を変えていく必要があると考える。よってこれらの施策を有効活用しつつ、カンボジアの社会システムが良い循環を生み出すためにはどうすればいいのかという観点から考えて行くことが今後の課題である。

参考文献

・論文

内田智大. (2018). 貧困問題に関するマイクロファイナンスの役割と課題. *人権を考える*, 21, 39-56.

廣畑伸雄. (2016). カンボジアのマイクロファイナンス機関の経営戦略. *アジア経営研究*, 22, 33-43.

Sophat, P. (2019). Microfinance Development in Cambodia: Challenges and a Case Study of AMK. *Thammasat Review of Economic and Social Policy*, 5(2), 26-61.

Allden, S. (2009). Microfinance and post-conflict development in Cambodia and Timor-Leste. *SOJOURN: Journal of Social Issues in Southeast Asia*, 24(2), 269-284.

Thath, R. (2018). Microfinance in Cambodia: Development, Challenges, and Prospects.

World Bank Group. (2019). Microfinance and Household Welfare - Cambodia Policy Note-

・インターネット

Positive Planet Japan(2016)マイクロファイナンスとは

<http://www.planetfinance.or.jp/microfinance/index.php> (2020.3.13)

IDE-JETRO ジェトロ・アジア経済研究所(2006)

https://www.ide.go.jp/Japanese/Research/Theme/Eco/Microfinance/200608_kono.html (2020.3.13)

田守正彦(2019.2.25)カンボジアで銀行より高金利のマイクロファイナンスとは？

<https://www.motleyfool.co.jp/archives/1627> (2020.3.13)

World Bank Group (2015.10.16)国際貧困ライン、1 日 1.25 ドルから 1 日 1.90 ドルに改定

<https://www.worldbank.org/ja/country/japan/brief/poverty-line> (2020.3.14)

フィリピンのイメージを文化的面から向上させるためには

公文国際学園高等部2年 福井 七海

1. 序論

1-1 背景

「フィリピンで出会ったポートボーイ」

この体験こそが私が東南アジアやフィリピンに興味を持つきっかけになった。小さな頃からアジアによく旅行に行っていた私は、それまで、現地の人と関わるような滞在をしたことがなかった。しかし、中学3年生の終わりにフィリピンに行き、アイランドホッピングという無人島を回るツアーに参加した。そこで船に乗せて案内してくれた現地のガイドさんの中に、自分より華奢で背は同じくらいの男の子が目に入った。島についてから、その子と話す機会があり、お互いかたことの英語ではあったが、話してみると、自分と同じ歳で、学校にもいけず、ポートボーイとして働いているという話だった。私は、その話を聞いた時、衝撃を受けた。日本では中学校までは義務教育であるし、ほとんどの人が、高校、大学まで通うことができる。今まで、学校に行けない子供達がいる国があることは知っていたが、自分にも身近なアジアの国の中にも、その現状があることを改めて感じさせられた。子供が学校に行けないということだけを聞くと多くの日本人はかわいそうだと思うかもしれない。でも、そのポートボーイは楽しそうに自分から率先してツアー客たちの写真を撮ったり、一緒に泳いだり、その時私は全く可哀想だとは思わなかった。私は、このことに限らず自分たちの狭い尺度だけでその国を判断することがあると思う。狭い尺度の判断で発信された情報によって、行ってみたいことのない人たちのイメージが作られてしまっているが、私は自分自身の経験から、実際に行ってみて触れ合ってみるとわからないこと、行ったからこそわかることが多いと思った。

東南アジアの国々は、発展途上国として近年著しく成長しているが、その一方で国内の格差などの問題も明るみに出ている。そんな中日本をはじめとする先進国は東南アジアに目を向けつつある。だが、日本人の中には東南アジアに対して、貧しい、教育が不十分、汚いなど、マイナスなイメージを持つ人も少なくない。実際に私が今まで東南アジアのフィリピン、カンボジア、マレーシアに行った際に、行く前は食べ物が口に合うか、衛生面は大丈夫かなど心配な気持ち、マイナスなイメージを多くもって行くのを躊躇しながら行ったのを覚えている。しかしいざ行って、現地

の人と関わったり、食べ物を食べたり、街を歩いてみると心配だったことや持っていたマイナスなイメージも、もちろんその通りのものであったが、それよりも、綺麗な海や優しい人たちと関わって魅力の方を多く感じるようになっていた。そこで、私は、東南アジアに行ったことがない人々の東南アジアに対するマイナスなイメージを、魅力を知ってもらうことで払拭し興味を持って行きたいと思うきっかけを作ることができるのではないかと考えた。

例えば、アジアの中で韓国を例に見てみると、音楽 K-pop や食べ物、ドラマなどの文化が近年日本の若者に浸透したことにより、一時のとても悪かった反日イメージが、馴染みやすく行きやすいものへと変わり国内でも韓国の文化を体験できたり、韓国の食べ物を食べられる場所も人気を集めている。その影響もありコロナウイルスが本格化する前の2019年に韓国を訪れた外国人観光客は史上最多の1750万人に達した。このことから、東南アジアについても、文化的な面からイメージを向上させることができるのではないかと考えた。

1-2 研究の目的

そこで私は東南アジアで自分が行ったこともあり、東南アジアに興味を持つきっかけにもなったが、世界から東南アジアの中でも最も貧しい国、格差が大きく教育が行き届いていない国というイメージが未だ持たれているフィリピンに焦点を当てることにする。

本研究の目的は、フィリピンのイメージを文化を使って向上させるために、そもそもどのような悪いイメージが、なぜ作られてしまうのか、現在フィリピンはどのようにその問題と向き合っているのか、食や宗教、自然などの文化はどれくらい人のイメージ形成に影響するのかを調べることである。

2. 研究方法

2-1. 文献調査

フィリピンの観光産業がどのような状況なのかを知るため、観光省が出しているデータを分析する。

2-2 アンケート調査

どのようなマイナスイメージが実際に持たれているのかを知るために東南アジア、フィリピンについてのアンケートを性別、年齢に関わらず行った。項目は、以下の通りである。

- (1) 東南アジアに対するマイナスイメージ
- (2) (1)で回答したイメージは何によって作られたか
- (3) 東南アジアに行ってみて、魅力を感じたことは何か
- (4) 東南アジアといえば、何を思い浮かべるか
- (5) フィリピンといえば何を思いつくか
- (6) フィリピンの魅力といえば

このアンケートの結果から、東南アジアやフィリピンに行ったことがある人が感じた魅力のなかで、行ったことのない人が感じたことのないものを、マイナスイメージを持っているものを見つける。その魅力を、(2)の質問でイメージが作られた媒体を明らかにすることで、より効果的な方法でイメージの向上をはかる。

さらに、データとアンケート結果の両方を組み合わせ、現在のフィリピンのイメージ向上をするために自分ができる取り組みを見つける。

3. 結果と考察

3-1. 結果

文献調査結果

フィリピンの旅行産業の現状について観光省が発表しているデータによると、フィリピンの観光産業は、フィリピンの GDP のうち 8.4%を占めていて、フィリピン経済において重要な役割を担っている。しかし、表1のように東南アジアの国々のなかでフィリピンを訪れる外国人観光客は、他の国に比べ大幅に少なく、それに伴い観光客が現地で使う消費金額も少なくなっている。またフィリピン観光省の外国人誘致のための予算はわずか 63.7 ドルである。他の国と比べてみると、シンガポールは、4293 万ドル、タイは 3153.7 万ドルとなっていて、そもそも外国人観光客を呼び込むために使っている費用が少ないことがわかる。訪れる外国人観光客が伸び悩んでいることに対して、フィリピン政府は、特に貧困というイメージの解消、治安の維持などに重点を置いてキャンペ

ーンを行っている。例えば、「Visit Philippines 2003(VP2003)」である。これはフィリピンへの外国人観光客を増やすために行われている事業であり、その中でも「Volunteer 12 Program (V-12)」というものが代表的である。これはフィリピンではなく海外に住んでいるフィリピン人がそれぞれのコミュニティで宣伝し、フィリピンの魅力を伝えることで、その国の人々が様々な機会を通じ、フィリピンを訪れるきっかけを作るというものだ。またその活動によってフィリピンを訪れた外国人観光客は買い物をする時の割引券や優待券がもらえる仕組みになっている。

この政策の効果もあるのか、2019 年にフィリピンを訪れた外国人観光客の数は 2018 年度の 716 万 8467 人から 15.2%増加の過去最大 826 万人となった。

このことから、私が予想していたよりも、フィリピンは観光産業が他国と比べてまだ少ないものの発展してきていることがわかった。

表 1：東南アジア諸国を訪れる外国人観光客数と消費金額

国名	外国人観光客数(万人)	消費金額(億ドル)
フィリピン	180	22
タイ	950	75
香港	1300	80
マレーシア	1000	45
シンガポール	700	60

次にフィリピンへ訪れている国別外国人観光客のデータ(表2)をみると、アジアの国々だけではなく、3位にはアメリカ、オーストラリアなど欧米の国々も並んでいる。さらに4位には日本であり、東南アジア内での行き来よりは、その他の地域からの渡航者が多いことがわかった。フィリピンの観光省は観光客一人当たりの支出額が 40.4%増加し 1,264 ドルに、観光業全体の経済効果が 53.6%増の、534 億 7000 万ペソ (1,122 億 8700 万円) となった。政府は 2019 年にオープンした博物館でフィリピンファンセール、グローバルブランドキャンペーンを行った。このキャンペーンでは、一般の消費者とともに作るクラウドソーシングによるもので、SNS を活用し、魅力を発信するものだった。一人当たりの支出額が 40.4%増加した要因として、1位に並んでいる中国からの観光客が4割以上も増加したことによるものだと考えられるようだ。この点から見ても、表1と同様にフィリピンの諸外国に対する観光政策は失敗してはいないものの、東南アジア他国に比べるとまだ少ない値となっている。

表2: フィリピンへの2019年の外国人観光客数

(単位: 人, %)

国・地域	観光客数	前年比 増加率
1 韓国	1,989,322	22.5
2 中国	1,743,309	38.6
3 米国	1,064,440	2.9
4 日本	682,788	8.1
5 台湾	327,273	35.0
6 オーストラリア	286,170	2.3
7 カナダ	238,850	5.5
8 英国	209,206	4.1
9 シンガポール	158,595	△ 7.7
10 マレーシア	139,882	△ 3.7
11 インド	134,963	11.4
12 ドイツ	103,756	12.7
全体	8,260,913	15.2

(出所) フィリピン観光省 (DOT)

アンケート調査結果

アンケートでは、10代から60代の男女合わせて147名からの回答を得た。1人で複数回答している場合はそれぞれ集計した。

(1) 東南アジアに対するマイナスイメージ

東南アジアに行ったことが無い人がもつ、良くないイメージは圧倒的に衛生面、その次に、貧困、治安と続く(表3)。

表3: 東南アジアのマイナス面

マイナス面	回答者数
衛生	67
治安	18
整備(インフラ)	6
貧困	21
食	5
人	12
教育	11
気候	7
政治	7

(2) (1)で回答したイメージは何によって作られたか

東南アジアのイメージを持ったきっかけは、「実際に行って」が多いが、行ったことのない人のほとんどは人から聞いたなどのことよりもSNSだった(図1)。

図1: マイナスのイメージ源



(3) 東南アジアに行ってみて、魅力を感じたことは何か

東南アジアの魅力だと思われるもので多いのは、人の良さ、食、国の雰囲気についてなど実際に行ってみたからこそ分かることがやはり多く、日本からのアクセスの良さや物価の良さなど観光資源ではなく、日本からの物理的な行きやすさやメリットが含まれていた。街中のこともあったがリゾートなど観光地に対するイメージが多かった(表4)。

表4: 東南アジアの魅力

東南アジアの魅力	回答者数
食	46
物価が低い	13
自然	22
文化	4
人	50
雰囲気	27
ホテル	3
行きやすさ	3
子供	3
気候	7
宗教	5

(4) 東南アジアといえば、何を思い浮かべるか

行ったことがある人と無い人とが両方とも抱く東南アジアのイメージは、(3)同様に食や文化はあったが、人についての割合が急激に減った。また市場など、食、人、雰囲気が合わさった東南アジアならではのものがあつた(表5)。

表5: イメージ-東南アジアといえば

東南アジアといえば	回答者数
気候	21
文化	54
人	11
食	5
宗教	13
市場(屋台)	10
自然	18
経済	10
行きやすさ	2
大統領	13

(5) フィリピンといえば何を思い浮かぶか

フィリピンに絞ってみると、東南アジア全体と同様に、人の良さや、自然についてのものも多かったが、他の東南アジアの国々ではなかった、英語が堪能であるというイメージがあつた。フィリピンには英会話学校が多くあるので、それがイメージにも繋がっている。また、宗教と回答する人がいた。そこで、調べてみると、フィリピンは東南アジアの中で唯一のキリスト教国家であるものの、もちろん他宗教の人々もおり、宗教的な対立が一部地域

において、内部戦争に発展している現状などが影響していると思われる（表6）。

表6：イメージ-フィリピンといえば

フィリピンといえば	回答者数
英語	19
文化	21
自然	38
人	32
治安	4
経済	17
食	34
宗教	7

(6) フィリピンの魅力といえば

フィリピンの魅力では、人の良さは東南アジアでも同じくらいの割合だったが、自然の項目の割合が多くなった。具体的には、セブ島などの綺麗な海がある島や、ビーチなどのリゾート地との回答が多かった（表7）。

表7：フィリピンの魅力

フィリピンの魅力	回答者数
文化	13
食	22
自然	34
英語	14
人	42
気候	3
物価	24
リゾート	3

3-2 考察

アンケートの結果全体を見て見た時、私が1つ気になったことは、マイナスイメージについてでは、行ったことがない人も何かしら書いていたのに対し、魅力を聞く項目になると、行ったことがない人が、特になしと答えることがあった。普通であれば、マイナスなことも魅力もいったことがないならばなおさら同じように知っているはずなのに、多くの人が、マイナスな面だけを答えたというのは何故なのだろうとまた疑問が出てきた。

それについて考えてみると、日本人がフィリピンをイメージする時多くの人が、フィリピンパブなどで働く女性や出稼ぎに来ている労働者のイメージが強く、日本にきているフィリピンの人達のイメージから来ていると思われる。

フィリピン政府は国へのマイナスイメージに対して、フィリピンファンセールという、日本市場からより多くの渡航を促進するためにフィリピンの魅力を活かしたオンラインキャンペーンや、パッケージツアーなどを企画してより多くの観光客を呼び込もう

と、新しい取り組みをしている。また、インスタグラムなどでハッシュタグで航空券やグッズなどが当たるイベントなども行っている。

予想したよりも、SNS をより活用した取り組みを行っていた。また、問題点としては、消費者が参加してとなっているが、サイト自体には掲載されておらず、インスタグラムのハッシュタグキャンペーンの時のみしか、観光客の立場からの魅力の発信の機会が無かったことだ。

4. 結論

フィリピンのイメージを文化的面から向上させるために何ができるのかを考えると、データとアンケート双方の結果から、東南アジア全体に対して、マイナスイメージが持たれている、衛生、貧困に対し、自然や食、人の良さという魅力で、払拭することが有効だと考えた。また、行ったことのないほとんどの人が SNS などのメディアを通して情報を得ているため、メディアを使って発信していく必要がある。次に誰が情報を発信するのが1番影響があるのかと考えて私はフィリピン政府の取り組みのデータを見て、自分の身近にいる人からの勧めや、自分と同じことを思っていたけれど、実際に行ってみて魅力を感じた人の情報が1番興味を感じるきっかけになるのではないかと考えた。

メディアはマイナスなイメージを作ることも、魅力を伝えることもできる。その国の課題点や、現状を発信することは、その国のことをより知っていく上でとても大切なことであることは確かだ。私ははじめ、東南アジアに対してマイナスイメージを持つことは興味を持つことに繋がらないと考えていた。マイナスな面を完全に取り除くことは不可能であり、さらに今後また違う課題が現れた時にも完全にマイナスイメージを消し去ることはできない。しかし、今回の探求を通して、はじめに興味を持つきっかけはマイナスなことからも、その情報止まりではなく、プラスな情報にも触れてもらう機会を作ることができれば、行ってみたいと思い、実際に行ってみて魅力を感じイメージも向上するのではないかと感じた。

このように、実際に行って東南アジアの魅力を知る人たちが、魅力を共有し、よりローカルな情報や、行ってみたいと分からない穴場スポットなど、を広めることで、興味を持ち始めた人を、行きたいという気持ちにさせ、その人たちがまた共有していくようなサイクルができれば、今フィリピン政府が行っているキャンペーンのように国内で止まることなく、国外からの観光客のリピーター層も参入することができることにより、大規模で取り組むことができると考えた。現地の人が感じる魅力と海外の観光客が注

目している点は異なるので、観光客の立場からの意見や情報の方がより為になる情報を得ることができる。情報を伝える人は、一度いった人はもちろんだが特にリピータを増やすことで、より深い情報を発信することができるので、そこに焦点をあてて発信してもらおう。

5. 今後の展望

そこで、今自分が取り組み始められることとしてサイトを立ち上げることにした。サイトには東南アジア各国の基本情報はもちろん、文面だけではなく写真や動画など実際の雰囲気や伝わるものを多く寄せ、よりわかりやすくする。現在フィリピン政府は観光省がおすすめスポットやイベントなどを掲載するサイトを作っているが、そこでは、観光客側から評価や、情報は載せられていない。そこで私は、サイトでは、運営側がただ情報を書くのではなく、東南アジアに行ったことのある人達を書き込んだり、動画や写真もアップロードができるような、皆で作っていくサイトを作成することでより多くの魅力を知ってもらい、行きたいと思って東南アジアに行って魅力を体感してもらおうことでイメージも向上するだろう。

現在は新型コロナウイルスの影響もあって、海外に旅行などの娯楽で行くことは厳しい状態が続いている。その中で、東南アジアなどは特に衛生状態などを心配して躊躇してしまうことが多いかもしれない。だからこそ、私の作るサイトを見てコロナ終息後に、東南アジアに行ってみたい、行ってみようと思う人が少しでも増えたらいいと思う。

参考文献

外務省. フィリピン共和国基礎情報

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/philippines/data.html> 2020年2月
清水展, シミズヒロム. (1996). 日本におけるフィリピン・イメージ考. フィリピン観光省. 「もっと楽しいフィリピン！」公式サイト

<https://philippinetravel.jp/> 2020年3月
労働政策研究・研修機構. 「旅行産業の現状」

<https://www.jil.go.jp/foreign/jihou/2003/02/philipP01.html> 2020年1月
鄭榮蘭. (2016). 政治的対立と文化交流による日韓相互認識の変遷: 日韓の文化受容 (韓流・日流) が国民意識の変化に与える影響. プロジェクト研究, (12), 85-101.

タイの若者におけるピー信仰と宗教観との関連

共立女子高等学校2年 北東愛海

1. はじめに

1-1. 研究の動機

日本に住んでいると精霊信仰や自然信仰を度々認識する。例えば繁栄と安寧を願いアニミズムが形成された縄文時代の土偶、神道の八百万の神など現代でもその思想的影響は残存している。古来からの信仰を知ることその国の人々の根底にある考え方に触れられると思ひ各国の信仰を調べるに至った。その中でもタイの妖怪、お化け、精霊といった多様な姿で信仰されるピー信仰について格別の興味を抱いた次第である。

1-2 ピー信仰

タイには仏教の伝来以前から信仰されてきた精霊信仰が存在する。精霊信仰とは一般に「物質的身体を持たずなんらかの人格を持つ超自然的な存在のうち、超人間的能力を持って人間生活に善悪それぞれの影響を与えると信じられるもの」と定義される。タイの精霊・ピーの呼称や特徴は様々で定まった形象を持たない曖昧な存在としてタイ人の生活の中に溶け込んでおり、たとえば母系集団を反映して形成された祖霊信仰ピー・プー・ニャーが北部タイで独自の形態を築いたり、水運の発達した南部タイではナン・ナークを中心に信仰しているなど、ピーによって地域文化の表彰を把握できるという側面も持ち合わせている。ピー信仰の儀礼の性格としては、「祓い、浄め」が主体であり、儀礼は自然霊、守護霊のピーに対して祠(ピーハウス)を建て供物をし祀ること、悪霊のピーや憑依霊に対してコミュニケーションを図る場合が多いが、実に多種多様な儀礼が行われている。基本的にコミュニケーションは悪霊が憑いてから行われる修復のためのもので、悪霊を忌避するための定期的な儀礼はほとんど行われない。

1-3. 現代におけるピー信仰の変化

農耕社会であるために家族や地域の労働力と土地確保が重要なテーマであるタイでは、精霊は人間と外的環境を媒介する存在であり、人間の営為と精霊とが密接に関わり合っているということが高井(1991)で指摘されている。また、ピーターコーンフェスティバルにみられるようにピーはしばしば国教である上座部仏教

と習合を起こしタイの文化の土台あるいは精神的な礎としての役割を担ってきた。

しかしながら近代化が進み、社会生活の変容によってかつての信仰上の儀礼や儀式を確認することは難しくなってきた。飯島(1965)は居住地、生計手段の変化の中で本来の物質的基盤を失えば、いくつかの儀礼が消滅の方向に向かうのは当然ではなからうかと述べ、限定的な村落においても精霊信仰に関する儀礼が既にいくつか消滅していることを指摘している。また、梶原(1983)もピー信仰の儀礼は確かに存在するが当事者という狭く限られた場合にとり行われること、ピー信仰の儀礼の性格の消極性が人々を集める吸引力の欠如と衰退、潜在化を感じさせると述べており、ピー信仰の儀礼の複雑性を感じられる。

本研究では信仰の可視化が薄くなったとされる現代においてタイにおける多様な宗教の信者にとって精霊信仰とはいかなる存在なのか、自身の信仰や儀礼についてインタビューの価値観で述べてもらい、現代のタイの若者のピーの認識と宗教観との関連を幅広く読み解こうとするものである。

2. 研究方法

本研究では方法としてインタビュー調査と文献調査を用いた。

2-1. インタビュー調査

新型コロナウイルス感染症の影響のため SophiaGED の協力のもと2020年10月から12月の間に1人30分から60分ほどのインタビュー調査をインターネットを介して行った。言語は英語を使用しタイ語の複雑な部分については SophiaGED スタッフの通訳に頼ったため、タイ語本来が持つ意味とは多少の差異が生じている可能性があることを記しておく。

インタビューの際には匿名化してデータを使用すること、音声の録音の許可を得て調査した。

調査対象者には①ピーについて②宗教観③宗教又は社会との関連という3つの大枠に沿って各人に応じて派生した聞き取りを展開した。

表1：インタビュー対象者

	性別	年齢	出身地	宗教	特記事項
A	女性	20代	バンコク	仏教	
B	女性	20代	バンコク	無宗教	
C	女性	30代	バンコク	無宗教	
D	男性	20代	メーホン ソーン	カトリック	カレン族
E	女性	20代	バンコク	イスラム教	
F	女性	20代	ブレー	イスラム教	UAEに 留学
G	女性	20代	バンコク	ヒンドゥー教	インド系

2-2 文献調査

インタビュー調査で得たデータの裏付けと関連伝統的なピー信仰の信仰形態に関するデータを文献で調査する。日本語を使用した論文を扱った。

タイにおける伝統的な儀礼を調べるとともに一般的な宗教観やタイにおける背景を調べる。

3. 結果

3-1 インタビュー調査結果

3-1-1 ピー信仰について

ピー信仰の認知

「ピーを知っていますか?」という問いに対し、7名全員がピー信仰、またはピーという存在を知っていると答えた。知ったきっかけとして親など家族が話して聞かせてくれたというのが、小学校の教育のなかで知り得たと発言したものが1名いた。

- A: ピー、知ってます。学校でも出てきました。
- B: 知っています。どうして知ったのか? よくお話に出てきました。
- C: 知っているし、ピーに祈ったりもします。両親に教わったり、社会生活を営む上で知ったんだと思います。テレビ番組でゴーストについてやってるものがあるからそれでピーについて学んだのかもしれない。
- D: ピー、ゴーストを信じています。祖父が40年前に改宗する前はゴーストを信仰していたので、村に伝わる話でも知りました。
- G: ピーは知ってます。信仰はしないけど信じています。お母さんが幼少期に話して聞かせてくれました。ただその話はタイのピーではなくインドのピーだったと思います。

ムスリムの2名はピー信仰の存在は知っているが、ゴーストと同視し自らは信仰しないと述べた。

E: ピー信仰をする人がいるというのは知っています。イスラム教は偶像に対する信仰を禁じているのでゴーストやピーの存在を信じません。信仰はアッラーに対するものだけです

F: ピーは知っています。ゴーストというのは人が死んでなるものだけど、ムスリムは人が死んでゴーストになるとは考えないのでゴーストのようなピーの存在はないとされています。

ピーにどのようなイメージを持つか

この質問では3つの傾向に分かれた。1つはピーを信じ守護霊的な性格について述べたもの、2つ目はピーを信じ人間との関わりについて述べたもの、3つ目はピーを信じないものだ。

(1) ピーを信じ、そのイメージを守護霊的な性格持と述べたグループ

- A: 良いピーと悪いピーがいて、良いピーは家や土地を守ってくれる。
- C: 災厄から守ってくれるし、小さい頃は怖い話だと思っていたけれど成長してみると良い教えになりました。
- D: ピー=ゴースト。ゴーストにも2種類あって人を喰す悪魔と祖先がなるゴーストで、こちらは私たちに啓示をしてくれる善いゴーストです。でも悪魔も神に祈れば神の力は強いから恐れたりはしません。

(2) ピーの存在を信じ、人間との関係性に焦点を当てて述べたグループ

- B: ピー(ゴースト)は存在すると思いますが、目には見えないしその存在を証明する手立てがないので私は信仰したりはしません。
- G: 人によって信じる人とそうでない人がいるものだと思います。ピーの存在は人が病気になるたり弱気になったときに頼ることで生まれるものだと考えます。

(3) ピーの存在を信じないグループ

信じないとした上で、Eは信仰していないためピーのイメージは分からないと述べたがFはフィクションとして関わりのあるピーのイメージを述べた。

E：分からないです。他の宗教の人が信じる者だと考えます。

F：分からないけどゴーストみたいなもの？

Fはさらにイスラム教における似たような生き物の存在について述べた。

F：イスラム教にはゴーストはいないけど似た生き物ならあります。うーん説明が難しいな一神は天使、土から人、炎からジンという存在を作り出しました。ジンには善いものと悪いものがいて人間が社会を形成しているのと同じようにどこかでジンも社会を形成していると考えられています。人間からジンは見れないけれどジンは人のことを見れます。人間側からコミュニケーションを取ろうとしない限りジンが人間世界に働きかけてくることはありません。ただジンと交流をすると人を傷つけないければならぬので禁忌となっています。

娯楽としてしばしばホラー映画、ゲーム、お化け屋敷に取り上げられるピーのイメージを聞くと、恐ろしいゴーストであるという認識は共通だった。E、Fもフィクションとしてのピーを受容している。

3-1-2 ピー信仰の儀礼慣習について

ピーと関連があるもので知っていることを教えてもらった。

A：ピーには祠が立っていますね。いろんな場所に沢山。家には1つずつあるようだし、山や公園、会社に置いてあったりもします。

C：以前聞いた東北タイかどこの村の話では、悪霊が入ってこないように男の人の形をした像みたいなものを置いて悪霊を怖がらせているそうです。これは有名なお寺の話だけ南部のある寺院ではラットオ(宝くじ)の一等とかの当選番号を聞きに行きますね。「もし番号を教えてください何かお返しをします」と言っただけでね。みんな幸運をつかめると思って大勢がその寺院に行く者だから大変有名になりました。願いが叶ったら寺院にお礼参りに行って、爆竹とか像を納めます。多分ピーと関係があるはず。あとは引越して新しい家、街に移る時はピーハウスにお供えをします。花やロウソクを供えてお香を焚いて安全を祈りました。ピーについて表した良いタイの言葉があります。「もし信じないなら、挑戦するな」と言って、挑戦することは何か起きるといことだから、(守ってくれる)ピーを信じないなら挑戦すべきではないということ。

3-1-3. 自身の宗教に関して

調査対象者には信仰する宗教と信仰状況を聞いた。

自分のことを熱心な信者だとするものはおらず、程度に差はあるがそれぞれの教義に従って生活を営んでいることがわかった。無宗教と述べたものが2名いるが、共に仏教との関わりがあることが確認できた。

(1) 仏教徒

A：熱心な信者ではありません。月に一度寺院へ行って礼拝をします。あとは年に一度か、2年に一度瞑想しに行きます。

(2) 無宗教

B：両親は仏教徒なので15歳までは仏教を学んでいましたが、自分で無宗教を選びました。無宗教とは言ってもタイは仏教社会なので、親が参加する仏教儀礼に参加することもあります。

C：特に特定の宗教を信仰していないので今は無宗教だと思っています。ただ今でも寺院に行く習慣があるし、仏教徒だけではなく精神的なものだと思っています。

(3) キリスト教徒(カトリック)

D：自分は熱心ではないです。月曜日から土曜日は朝夕2回の礼拝があって日曜日は特別に朝昼夕3回の礼拝を行います。出ない時もたまにあります。

(4) イスラム教徒

E：厳格ではないです。断食といったムスリムとしてやらなければならない事をしていません

F：ムスリムには1日5回礼拝をする時間があります。あとは六信五行を守ることです。

(5) ヒンドゥー教徒

G：3ヶ月に一度は寺院へ行きますが、普段は家の祭壇です。ヒンドゥー教徒の儀式は伝導書を読んで、お祈りすることがほとんどです。

3-1-4. 葬式、死生観について

インタビューを進めていくうちにピー信仰との関連を考えられる儀式を尋ねたところ死に関係する儀礼には特に強い関連性が伺えたため、葬式やそれにつながる死生観について調査した。

A、B、C、は輪廻転生、D、E、F は最後の審判で天国と地獄に裁かれるという死生観を話した。G は例外的に死後の世界を信じないと述べた。これは関わる宗教によって2つに分かれたが、生前の行いの善悪によって死後の境遇に影響があるというのは両グループともに共通だった。

(1) 輪廻転生について述べたグループ

A：仏教には輪廻転生の考えがあって、生前に良いことをしたら輪廻から解脱してブツダのいるところへ行けるけど、良い行いをしなかったり悪い人は他の生き物に転生する。ピーと関係があるのはタンブンを積まなかった人は悪いピーになってしまうところ。葬式では仏僧がやってきて儀式を行います。

C：人が亡くなったら僧を呼んで平和に眠れるように一日中祈祷して、お香が尽きないように一晩中焚き続けます。今まで理由を聞いたことがないけどそうします。

(2) 最後の審判について述べたグループ

D：生前に善いことをしていたら天国に行き悪いことをしたら地獄へ行きます。葬式については家族が亡くなったら遺体は3日そのままにしておいて墓穴を掘って歌を歌い、キャンドルを灯して棺を埋めます。

E：ムスリムは転生の観念はありません。悪いことをしたら地獄に行ってしまうので天国へ行くために善良であろうとします。

F：天国と地獄のどちらかに行くこととなります。女性のお葬式は家族の女性が体を清めて白い布を体に巻きまします。確か男性と女性では布の枚数が違ったと思いますね。

G は例外的に死後の世界を信じないと述べた。

G：私はこれからもずっとヒンドゥー教徒ですが死後の世界を信じません。これは両親やヒンドゥー教の教えの概念からは離れていることですが。

3-1-5. 信仰している宗教のタイにおける独自性について

D：他の国の儀礼を知らないのわからないです。

E：南部タイのムスリム一部で性器割礼があると Twitter で聞いたことがあります。でも信憑性は確かじゃありません。

F：タイは仏教徒が托鉢とか寄付をする文化だからイスラームの喜捨と相まってホスピタリティーが強いところがあると思います。

G：仏教徒が僧に寄付をする文化がありますが、それと同じようなものがタイのヒンドゥー教徒にはあります。仏教を作ったブツダはもともとヒンドゥーの教えも学んでいたの、両教徒は同じものを信仰していると思う。

D についてはまた、部族特有だと思ふ慣習を尋ねた。

D：キリスト教徒なのでクリスマスは祝います。部族の風習としてあげられるのは、村で米を育てて収穫して最初に食べる時にお祝いをします。家族が一丸となってニワトリを料理に出したり盛大な祝い事です。

3-2 文献調査結果

文献調査では、インタビューから得た各宗教の一般的な思想をまとめるとともに、先行研究における各信者のピー信仰と代表的なピー信仰の儀礼についても記述する。

3-2-1. 各宗教の一般的思想

(1) タイの仏教

タイの国民の95%近くは上座部仏教徒である。タイには13世紀スコタイ朝の頃にインドからスリランカを通った南方ルートで伝来した。

・上座部仏教の基本理念

出家をして悟りを開いた者のみが救われるという考えを持つ。また輪廻転生の考えのもと、タンブンという善行を重ねる行為を行うことで来世で幸せな転生が出来ると信じる。タンブンを積むには、寺院への寄付、托鉢、五戒(不殺生戒・不偷盗戒・不邪淫戒・不妄語戒・不飲酒戒)を守る、出家をすることがあり、出家は最もタンブンを積める行為である。タイではすべての仏教徒の男子が出家することを奨励している。憲法では27条で国民の信教の自由が保障されているが、諸宗教の保護者である国王は仏教徒でなければならないと定められている。

ピーとの関連性については『エアスタディーズ 30 タイを知るための72章(第2版)』での津村の記述や津村(2000)の研究で、悪霊ピーを仏法の師でもあるモーナムが祓う儀礼について挙げており、ピーに対する仏教の優位性といった関連性が明らかとなっている。

(2) タイのイスラム教

ムスリムの人口は4.6%およそ300万人であり少数とも言えども無視できない数を占め、マレー系のムスリムが多くマレーシア北部と国境を接するタイ南部地域には全ムスリムの7割が居住している。首都バンコクには人の流入が多くムスリムの2割が居住する。そのほかは各地域に点在している。タイ南部地域はもとはタイと朝貢関係にあったイスラーム王国で、19世紀に入ってラタナコーシン朝の時に併合された背景がある。

・イスラーム教の基本理念

信じるべき六信(神・天使・聖典・預言者・来世・最後の審判)と行うべき五行(信仰告白・礼拝・断食・喜捨・巡礼)を根幹に道徳的規範であるイスラーム法(シャリーア)にのっとった生活を行う。アッラーのみを信仰する一神教である。また、神によって禁止が決定された食品は、不浄で害があるため口にしてはならない。

主なものはシャリーアに基づいた正しい屠殺法以外で殺された動物の肉、死肉、豚、血液、酒などアルコール類であるが聖典の記述には、罪を犯す意図なく、飢えを迫られたものに対してアッラーは寛大で慈悲深いとされる。

イスラーム教は一神教であるため他の信仰を大っぴらに行うことをよしとしない。特に近年ではイスラーム復興運動の影響でその傾向が強くなっているため、イスラーム風に儀礼を行う例も多く見られる。『タイ南部の船霊信仰』ではムスリム漁民のメー・ヤー・ナーン信仰について以前は仏教徒と同じ供養の仕方だったが、儀礼を司る者がイマームへと変化したりコーランの暗唱が行われていることが触れられている。このような適合の仕方もあるれば、小河は具体的に一方で老年層の中にはピー信仰を慣習と捉えイスラームの精霊と同一視する事で自らの行為を正当化するものもいると述べている。

(3) タイのキリスト教

タイのクリスチャンは総人口の 16%でそのおよそ半数ずつをプロテスタントとカトリックで占めている。カトリックはアユタヤ朝時代にヨーロッパ人を通して伝来したケースや、19 世紀以降にプロテスタントの宣教師が中国への伝導の途中に広めたケースなどがあり、タイのキリスト教という外国人の宗教か少数民族の宗教であるという認識がある。北部タイの少数民族がキリスト教を信仰するに至る経緯には民族内の預言や伝承と大きく関わりがあり、神が地上に現れて不正に苦しむ人々を解放するという従来の宗教感と宣教師の到来とを同一視して民族単位での改宗が起こったと考えられている。このような改宗は伝統の否定ではなく民族性の両立が行われている。一戒によればキリスト教は一神教であるためその他の神への信仰は禁じている。

・カレン族について

ミャンマーからタイ、ラオスにかけて居住するカレン族はタイにおいては少数派である。しかし非タイ族の中では中華系に次ぐ人口であり、山岳民族の多くを占める。カレン族はキリスト教徒が多く所属し、プロテスタントのカレン族については『エアスタディーズ 30 タイを知るための 72 章(第 2 版)』で片岡が詳しく説

明しているが、文献でカトリックについての記述があるものはなかった。ピーを信仰するカレン族の社会生活は稲作に起因しており、祖霊に対する崇拜も生活の中心となっている。近年では経済的にも文化的にも社会の変化の波が押し寄せている。

(4) タイのヒンドゥー教(バラモン教)

全人口の 0.1%と、マイノリティーである。インド系移民の流入による影響が大きい。

・ヒンドゥー教の基本

インドが発祥の地であり、バラモン教の教えを引き継ぐ。輪廻、解脱の考えを持ち、土着の神々や信仰携帯を吸収して形成された多神教である。三大神はブラフマー神、ヴィシュヌ神、シヴァ神で、この三神は一体をなすとされる。ここの神のみを信仰する宗派もある(ヴィシュヌ教など)。バラモン教の聖典ヴェーダに影響を受けているものの、明確な聖典や教会制度、開祖は存在せず、インドとその周辺の信仰が時代に伴って変化したものと考えられる。

ヒンドゥー教徒は統一された語を持たず多言語で信仰儀礼形態は地域によって著しく異なる。またカースト(職業、身分)制により、生活形態が異なることや、多神教のうちどの神を信仰するかによっても信仰儀礼の形態に変化を与える。

3-2-2 先行研究におけるピー信仰の儀礼

タイ人はしばしば自然霊への信仰の一環として木を神聖視する。タキアン木に宿るナーン・タキアンは猛猛なため、伐採の際には許しをこう儀式を行う必要がある。このような木は霊性があるため家の材料にするのを避ける人が多い。その一方でチェンマイなどの北部タイでは柱にピーが宿ると考えて信仰する具体的な儀礼も確認できる。

直接的なピーとのやりとりは身体の不調に起因するピーの種類を見極めて呪術師モータムが追い出したり、コンソンが占いや病気を慰撫することが挙げられる。

4. 考察

以上のインタビュー調査結果と文献結果からピー信仰と宗教観の関連について以下の 3 点を考察する。

4-1 仏教との習合

A へのインタビューの中で死生観について、人は生前タンブンを積まないで死後ピー(この場合死霊)になってしまうと述べている。

Aは仏教徒であるが、通常仏教では輪廻転生の一環でピーのような精霊にピー信仰との習合が起こっていることが考えられる。インタビューでは同様の死霊に関する価値観についてB、Cも共に述べていることから仏教儀礼の中にピー信仰の観念が組み込まれているというのはタイ人にとって共通の認識であることと示唆される。

4-2 ムスリムとの習合

文献結果の中で、タイムスリムが慣習の中で超自然的な存在を崇拝する例を挙げたが、これはFの挙げたイスラム教のジンと精霊の性格を持つピーとを結びつけて捉えたものだと考えられる。

ムスリムであるE、Fは共にアッラー以外に信仰を捧げることは考えられないと述べており、他のものを信仰することには否定的な見解を示したことから、少なくとも現代のムスリムの若者にとってのピー信仰は、老年層が宗教との相互補完的な役割を果たす慣習であるというふうなものではないと示唆される。

4-3 キリスト教との関係性

文献で明らかにされているようにキリスト教が本来他の信仰に否定的な見方をするものでありながら、Dが祖霊信仰の考えを示す理由を考察する。カレン族が集団で祖霊信仰を行う背景として、キリスト教の一戒で定められている文言は他の神への信仰の禁止とあるためピーを祖霊と捉え、カレン族はピーを神とは認識しなかったことから部族単位で両方の信仰を実行している可能性がある。

5. 結論

7名のインタビューと文献調査と考察により、若者の持つ宗教観とピーの捉え方が明らかになった。

意識的にピー信仰を行っている例を挙げたのは2名にすぎなかったが、学校やテレビによってピーの話は広がり、全員がホラー映画、ゲームといったエンターテインメントとしてのピーに親しんでいることが確認された。さらに、ピーが守護霊の役割を持つと答えた者はピーの存在を信じていると答える傾向が示された。

宗教とピー信仰との習合についても仏教との関わりがある者は人間が死後にピーになることに触れており、現代タイ社会での仏教儀礼とピー信仰との関わりが明らかになった。仏教の影響はイスラム教、ヒンドゥー教にも寄付行為の中に見出すことができたが、寄付行為とピーとの関連性は不明である。ムスリムのピー信仰との習合は否定的な意見が見られたが同じ神教でもピーを

信仰する文化の中で生きるクリスチャンにはキリスト教の一部に信仰を組み込んで独自の信仰形態を形作っている例も見られた。

ピー信仰をしていると述べたものも、信じている宗教についてピー信仰をあげたものはおらず、宗教とみなしていない。これは関(2014)が述べたように信仰が宗教とは一段違う次元の信仰と位置づけられているということに一致している。

今回英語を用いてインタビューを行ったがピーの事を *phi* と呼ぶ者と *ghost* と呼ぶものに分かれたが、*ghost* についてDは祖霊、守護霊的な性格を説明しており一概に表現の差別化は図れず、ここでもまたピーの曖昧さがあらわれることとなった。

文献結果で得た直接的な自然霊、悪霊への儀礼は北タイ、東北タイ、南部タイといった一部の人々の実践に限定され、都市部出身者が多数を占めた今回のインタビューでは直接的な儀礼の例は少なく、土地柄や職業性に影響されるものであることが確認できた。

6. 終わりに

今回の調査でインタビューの対象者は多様な宗教の信者が対象で大半が都市部で生まれ育った20代から30代の若者だった。そのため限定的な調査で深い認識を調査することができたが、一方でこのインタビュー対象者の発言を全て一般に反映することはピーの多様な姿を追求する調査には相応しくない。今後の研究においてはより多様な年代、地域の出身者に対象を拡大することで、より現代タイ人のピーに対する認識と宗教観の関連性が明らかになるだろう。

インタビュー中にGがインドのピーの話があると話したが、隣接する諸国のピーに類する存在を研究してそれぞれどのような影響が見られるかというのを比較することも今後の研究の展望である。これを調べることで、マレー系の影響を受けたタイムスリムのピー信仰の繋がりが、中国の土地神思想の影響など多様な東南アジアの精霊の姿が見えてくることを期待する。

さらにコロナウイルスの流行でCの述べた寺院に多くの参拝者が訪れているとナショナルジオグラフィック日本版の記事に記載があった。本来このような不可避な自然現象と人間の生活とを結びつける役割をピーが担っていたことを考えると、現在の状況下でのピーとの関係性について考える新たな契機となるだろう。

インタビューに協力していただいた7名とSophiaGEDのPimployさん、新江梨佳先生、廣里恭史教授には深く感謝する。

参考文献

- 青山亨『東南アジアにおけるイスラームへの視点ーイスラームの
普遍性と地域の多様性ー』2006年 3-14 No.43 南太平洋海域調
査研究報告 東南アジアにおけるイスラームの現在
- 綾部真雄編者『エリアスタディーズ30タイを知るための72章(第
2版)』明石書店2014年7月25日
p.178 津村文彦「祖霊信仰とシャーマニズム」
p.185 小河久志「ムスリムの信仰生活」
p.189 片岡樹「クリスチャンの信仰世界」
- 飯島茂『タイ北部におけるカレン族の変容』京都大学東南アジア
地域研究研究所1965年2巻4号
- 石川栄吉 他著『文化人類学事典』弘文堂1977年初版引用
- 梶原景昭『北タイ祖霊信仰覚え書き』東洋文化研究所紀要 1983年
11月
- 片岡樹『南タイ・プーケットのババ文化にみる土地神崇拜』
Field+2009年7月 no.2
- (一財)自治体国際化協会 シンガポール事務所『ムスリム市場にお
ける販路開拓・拡大及び観光インバウンド誘致に向けて』
Clair Report2020 3-31 No.498
- 関泰子『タイ南部の船霊信仰』立命館国際研究 26-4 2014年3月
- 高井康弘『北タイの守護霊観念と農民家族-ピー・プーヤー儀礼の
事例研究-』1991年37巻2号
- 津村文彦『論文 ナーン・ナークの語るもの-タイ近代国家形成期
の仏教と精霊信仰』2001年1月 アジア経済 43-1, 日本貿易振興
会アジア経済研究所
- 津村文彦『善霊と悪霊のはざま-タイ東北部の村落守護霊をめぐっ
て-』2011年 2011-40号 東南アジア-歴史と文化-
- 林行夫『東北タイ・ドンデーン村葬儀をめぐるブン(功德)と社会関
係』1986年1月 DD ニューズレター(1986)24:35-56
- 福浦一男『精霊憑依のコミュニティ-北タイ, チェンマイの基柱の
守護精霊を崇拝する 霊媒集団とその宗教実践』2009年12月
人文學報(2009), 98: 229-267
- Erick White『首都バンコクにおけるヒンドゥー教の舞台:都市部タイ
仏教徒空間の儀礼的スペクタクルと宗教多元主義 | Kyoto
Review of Southeast Asia』2016 3月 issue19, Kyoto Review of
Southeast Asia
<https://kyotoreview.org/> 日 本 語 /staging-hinduism-buddhist-
bangkok-ja/
- 祖霊信仰とキリスト教者 <https://www.wordofffe.jp/bible-967/>

風水とコロナ対策から見るシンガポール — 政府と国民の関係性とは —

成城学園高校 2 年 梅原 里緒

1. 背景と目的

1-1 はじめに

2020 年 8 月 9 日、シンガポールは独立記念 55 周年を迎えた。街を歩いているとあちこちでシンガポール国旗を見かけ、戦後最大の危機と言われている新型コロナウイルスの真只中でお祝いムードを感じられた。街中が赤と白のポスターやプロジェクションマッピングで染まり、私も実際に戦闘機パレードの予行練習を見ることができ、久しぶりの華やかな街の様子に胸が高鳴ったのを覚えている。

私は 1 月 3 日から 11 ヶ月間シンガポールで暮らした。父の仕事に帯同するという形ではあったが私立の現地校に通い一年間の留学をすることができた。転勤を告げられた当初、私はシンガポールへ行くことに期待はしていなかった。なぜなら日本の学校はとても楽しく、部活も勉強も交友関係においても充実していたためそれ以上を望んでいたわけでも、抜け出したいと思う事もなかったからだ。休みの日は友達とどこか遊びに行き、長期休みになれば旅行に行っていた日常に満足していた。しかしながら帯同という事であるため仕方なく渋々着いていってみると、シンガポールはとんでもない国であった。一瞬にして私はシンガポールという国の虜になったのであった。

様々な文化が共生しているシンガポール。当たり前で違う言語が色んな方面から聞こえてくる。右手には長屋のように連なるオレンジ色の屋根の一軒家が立ち並ぶ昔ながらの風景、左手には上へ上へと伸びた高層ビル群。草や花、木々や公園、とにかく緑で囲まれた街並み。キラキラと輝く近未来的なショッピングセンターがあるのに対して、公共マンションの下にあるとても綺麗とは言えない屋台村。面白いもので溢れていて私の興味のアンテナは一つでは収まりきらなかった。正直に言うと私はシンガポールを舐めていたのだろう。これほどまでに毎日が非日常的で新しい発見で溢れ、外を歩いているだけで楽しい日々を送れるなんて微塵も思っていなかった。

残念な事にこの一年間は自由に行動が出来る事は少なかった。だがコロナだったからこそ見えた側面も多かったと感じる。今では落ち着いたが 3 月から 6 月にかけてのシンガポールの新型コロナ

ウイルス感染者は増えるばかりであった。私はあの時現地で体験した政府の対策、努力、まとめ方、リーダー性、そして国民の信頼具合、全てにおいて感心したのであった。

私の留学生活は丸々コロナウイルスというパンデミックと被ってしまったが、この一年間を思いきり楽しみ、毎日を充実させることができたと思う。高校生という多感な時期にシンガポールで過ごし、数ヶ月という短さでも 5 年、10 年と長く慣れたわけでもなく一年間という限られた時間の中で私が感じたものは貴重な資料になるのではないか。私の中で留めておくのはもったいないのではないだろうか。そう思ったのが論文をかくきっかけとなった。

私は当初東南アジアに興味がなかったから、シンガポールへ行くことにも期待をしていなかったのだと思う。だが、実際に行ってみるととても素晴らしい所であったと気付くことができた。残念ながら昔の私のような興味のない人は世の中に沢山いるだろう。そのような方々にもこの国の楽しさ、魅力を伝えぜひ興味を持って見て欲しい。そしてあわよくばシンガポールに行ってみて欲しい。これが論文を書いている理由の一つだ。1 人でも多くの人にシンガポールについて知ってもらえればこの論文の目的は達成できると言えるだろう。

1-2 問題提議

「シンガポール」と言えばあの大きな船が乗った今にも倒れそうな角度で立つホテルマリーナベイサンズを思い浮かべ、近未来的な国だと思う人は少なくないかも知れない。だがこの国は 1965 年までマレーシアの一部であった。そしてその年に独立したのであった。独立と言っても自ら抜け出そうという革命のようなものではなく、突然マレーシアから追放され必然的に独立するしかなかったのだ。1965 年といえば日本はすでに戦後から復活し高度経済成長期真只中だっただろう。そんな時、シンガポールはマレーシアから切り離されどん底にいたのだ。今でこそ観光地としても人気があり、2018 年は年間約 1,850 万人もの観光客が来ていた。劇場版「名探偵コナン」の舞台や大成建設の cm、映画「コンフィデンスマン」の舞台など様々な所で日本でも見かける事が多いのではないだろうか。独立当時、「水も資源もないシンガポール

が独立などして生き残れるのか」初代首相リークアンユー氏がそう涙を流しながらマレーシアとの分裂を国民に報告したのは有名な話だ。辛かった時期を乗り越え都市国家として成長した今、一人当たりのGDP 64,579と世界8位、日本はGDP39,304（世界26位）（2018年）とアジアトップの数値を誇る。シンガポールはたった55年間でここまでどのようにして成長することができたのか。私はそこに注目した。

これまでのシンガポールの経済事情の研究によればそこには建国の父と言われるリークアンユーの考え方が経済発展へと繋がったと言われている。独立から首相を退任するまでのリークアンユー時代の最大の特徴は、人民行動党が政治を独占する体制の下、「経済発展」が最高かつ唯一の国家目標に設定され、政治や社会や文化はそのための手段と考え、あらゆる制度が構築されたことである。と、「物語 シンガポールの歴史」の著者 岩崎育夫氏は述べている。

シンガポールのトップに立ったリークアンユー氏、そしてシンガポール政府が構築した制度、素晴らしい考え方も急速に発展していったシンガポールであるが私は国の発展には引っ張っていくリーダーも大事なことであるけどもそれに加え、国民との関係性が最も重要だと考える。

NHKの調べによると日本国民の3月8日付の内閣支持率は40%が支持、37%が不支持となっている。テレビでの街頭インタビュー、ネットでのつぶやきでは日本の政治に対して批判しているのを見る事が多いがシンガポールでは批判ではなく、むしろ支持する人が多かったと感じた。政府がこれから行う政策を発表すれば素早く従順に対応し、国民がお互いに協力している様子が伺えた。実際に与党への投票率は61.24%で93議席中、83議席を獲得できるほど国民からの支持が厚い。私が実際に感じとれただけでも政府と国民の繋がりは強かった。経済発展を知るには政府と国民の関係性を研究することがキーポイントになるだろう。

また、街を歩いていると独創的でアートのような建物に会うことが多かった。左右対称ではなく不安定。しかも高層ビルや高層マンションでもよくみられるのだ。それはシンガポールがアジア1安全な国と言われているように地震や台風がなく他の災害に見舞われることもないからだ。

そしてこの不安定な左右非対称にはもう一つ理由が隠れていた。どうやらそこには風水が関わっているらしい。風水とは占いの一種で日本では家の中で家具の配置を決める時などで使われることが多い。それをシンガポールでは建物の建設の際に有力な風水師の意見を聞いて建てるそうだ。占い、言い伝え、そう思っていた

が様々な事例がシンガポールには存在し単なる憶測ではないようだ。

この論文の目的は高いリーダーシップ力のある政府、シンガポール国民との繋がり、それに関連する風水を研究し明らかにすることで天然資源が0に等しかったシンガポールがアジアの中心とまで言われるほど繁栄できた理由を紐解くことだ。そしてそれは現在経済成長が停滞している日本の未来の発展に活かせるであろうと私は考える。

2. 研究方法

観察、アンケート、インタビューの3つの方法により調査を行った。

2-1. 観察

新型コロナウイルス流行中に実際にシンガポールにいるということを活かし、自分の目や足を使って動き観察する。

2-1-1. 調査実施年月

2020年1月3日から11月29日までの私がシンガポールにいた全期間を対象とする。

2-1-2. 観察対象

歴史的建築物から人々が住むコンドミニウム、観光名所など建物全般的に観察。

また、シンガポール政府のコロナ対策、それに伴う人々の様子を観察した。

2-2. アンケート

2-2-1. 調査対象と方法

本調査では、シンガポールの人々とシンガポール政府の関係性を知ることを目的に、シンガポール在住の人々を対象にアンケートを実施した。シンガポールに住む外国人は考えが異なるのではないかという仮説を立てたため、シンガポール人に限らず様々な国籍の人からの回答も得た。Googleフォームでアンケートを作成しWhatsApp, Instagram, LINEなどのアプリを通してURLを送信した。その際、「このアンケートは全て統計的に処理され、本研究の目的以外にしようされることは一切ありません」と明記した。また、英語のみでなく日本語版も作成した。

2-2-2 調査内容

①国籍、②性別、③年齢層、④職業、⑤外国在住歴の有無、⑥シンガポール政府を支持するか、⑦シンガポール政府に不満はあるか、⑧シンガポール政府の新型コロナウイルス対策に満足しているか、⑨人数制限を設けたことに対して賛成か、⑩マスク着用への強制に賛成か、⑪SafeEntryのシステムに賛成か、⑫国境封鎖を実施したことに対して賛成か、⑬シンガポールの罰金制度に賛成かであった。なお、⑥以下の質問では理由も併せて回答してもらった。理由は、自由記述と選択制の2通りがあり問題によって違う。選択制の際には、「その他」の欄を設け自由記述とした。

2-3 インタビュー

2-3-1 調査実施日

2020年11月21日午後

2-3-2 調査風景

場所はチャイナタウンのチャイナタウンコンプレックス2階のホーカー。タイ料理を囲みながら、堅い雰囲気ではなく食事中の会話の中で行った。

2-3-3 調査対象者

以下の3人にインタビューを実施した。

- ①20代のフィリピン人女性の英語科教師
- ②40代のマレーシア人女性の理数科教師
- ③②のご主人のシンガポール人の方。シンガポールで警察官として働いている。

なお、教師の2人の方は一年ほど私の授業を担当してもらった仲の良い方々であるが、③のご主人の方は初対面であった。

2-3-4 調査内容

3人には「シンガポール政府についてどう思うか」についての意見を聞かせてもらった。

3. 結果と考察

3-1 風水と建物

来星して約3週間後、母とマーライオンへ観光をしに行った。私は2年ぶりに訪れたため特に何か不思議に思うことはなかったが、23年ぶりに来た母が「なんとなくマーライオンが違うところがあったような」と言い出した。母の遠い昔の記憶であり場所が変わ

ることなどはありえないと始めは気にしていなかったが、当時の旅行の写真を見てみるとそれは目を疑うものであった。そこには今では見ることのできない角度からのマーライオンの後ろ姿が映っており、位置が変わったことは事実であったと判明した。

詳しく調べてみるとどうやら「風水」が関わっているという記事をインターネットで見つけることができた。しかもマーライオンだけではなく、他の有名な建物、身近な建物、学校の周辺でも「風水」が関わっているものがあると分かり、シンガポールという国全体と何か結びつけがあるのではないかと仮説を立てた。

ここでは実際に自分の目で観察した結果を元に、風水とは果たしてどのようなものなのか、どうシンガポールと関わっているのかをまとめていく。

3-1-1 風水とは

そもそも風水とは、〈家相〉と〈墓相〉とのみ理解されがちだが、それらを統合した思考体系であり、なおかつ環境評価としての〈地相〉や都市計画プランとしての〈立地論〉や、山水画の〈美学〉、日本庭園の〈造園法〉、いたばれ家屋内の家具配置や人の寝かたまでも解くことのできる動態理論なのである。と、「風水思想と東アジア」の著者 渡邊よし雄はいう。本を読むと風水にも各国によっていろいろ種類があるのだと私は理解した。

「中国でいう風水とは、目に見えざる〈気〉の動きを可視的な地上の現象（風や水など）によって判断し、人間生活〈気〉のもたらす吉福が及ぶよう、生活（造形）空間を整えること」だと説明されている。中国から影響を受けていることが多いシンガポールではこの「中国風水」が根付いているのではないかと私は考える。

3-1-2 シンガポールの建物と風水

1) マーライオン

シンガポールといえば、マーライオン。悲しいことに昔は世界三大ガッカリスポットと言われていたそうだ。私も世界遺産だとばかり思っていたが違うと知り、大変驚いた。上半身がライオンで下半身は魚という謎の生物。マーライオンはシンガポールという国の名前の由来にもなったとされている。マレー語でシンガポールのことをシンガプーラ（Shingapura）といい意味はライオン街。

私はシンガポール国立ミュージアムへ行き、シンガポールの歴史についてのガイダンスを聞いた。11世紀、マレーシア王族が対岸に見える大地を目指して航海に出発したが海は激しく荒れ持っていた王冠を海に投げ捨てたところ、海は静まり大地へとたどり

着いた。その時ライオンが現れて王族に大地を治めることを許可し立ち去った。そこから、王族はライオンの街 Shingapura と名付け、マーライオンを国の守り神としたという伝説がある。下半身の魚は古代都市テマセックを象徴したものだ。

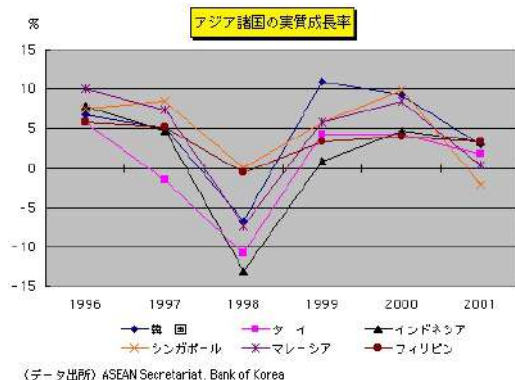
1972年：初代マーライオンはシンガポール川河口アンダーソン橋に作られた。当初から水を常時吹き出す設計であった。今と違い、周りが崖で囲まれていたため、正面から写真を撮るのは難しいものであった。それが理由で考世界三大ガッカリと言われるようになったのではないかと考えられる。

1997年：マーライオンを遮るようにエスプラネード橋が完成。これと同時に起こったのがアジア通貨危機だ。実は「水」というのは風水界で「金運」、橋というのは「火」を表されているらしく、橋を建てたことによりマーライオンが呼ぶ金運の力を遮っているとのことだった。エスプラネード橋建設直後のシンガポールの実質成長率は1997年から1998年で8%ほど下がっていることがわかる。(グラフ1)

2001年：建国以来最悪の成長率となる。

2002年：ついにマーライオンは現在の位置へと移設される。現在のマーライオンは東に向かって水を吐き出しているが、東は「繁栄」を意味する。前年に建国以来最悪の成長率となったシンガポールであったが移設した2002年では4.2%のプラス成長となり、以降2007年までプラス成長を続けた。(グラフ2)

グラフ1：アジア諸国の実質成長率



グラフ2：シンガポールの経済成長率推移



2) ホテルマリーナベイサンズ

冒頭でも紹介したシンガポールのランドマークマリーナベイサンズにも風水を考慮し、建てられたという話がある。

マリーナベイサンズは豊かな気の強い流れが交わる所に建設され、シンガポールの金融街に向かっており、街とホテルに吉兆とされている。建物全体を横から見た時に漢字の「入」という形に見える。これも風水的にはとても良いとされるらしい。(写真1)

先ほども述べたように水には金運があるとされ、マリーナベイサンズは目の前に湾が広がり屋上には大プール、地下にあるショッピングモールには水路が張り巡らされ、水で囲まれている。

最上階のインフィニティプールは巨大な山の頂上にある湖を表現し、環境との調和をもたらすと考えられている。

ショッピングモール内は吹き抜けになっており、水路からくる金運で全ての店舗が繁栄するようという願いもあるそうだ。中には天井から水が落ちてくる逆噴水もあり、金運効果が抜群だ。(写真2) また、サンズ内のカジノエリアでは机の配置、ディーラーの立ち位置、立つ向きと金運が上がるように細かく設計されている。

マリーナベイサンズの前にある歩行者が通れるヘリックス・ブリッジは逆方向にらせんを描く曲線デザインで設計されているが、これも「人生と継続性」「再生」「無限の富」「成長」を表現し、マリーナ・ベイに富と幸福と繁栄をもたらすとされている。

サンズグループの1つアートサイエンスミュージアムは2011年に開業した博物館だ。独創的なデザインは蓮の花をモチーフとし、10本の指でイメージして建築された。「シンガポールの歓迎の手」とも言われる。屋根に穴が空いており、サンズ内のショッピングモールのように水が流れ落ちてくる仕組みになっている。



写真1

写真2

3) シンガポールフライヤー

シンガポールにはアジア最大の観覧車シンガポールフライヤーがある。シンガポールを360度から一望でき、観光客に人気のスポットだ。

2008年に開業したのはいいものの、わずか3ヶ月で再工事を行い回転する向きを変えたという伝説がある。2008年といえばリーマンショックが起きた年であるが、大打撃を受けた。そこで風水師が診断したところ観覧車の回転する向きが外向きになっており、「このままでは富や幸運がこの街から逃げていく」と判断し、急遽何千万円もの莫大な費用をかけ回転方向を内側にした。そうすることで金運をシンガポールに呼び込むようにした。

グラフ2でもわかるように実際に2008年後の経済成長率は目覚ましく上がっている。

4) サンテックシティ周辺

① 富の泉

世界最大の噴水である「富の泉」があるサンテックシティはパワースポットとして名高い。やはりこれも「水」を吹き出す噴水は金運を呼ぶとされ建てられた。だがそれに加え、この「富の泉」は5本の指に見立てられた5つの高層ビルに囲まれておりちょうど手の平に位置する噴水が金運を掴むとされている。5つの高層ビルは確かに空を指さすかのように見えた。(写真3,4)



写真3



写真4

② コンラッド・センテニアル・シンガポール

富の泉の目の前にあるこのホテルは外観に圧倒される。13と思いきり書かれたデザインをしており、31階のホテルであるようだ。先行研究によると13という数字は風水的に縁起が良いことがわかった。遠くから写した写真でもこのホテルは目に付く。(写真5,6)



写真5



写真6

5) 数字の8

風水において、8という数字は大変縁起の良い数字だということが調査により明らかになった。八角形の図形や角度であると全ての方向からエネルギーを引き寄せられる形とされ建築にとりいれられているようだ。また、中国人にとって「安らかな繁栄」という意味で縁起が良いとされる。実際に中国人の複数の知り合いに確認をとってみると事実であった。

① マリーナベイサンズ

マリーナベイサンズタワー1の傾斜角度は26度であり、2と6を足すと数字の8となる。

② シンガポールフライヤー

完成したのが2008年8月であり、ゴンドラ数は全部で28個、それぞれの最大定員数は28人。そして高さは280m。

③ 硬貨

シンガポールにも東京や大阪ほどではないが地下鉄が張り巡らされ、今も工事を続けている。そこでもまた、線路が「龍脈」と呼ばれるものを分断していると風水師に警告された。

政府はその対策として、コインの内側に八角形を取り入れた1ドル硬貨を作った。中国には「厄」を跳ね返し「吉」を集めたりする効果の「八掛鏡」と呼ばれるものがあるそうだが多民族国家であるシンガポールで全家庭に置くのは難しいため全員が持ち歩ける硬貨に取り入れたようだ。初代首相リークアンユーが国民1人1人が持つことでシンガポールは隆盛し続けるとの僧侶にアドバイスされ作ったことが分かった。

④ ホテルリッツカールトンシンガポール

5つ星ホテルリッツカールトン。ここもまた風水を用いたデザインを採用している。バスルームからはマリーナベイサンズや、夜になるとシンガポールフライヤーと金融街がライトアップしたキラキラした夜景が見え観光客に人気だ。そのバスルームにある窓は八角形になっており幸運の窓と言われている。(写真7)

またホテル内の金の手すりは運氣上昇、メインの大きなドアを通り抜ける風は幸運、メインロビーの円錐状のアートは「火」で生命力を表すように設計された。



写真7

⑤ 街の建物

実際に街を歩いていると角のない建物、つまり上から見ると八角形の建物を街の至る所で見た。道に面している建物は特にそのような設計をされており、角が取れた部分が建物の入り口になっている。(写真8,9,10,11)

また、金融街にあるいくつかのビルはシンガポール川の水に囲まれた土の要素を表現し、透明な長方形に作られたと言われている。



写真8



写真9



写真10



写真11

有名な建築物だけでなくシンガポールにある様々なものが8ということに拘っていることが分かった。

6) その他の建物

① コンドミニウム

主に外国人が住むコンドミニウムには建物の中間辺が吹き抜けになっていることがほとんどであった。この穴というのは「龍の通り道」と呼ばれるもので、幸運のシンボルである龍が滞ることなく通れることで運氣が上がるそうだと。(写真12)

また、4)での8という数字がラッキーナンバーであるように8のつく部屋や階は購入されるのが早いそうだと。シンガポールの人々も風水を意識している事がののわかる。



写真12

② ブギス方面

若者向けのお洒落なトレンドが集まるブギスは私が毎日学校のために通った場所だ。ここにある3つの建物が風水を取り入れて建築したそうだと。

その3つとはザ・ゲートウェイ、ラッフルズ・シティ、OCBCセンター。ザ・ゲートウェイは平面で見ると漢字の「八」、ラッフルズ・シティは平面で見ると吉兆を意味する「卍」、OCBCセンターは立面がお金を象徴する「貝」の字になっている。

ザ・ゲートウェイはとても鋭い形をした建物で風水的に向かいの敷地に悪い気をもたらす。そのため、政治的な要因とともにその敷地は長い間、放置されていたが、2017年に曲線を用いる事で悪運を流すということで側面がカーブした建物が完成した。(写真13)



写真13

③オーチャードロード

シンガポール1の繁華街として栄えるオーチャードロードは場所自体が強力な風水の力が働いている。このエリアの水流の方向は繁栄を好む方位であるとされている。

また、オーチャードロードのビルや建物は「五行説」という風水に強い影響を持つ考え方がもとで建設された。五行説には「木・火・土・金・水」という5種類のエネルギーがバランスを取り偏りがないように調節することが必要という考え方で、互いに生かし合う関係と抑え合う関係の2種類で成り立つ。

オーチャードにある Tangs,Ngee Ann city,ION orchard,Wheelock place,Shaw House の5つの建物がそれぞれの5種類のエネルギーの役割を担っている。

3-1-3. シンガポールと風水

建国の父リークアンユーが開発させたシンガポールは風水師の意見を大いに取り入れた国であると分かった。また、現代建築やホテル、リゾート施設でも毎年風水師を呼びアドバイスをもらうとのことであった。

中華系シンガポール人は中国名と英語名を持っていることが多いが、英語名は自分でつけることもあり、風水に習いラッキーな英語名に変えてしまう人もいることがわかった。個人の日常からビジネスそして国全体で風水というものを重んじていると私は考える。

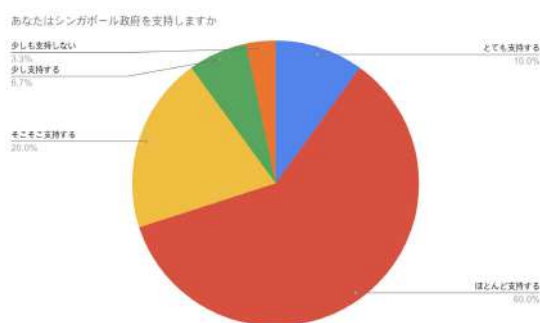
3-2 シンガポール政府と国民の関係性

3-2-1. 国民の政府支持率と不満点

ここではアンケートの質問⑥シンガポール政府を支持するか、⑦シンガポール政府に不満はあるかの回答結果より考察していく。

質問⑥では「とても支持する」「ほとんど支持する」「そこそこ支持する」「少し支持する」「少しも支持しない」の5段階で調査を行った。調査対象者の九割が「そこそこ支持する」以上の結果になった。内訳は以下のグラフに示す。(グラフ3参照)

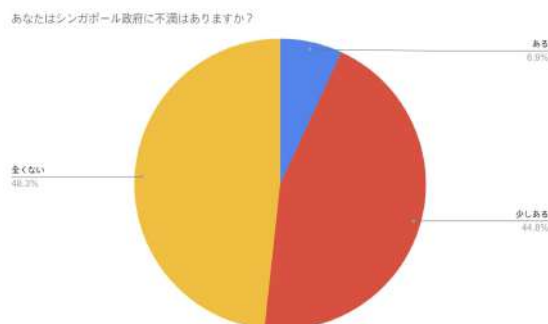
グラフ3：シンガポール政府を支持するか



これより、シンガポール在住の人々は政府に不満は少なく、政府を支持する傾向があると考えられる。

また、質問⑦については「とてもある」「ある」「少しある」「全くない」の4段階で調査を行った。調査対象者の48%が「全くない」45%は「少しある」との回答結果になった。内訳は以下のグラフに示す。(グラフ4参照)

グラフ4：シンガポール政府に不満があるか



理由は主に以下のような回答があった。シンガポール人と外国人では考えが違うのではないかとこの仮説のもと、シンガポール人と外国人に分けた表にまとめた。また、回答者の中に理由が「特になし」との回答があった事に加え、この表では同じ理由の場合省略しているため、意見数と票数は一致しない。(表1参照)

表1：シンガポール政府に対する支持点と不満点

	シンガポール人の意見	外国人の意見
支持する点	<ul style="list-style-type: none"> 外国に比べてよく管理ができていると思う 法と正義は公正で公平である この多文化社会で人種に対する偏見がない 	<ul style="list-style-type: none"> 日本政府比べて行動力がある コロナ対策がしっかりしている 良い政策でコロナの中シンガポールに住む人の生活を守った 環境を考慮している 革新的な技術をもたらす 外国人が安全に暮らせる 仕事を確保してくれる 政策の実施が素早い 汚職のないクリーンな政治家たち 世界で1番上手く組織された国だと思う 治安がよく生活しやすい
不満点	<ul style="list-style-type: none"> 少数派、外国人が利益を得られていないから 独裁政治である 人権が確保されていない 競争的な教育制度がストレス ガムでさえ売られないのが不思議 野党と与党の違いがあって平等でない 	<ul style="list-style-type: none"> 厳しいから 収入に差があるから ルールが多く自由がない PRの許可が厳しい DPでの労働が禁止な点 とても厳しいルールがある 非人間的な罰がある

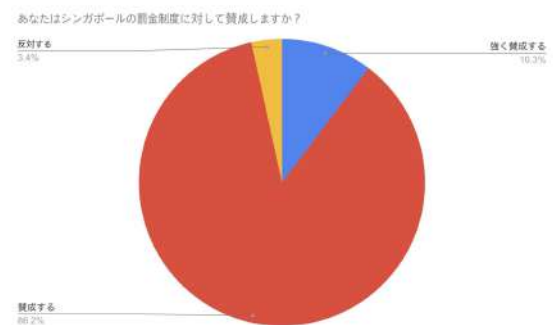
表1より、シンガポール人も外国人もシンガポール政府は他国に比べて良いと考えていることがわかった。また、政府のコロナ対策に対して高く評価している点も分かる。

治安が良く安全な国との回答があるがシンガポールでの犯罪は本当に少ない。

外国人とシンガポール人では考えが違わないかという仮説は一部立証できた。このデータによると、2つの意見があると分かる。1つ目は外国人でも仕事を確保してくれるという政府を支持する意見。それに対して、シンガポール人は外国人に利益がないようだと感じている点や、外国人はDPといわれる就労ビザやPSというシンガポール永住権取得に関してなどの不満もある。やはり外国人が暮らしやすい国ではあるが一定の優先権はシンガポール人にあるようだ。

不満点で目立つ意見はルールが厳しく、自由がないとのことだった。シンガポールではシビアな教育制度や環境を保つために決まりが多く存在し、またそれを破ると厳しい罰をも受けなくては行けない。罰金制度がその一例であるが、国民がどのように思っているか次のグラフにまとめた。(グラフ5参照)

グラフ5：シンガポールの罰金制度に対して賛成するか



驚くことに30人中29人が罰金制度に「強く賛成する」もしくは「賛成する」との回答だった。回答者は「人々が法を破らない効果がある」「コロナウイルスの感染抑制にもつながる」との考えであったが、同時に「少し厳しすぎる」との意見もあった。厳しいとの声はシンガポール人からも外国人からもでた意見であった。

私の住んだ一年間ではコロナ対策のため様々なルールやシステムが置かれた。次はそこから見えた政府と国民の関係性を見ていく。

3-2-2 コロナ対策から見える国民性

1) コロナ対策の賛成度

アンケートでは今まで行ってきた政府のコロナ対策に対して賛成かどうかを聞いた。その結果を分析をする前にシンガポール政府が行ったコロナ対策を時間経過とともにまとめる。

シンガポール政府は主にサーキットブレーカーと呼ばれる政策を実施した。これはグルグル回る感染拡大の循環を断ち切り、新感染者を減らすという意味合いで名付けられたものだ。イギリスやアメリカのロックダウンとは違うものであると政府は表明している。フェーズ1、2、3、4と段階分けされており、6月1日から6月18日までフェーズ1。6月19日から12月27日までフェーズ2。12月28日より1段階上げフェーズ3となった。

なお、サーキットブレーカーの内の4つの政策を取り上げアンケートを実施した。

- ①人々が集まる際の人数制限
- ②マスク着用の強制
- ③SafeEntry と呼ばれる入退場記録システム
- ④国境の封鎖

このパンデミックの中、在住していた視点よりもまずはそれぞれの政策を詳しく見てみるとする。

①人数制限の設置

シンガポールでは一度に集まれる人数が決まっている。6月19日よりのフェーズ2では5人のみ集まることが許可され、家庭には5人まで訪問者を呼んで良いことになった。

「5人のグループを2つ作り、そこで遊べば良いのでは」という考えのもと遊びに行った子供達は、密告され72時間以内にその子供だけでなく家族までシンガポールから出ていかなければならなくなった話を聞いた。どれほどシンガポール政府が徹底し、国民も一緒に協力しあっているのが良くわかる事例であるだろう。

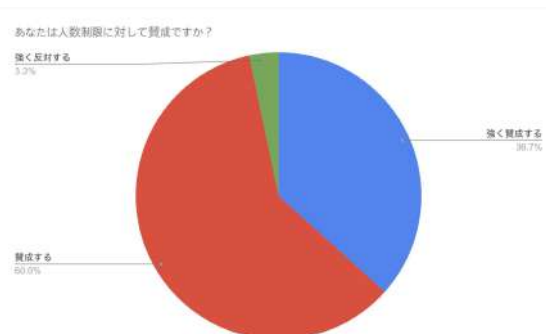
12月28日以降のフェーズ3では5人までであったところが、8人まで引き上げられた。

タクシーではタクシーの大きさにより、人数制限がかけられた。私の経験では、来たタクシーが小さかったため、家族4人で乗ることができず2台に分けて乗車した。タクシー運転手の妥協することのない姿にも感心した。

学校にはシンガポール保健省が抜き打ちできちんとソーシャルディスタンスの決まりを守っているか調査をしにきたことが3回ほどあった。

人数制限に対する賛成度は以下のグラフのようにになっている(グラフ6参照)

グラフ6：コロナ対策での人数制限に対して賛成するか



グラフより大半が賛成するとの結果になったことが分かる。賛成度は97%となった。

実際に感染者が減っていると実感している人や、この人数制限を行わなければ、感染者は増えると懸念の声があった。

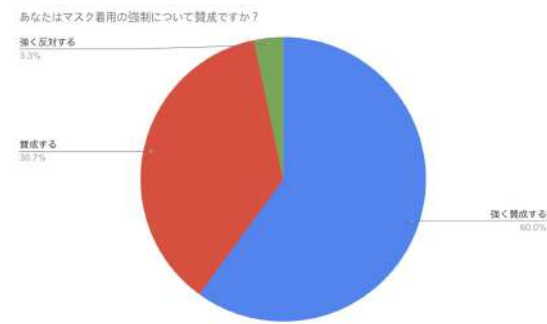
②マスク着用の強制

2月当初、政府は「病気の場合のみマスクを着用し、健康な人はむしろつけない」としており、私も付けていなかった。その後、病気や風邪のために各家庭4枚ずつマスクが政府から配布された。3月上旬に1000人を対象とした調査で常にマスクをしていたのはわずか6%であったようだ。しかし4月14日からマスク着用の義務化がされ、家を出るその瞬間からつけなければいけなくなった。

「少しマンションの下まで」などが通用しないのだ。屋外で激しい運動をしている時などはマスクをしなくて良いと考慮された面もあったが、私は少しの休憩ということでランニングをやめて歩いていた際に警察官に呼び止められた経験がある。また、学校の友達が登校時にマスクをつけ忘れたまま電車に乗ってしまったが、「誰にも注意されなかった」と、興奮しながら全クラスメイトに話していたこともあった。特に公共機関でマスクをつけていない人がいた場合、写真を撮られ報告されることもある。私の学校にもつけていない生徒がいたとの注意が来たことがあった。国民同士で意識を高め合っていく姿に私は驚いた。日本で密告をすることまであるのだろうかとは疑問に思った。マスクを着用していないで取り締まりをされた場合、罰金刑が課される。

マスク着用に対する賛成度は以下のグラフのようにになっている(グラフ7)

グラフ7：コロナ対策でのマスク着用の強制について賛成するか



ほとんどが「強く賛成する」もしくは「賛成する」との回答結果になった。このように回答した理由は「効果を実感したから」が一番多かった。

③ SafeEntry と呼ばれる入退場記録システム

シンガポールでは現在もビルや駅、お店、ありとあらゆる入り口に QR コードが設置されている。人々は通過する際にこの QR コードを読み取りマイナンバーの用なそれぞれに与えられている個人番号と携帯の電話番号を打ち込み位置情報を政府へ送信する。私の場合は長期滞在ビザの番号であった。

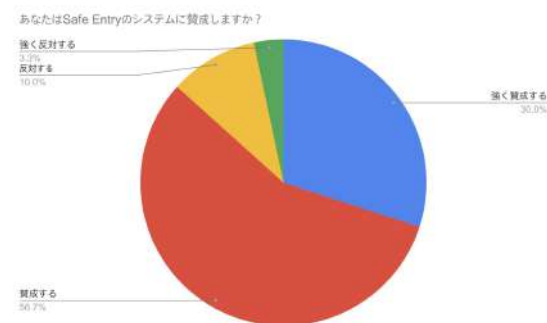
人の通過が多い地点では係の人に SafeEntry の記録をした携帯の画面を表示し、通過できる。検温もその際同時に行う。

スマートフォンを持っていない子供や高齢者にはトークンと呼ばれる携帯型の追跡機器を持ち歩くことを促された。2020年9月14日からはこの追跡機器を全ての人（外国人含む）を対象に無料配布を行なった。

また、私の学校では学校の入り口のみならず入室する教室ごとに SafeEntry を行っていた。

SafeEntry システムに対する賛成度は以下のグラフのようにになっている。（グラフ8参照）

グラフ8：コロナ対策での Safe Entry のシステムに賛成するか



賛成が 87%と多くの方が「強く賛成する」「賛成する」との回答であった。

「強く賛成する」「賛成する」と回答した人は、「感染抑制の効果を実感できるから」との理由が多かった。それに対し、「反対する」と回答した人は「プライバシーの侵害である」「ストレスを感じる」との理由であった。

この safeEntry システムはシンガポールの経済に打撃を与えているのではないかと私は考える。例えば、ショッピングモールや街中で気になるお店を見つけたとする。購入にはいたらないが見てみたいと思ってもわざわざ QR コードを読み取り、番号を打ち込み送信し、係のものに表示するという一連の作業を行う必要がある。これは「買うつもりはなかったただ見るだけなのにそこまでしてなくていいか」と躊躇してしまう客も多いのではないかと考える。

④ 国境の封鎖

シンガポール政府は早期に国境を閉ざし感染拡大を防いだ。現在は入国する際に政府に事前に申請し、承認を得たのち許可証を受け取らなくてはいけないなどの制限がある。（表2参照）

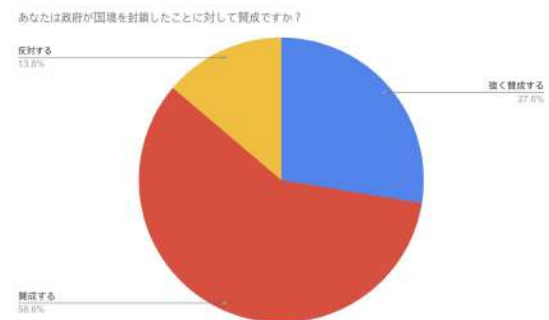
表2：シンガポールにおける入国制限

日時	入国制限
2020/3/23	全ての短期滞在者は入国、経路不可 全ての長期ビザ保有者は政府機関からの事前承認が必要
2020/6/2	シンガポールチャンギ空港での48時間以内のトランジットが許可（承認された都市間のみ）
2020/9/18	行動範囲を限定したビジネス活動目的の入国可能なビジネストラック※1を開始

※1 ビジネストラックは「いつ、どこで、誰と会うか」を明記した行動計画を事前に登録する。

国境の封鎖に対する賛成度は以下のグラフに示した。（グラフ9参照）

グラフ9：コロナ対策での国境封鎖に賛成するか



「強く賛成する」「賛成する」と回答した人は合計 86%、「反対する」と回答した人は14%、「強く反対する」は0%という結果になった。86%に値する賛成すると回答した全ての人は感染抑制につながっているという理由であった。

2) 政府と国民の観察結果

ここでは、私が一年間シンガポールに在住しながら観察した政府と街の様子をまとめる。

①リーシェンロン首相のスピーチ

シンガポール首相のリーシェンロン首相は3月12日に二度目のスピーチを行い、コロナウイルスと一年以上付き合っていく覚悟を持たなければいけないと国民に示した。また、コロナウイルスショックに対し40億円を予算としていたが、さらに増やすことも検討していると発表。この時期というのはちょうど一年前でもあり、日本に比べてとても具体的な政策を出しており、頼れる国だと私は実感した。

4月3日金曜日の三度目の首相のスピーチは学校から帰宅し、リアルタイムで聞いた。

印象的な内容は次の週からの学校封鎖そしてオンライン学習に移行すること、買い溜めは不要であること、マスク着用の義務化、外食の禁止であった。この前日会見をする予定を発表した際、国民はロックダウンを予想しスーパーへ駆け込んでいた。特にスパゲティなどの食料品、トイレトペーパー、ティッシュが棚から無くなった。私もオンライン学習のため、急遽パソコンを買いに走ったがすでに遅く、5件の電気屋を回った。リー首相は英語、中国語、マレー語の3カ国で会見をされ、英語は簡単な英語を使いゆっくり話されており、私の英語力でも大変聞き取りやすかった。国民に優しく語りかけ、国を引っ張るリーダーの凄さを知った。

4月21日火曜日の四度目のスピーチでは症状の有無関係なく検査をしっかりしていること、外国人労働者への対応をサポートすることについて強調して説明されていた。また感染者を一桁、もしくは0にまでするという目標をしっかりと国民に示し、感染者を減らすために買い物へは1人で行くようにとの指示もあった。政府の徹底して減らしていくという意志の強さや国民が安心できるように頑張っている事を感じることができた。

②世間の様子

シンガポールの人々には外食の文化が根強くある。まず実感したのは家のキッチンが狭すぎることであった(写真14)。不動産の人に話を聞くと、シンガポールの人は家で食事を作らないそうだ。

日本と違い性別関係なく食事を作る時間があるのならば仕事をしてお金を貯めるという精神である。フードコートやホーカーと呼ばれる屋台村が栄えているのもビジネスマンやご老人の方などがそこで多く食事をするに加え、街の人が朝昼晩と利用するからであろう。私が登校する時間帯にはカフェやホーカー、お店がすでにオープンされており、人々が朝食をとっている光景をよく見た(写真15)。そのような人々がこのコロナの中、外食ができず、家にこもっていたと考えるとコロナに対しての国民の徹底された様子が伺える。

リーシェンロン首相がサーキットブレーカーを実施すると発表した2日後には学校のオンライン授業の体制は整っており素早い国民の動きに驚いた。もちろん私だけでなく、父の会社のリモートワーク、弟や友達の学校も全て対応できていた。日本ではipadを配布していたのにも関わらず一方的に課題を送信するだけや、特に機器を配っていない学校は何もできず、休校が続いたという話もよく聞いた。

また政府は仕事が無くなって生活ができない人に対しては、(1)で説明した SafeEntry の確認係としての仕事を与えたり、観光業であるホテル業界に政府から資金を送り、感染者を泊まらせるなど上手く経済を回していた。



写真 14



写真 15

3) インタビュー結果

以下の表が「シンガポール政府についてどう思うか」に関するインタビュー結果をまとめたものだ。(表3参照)

表3：シンガポール政府についてどう思うか

①フィリピン人 英語科教師	<ul style="list-style-type: none"> ● コロナ対策を上手くやっていると思う ● 就労ビザを取るのが大変だが他の国よりは働きやすい ● 早期に国境を閉ざしたことにより自分の国に帰れないが感染者を抑えられているため効果があると思う
②マレーシア人 理科教師	<ul style="list-style-type: none"> ● シンガポール人だけでなく外国人の面倒も見てくれるためありがたい ● シンガポールが世界で一番いい場所である
③シンガポール人 警察官	<ul style="list-style-type: none"> ● 他の国に比べ上手く管理していて良い政府だと思っている ● 自分たちは利益があるが外国人利点がないことが不満

※英語から日本語に翻訳したため、多少のニュアンスの違いがある可能性がある。

表でもわかるように3人も多少の不満はあってもそれ以上にシンガポール政府を支持している様子が伺えた。

4. 結論

当初風水が建物などに関わっているなどという話を聞いた際、迷信や偶然であると疑っていたがこれほど数々の証拠を見ると、シンガポール政府が本当に風水を重要視していることを理解できる。そして、国のシンボルであるマライオンなど歴史的な建物であるのに国民からの反対運動があったわけでもないことからシンガポール国民は風水の考え方に納得しているのだと私は捉えた。これだけの多くの身近な建物が風水を考慮して建てられているため、シンガポールの全ての建物は基本的に風水に絡めているのではないかという新しい仮説も私の中で生まれた。実際に偶然かもしれないが風水の考え方にあわせ、物事を進めることで効果があったシンガポールはこれからも風水を重んじることは止めないだろう。

この一年間、トップであるリーシェンロン首相の素晴らしいリーダーシップ性に加え、国を信頼をしている国民の努力により感染抑制を成功させるのを真近で見てきた。きっと独立してからの55年間間のようにお互いが信頼し合った結果、苦難を乗り越え発展していったのだろう。今日本に必要なのは、国と国民の信頼だ。新しいコロナ対策案を出す前に政治家が汚職などをせず、しっかり国民と向き合っているのだというアピールをして信頼を獲得する事ができたらより良い未来が待っているだろう。

5. 今後の課題と展望

今回の論文を書くにあたって調査しきれなかった部分が残りの中で2つの仮説が生まれた。

仮説1：シンガポールでは選挙への参加が義務付けられているがアンケートの中で政府に対する不満を聞いた際に「選挙」について答えた人は0人だった。義務化されていることに対して当たり前だと思っているのかもしれない。

仮説2：国民と風水の関係を詳しく調べることでよりシンガポールの国民性を掴むことができるのではないか。

「政府と国民」「政府と風水」と主に2つのテーマで研究してきたため、「国民と風水」の繋がりを見つけることができなかった。この2つの関係性を知ることで新しい発見をできると思った。

また、私が実施したアンケートでは理由を書いてもうらう際に自由記述にした。これは自分が集計するときに大変な作業であることを学んだ。次からの活動でこの経験を生かしていきたい。

参考文献

<書籍>

- 岩崎育夫(2013)「物語 シンガポールの歴史—エリート開発主義国家の200年—」第4章 リークアンユ時代
渡邊よし雄(1990)「風水思想と東アジア」人文書院

<Youtube>

- TAKA's life Vlog チャンネル 【コロナウイルス】 シンガポールの最新現状について【現地採用Vlog】
TAKA's life Vlog チャンネル 【終息まで1年?!】 シンガポールコロナウイルス最新情報【リーシェンロン首相スピーチ解説 2020.03.12】
TAKA's life Vlog チャンネル 【シンガポールコロナウイルス】 リー首相はまだロックダウンとは言わない 三度目のスピーチ解説 2020年4月3日情報更新【現地採用社員Vlog】
TAKA's life Vlog チャンネル 【シンガポール】 コロナウイルス対策！サーキットブレーカー延長！リーシェンロン首相スピーチ解説！【現地採用社員Vlog】
TAKA's life Vlog チャンネル 【シンガポールコロナ NEWS】 6月19日よりPhase-2へ移行！【2020.06.19更新】【現地採用社員Vlog】

<インターネット>

日本橋夢屋(2020)新型コロナウイルス【アジア】各国の入国制限に関する一覧 (2021年3月12日08:00時点) (2021年3月12日アクセス)

<https://www.tokutenryoko.com/news/passage/6755#singapore> (2021年3月13日アクセス)

接触追跡トークン「TraceTogether」の無料配布 | シンガポールコロナ対策措置、<https://www.singaweblog.com/archives/6972> (2021年3月13日アクセス)

シンガポール現地レポート 2020年6月～シンガポールの新型コロナウイルス対策(その2)～、(2020)

https://www.pref.gunma.jp/07/co01_00009.html#sidr (2021年3月13日アクセス)

林啓一(2020)マスクへの考え方が4月に入って大きく転換、

<https://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/all/report/t344/202004/565040.html> (2021年3月13日アクセス)

能村貴満(2018)“風水の国”シンガポール～街なか歩きで運氣もアップ!?～、

http://www.clair.or.jp/j/forum/forum/pdf_340/12_kaigai.pdf (2020年8月2日アクセス)

Marina Bay Sands (2021)シンガポールの建築に見る風水 | 文化と芸術 | シンガポール観光

<https://jp.marinabaysands.com/singapore-visitors-guide/culture/feng-shui-in-singaporean-architecture.html> (2021年3月14日アクセス)

JTB(2015)シンガポールのパワースポット・観光しながら運氣もアップ!?

https://www.jtb.co.jp/kaigai_guide/report/SG/2015/03/power-spot.html (2020年8月2日アクセス)

AYA KAWAKITA(2019)シンガポールの街-建築と色彩と風水と

<https://www.adfwebmagazine.jp/design/singapore-architecture-color-fengshui/> (2020年8月2日アクセス)

沖縄占い chuchu (2020)風水で作られた国シンガポールはこんな国でした <https://uranai-chuchu.com/singapore/> (2020年8月2日アクセス)

藤堂高直(2015)見え隠れする風水都市、シンガポール

<https://www.asiax.biz/life/16687/> (2020年8月3日アクセス)

シンガポールの風水事情 行くだけで運氣爆上がり! 国全体がパワースポットと言われる所以とは

(2020)<https://natonori.com/2019/09/07/シンガポールは風水>

できている%E3%80%80【知るとおも/ (2020年8月3日アクセス)

マーライオンとは? 歴史・伝説から最新の状況まで

(2020)<http://kankoryokoinfo.com/singapore/merlion-all/#> (2021年3月14日アクセス)

世界の経済のネタ帳

(2020)https://ecodb.net/exec/trans_country.php?type=WEO&=NGDP_RPCH&c1=SG&s=&e= (2021年3月14日アクセス)

外務省(2019)シンガポール共和国 (Republic of Singapore) 基礎データ 12 経済状況

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/singapore/data.html#section4> (2021年3月14日アクセス)

4travel.jp(2014)シンガポール2 マーライオン、マリナ・ベイ・

サンズ <https://4travel.jp/travelogue/10874853> (2021年3月14日アクセス)

The Ritz Carlton(2021)ホテルデザインコンセプト

<https://www.ritzcarlton.com/jp/hotels/singapore/hotel-overview/hotel-design-inspiration> (2021年3月14日アクセス)

旅行観光.com(2013)建築物として見るアートサイエンス・ミュージアム

<https://hyokoukankou.com/singapore/marinabaysandshotel/museum-artscience-kenchiku.html> (2021年3月14日アクセス)

ASEAN 諸国における LCC 就航の現状及び今後の就航の提案

立命館宇治高等学校2年 吉岡 聖都

1. 序論

1-1. 背景

第二次世界大戦終了後の全世界の国際観光客数は、1950 年には 2,500 万人であったのに対し、2000 年には 6 億 9,900 万人に達し、これは世界中で旅する人が 20 世紀後半の 50 年で 30 倍近くに増加した計算であり、「大交流時代」の到来、つまり観光ビッグバン(大爆発)が発生しているといえる(堀川, 2003)。日本でも 1964 年から個人の海外旅行が自由化され、バブルを境に日本人は多くの国へ渡航した。主な渡航先としては、ハワイやグアムなどのバケーション地に加え、パリやロンドン、ニューヨーク、香港などの都市が挙げられている。当時の日本では日本航空(JAL)や全日本空輸(ANA)などの大手航空会社(Full Service Carrier=FSC)が高いシェア率を図るなど、幅を利かしていた。しかし、2010 年に 2 つの航空会社が参入した。それは、中国の春秋航空とマレーシアのエアアジア X だ。当時の FSC(全日本空輸)の運賃は羽田ー香港が約 6 万円であったのに対し、春秋航空の茨城ー上海便の最低運賃は 4000 円、エアアジア X の羽田ークアラルンプール便の最低運賃は 5000 円で、この破格の安さは日本中を驚愕させた(赤井, 2006)。これらの航空会社は格安航空会社と呼ばれ、Low Cost Carrier=LCC として現在では 3 割のシェア率をほこっている(細川, 2019)。LCC はアメリカのサウスウエスト航空が起源とされ、低価格にこだわっている。低価格を提供する方法として、機内食はオプション制、などを行っている(赤井, 2006)。また、ピーチ航空では、段ボール製のチェックイン機や体重計を使った手荷物計測器などを自作にすることによって、開発や設置のコストを抑えるなど、やりくりをしている(井上, 2019)。これらのように、LCC は見えないところで、低価格を実現させている。

1-2. 問題の所在

現在、世界中で航空網が整備されている。特に、昨今の ASEAN は経済発展が著しく、シンガポールやタイのバンコクなどが観光地化し、COVID-19 の発生以前の 2019 年には 1 億 4000 万人を超える人が ASEAN を訪れていた(Moore, 2021)。しかし、ラオスをはじめとした一部の ASEAN 諸国には LCC が就

航しておらず、ASEAN の航空網はまだ発展途上である。FSC と LCC の値段の差は大きく、特に GDP が高くない国の市民からすると大問題だ。

また、現在は新型コロナウイルスの影響により、人の移動が自粛されているため、航空業界は大不振に陥っている。大きな母体がない LCC は特に悲惨で、エアアジアジャパンやジェットスタージャパンも日本から撤退した。しかし、このような中で、2020 年 12 月には、日本航空傘下の LCC として、ZIP AIR Tokyo が羽田ーホノルル便を就航させた。全日本空輸も子会社のピーチ・アビエーションとコードシェア(共同運航)に向け、検討に入ったほか、新たな国際線 LCC を立ち上げようとしている(高尾, 2020)。これらのように、各航空会社はコロナ後を見据え、新たな需要を把握しようと模索している。

1-3. 研究の目的

本研究の目的は、ASEAN 諸国における LCC 就航の現状を検討し、今後の就航にかかる提案を試みることである。コロナ後を見据え、開けない夜はないということで、またいつか世界中で旅行ブームが巻き起こる日を信じて、本研究を今後の航空業界の新規路線開拓の上での一助としたい。

2. 研究方法

本研究では、航空業界や LCC に関する文献調査に加えて、ASEAN への渡航及び飛行機全般や LCC に関しての消費者の動向を知るために、日本の高校生を対象とするアンケート調査、及び ASEAN にルーツがある人を対象とするアンケート調査の 2 つのアンケート調査を実施した。アンケート調査実施に際しては、Sophia Global Education and Discovery Co. Ltd. (Sophia GED) (「せかい探究部」を運営する上智大学がタイのバンコクに設立した教育・研修事業会社)や立命館宇治高等学校の協力を得た。

2-1. 日本の高校生を対象の調査

2021年1月下旬に筆者が通っている、京都府の私立立命館宇治高等学校イマージョン(IM)コースの生徒、計104名を対象にアンケート調査を実施した。

質問の項目は、以下の通りである。

- ①年齢
- ②性別
- ③ASEAN への渡航歴
- ④COVID-19 収束後に行きたい国
- ⑤渡航の目的
- ⑥LCC の使用歴
- ⑦LCC の好きなところ
- ⑧LCC の苦手なところ
- ⑨好む LCC 会社
- ⑩飛行機に求めるもの
- ⑪機内での習慣
- ⑫自宅から空港までのアクセス

を、主に自由記述の形式で記入してもらった。

2-2. ASEAN にルーツがある人を対象の調査

2021年2月下旬から3月上旬にかけて、Sophia GED の Facebook 上で英文のアンケートを実施した。今回の調査では、ASEAN 諸国の人々や在住あるいは旅行経験のある日本人等、ASEAN にルーツがある10人を対象とした。

質問の項目は、以下の通りである。

- ①Nationality
- ②Age
- ③Gender
- ④Living place
- ⑤The countries which have been visited
- ⑥The city which is recommended
- ⑦The recommendation for ⑥
- ⑧The country or city which answerer wants to visit after COVID-19 ends
- ⑨The things which answerer wants to do in ⑧
- ⑩The airlines which have been used to travel in ASEAN
- ⑪The best range of price for the international flight
- ⑫The important factors when choosing airlines

を、主に自由記述の形式で記入してもらった。

3. 結果のまとめ

3-1. 日本の高校生を対象のアンケート調査

(1.学年)

高校1年生	25人
高校2年生	59人
高校3年生	20人

(2.性別)

男性	36人
女性	68人

(3.ASEAN への渡航歴)

シンガポール	24人
フィリピン	22人
マレーシア	13人
タイ	12人
ベトナム	9人
インドネシア	7人
カンボジア	4人
ラオス	4人
その他	3人
訪れたことがない	54人

(4.COVID-19 収束後に訪れたい国)

シンガポール	45人
タイ	21人 (特にバンコクと回答したのが1人)
ラオス	13人
カンボジア	9人
マレーシア	9人 (特にクアラルンプールと回答したのが2人)

フィリピン	7人(特にセブ島と回答したのが1人)
インドネシア	7人
ベトナム	7人
ミャンマー	3人
ブルネイ	2人
その他(※)	12人
訪れたくない	8人

(※) ASEAN 諸国に限定したが、韓国など ASEAN 以外の国への回答があった。

(5.渡航の目的)

観光	74人
食事	13人
国際交流	10人
買い物	8人
ボランティア	5人
パケーション(リフレッシュ)	4人
友達との再会	4人
農村体験(異文化体験)	4人
留学	2人
マイレージの旅	1人
マッサージ	1人
家族との再会	1人
特になし	2人

(6.LCC の使用歴)

0回	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回
62人	16人	5人	4人	2人	5人	1人	0人	0人	0人	5人

(7.LCC の好きなおところ)

低価格	20人
乗り換えがある=得した気分	1人
制服が可愛い(特にチェジュ航空)	1人

多く飛んでいる	1人
空港内のバス移動がある	1人
特になし	82人

(8.LCC の嫌いなおところ)

狭い(座席が多く、詰め込まれている感がある)	13人
モニターがない	4人
サービスが悪い	4人
安全性に不安	3人
ターミナルのスポットが端	1人
揺れがある	1人
機材が小さい	1人
受託手荷物の制限が厳しい	1人
時間に厳しい	1人
機内食が美味しくない	1人
機内が寒い	1人
特になし	76人

(9.好む LCC 会社)

ピーチ・アビエーション(日本)	9人
エアアジア(タイ)	3人
ジェットスター・ジャパン(日本)	3人
香港エクスプレス航空(香港)	2人
エアブサン(韓国)	1人
チェジュ航空(韓国)	1人
特になし	85人

(10.飛行機に求めるもの)

快適さ	53人
安全性	38人
機内食	14人
サービス	13人

モニター	12人
座席の広さ	9人
揺れのなさ	6人
価格の安さ	4人
セキュリティー	4人
清潔さ	3人
音の静かさ	3人
速さ	2人
wifiがあるか	2人
機種	2人
充電ができるか	1人
特別感	1人
気を紛らわせるもの	1人
特になし	10人

(11.機内での習慣)

映画を観る	69人
寝る	52人
音楽を聴く	17人
ゲームをする	8人
読書をする	6人
食べる	5人
景色を見る (機体についているカメラも含む)	4人
話す	2人
勉強をする	1人
スマートフォンを使う	1人
特になし	9人

(12.自宅から空港までのアクセス)

良い	28人
悪い	27人
どちらともいえない	49人

3-2. ASEAN にルーツのある人を対象のアンケート調査

対象者	訪れたことがある国	ASEAN のおすすめ の国/都市とそ の理由	COVID-19 が収束 した際に訪れたい 国/都市とそこでし たいこと	ASEAN を訪れた 際に使用した航空 会社	国際線での適切な 価格帯	飛行機を選ぶ上で 意識するもの
A さん (23 歳女性マレー シア人・マレーシ ア在住)	マレーシア、シン ガポール	マレーシア、シン ガポール、タイ、 インドネシア。 良い景色で多くの 美味しい料理があ るから。	マレーシア、シン ガポール、タイ。 現地の美味しい料 理と美しい景色を 満喫したい。	マリンド・エア、 エア・アジア	~RM150 = ¥3,968 (RM1 = ¥26.45 (2021/03/16 現在))	価格、サービス、 フライト時間
B さん (44 歳女性日本 人・日本在住)	イギリス、イタリ ア、フランス、ド イツ、チェコ、フ ィンランド、カナ ダ、US、メキシ コ、タイ、ラオ ス、カンボジア、 ネパール、ベトナ ム、フィリピン、 中国、オーストラ リア、日本	ラオスのルアンパ バーン郡。 そこでは日本では 味わえないミステ リアスな雰囲気を感じることができ る。特に早朝の景 色は最高。	すべての ASEAN 諸国は興味深く、 魅力的なので選ぶ ことができない。 美味しい料理はど こにでも欠かせない。	タイ国際航空、 ベトナム航空、 パキスタン航空	¥40,000~ ¥150,000	値段、 フライト時間、 フライト数
C さん (44 歳女性日本 人・日本在住)	フランス、オース トラリア、タイ、 ベトナム、日本	タイのバンコク。 そこでは、経済成 長、情熱、人生の 楽しさを味わうこ とができるから。	ラオス。 ラオスビールとラ オスの食事を川岸 のレストランで満 喫したい。	エア・アジア	¥50,000~ ¥150,000	価格、 アクセスの良さ
D さん (55 歳男性日本 人・日本在住)	日本、タイ、ベト ナム、ラオス、ミ ャンマー、韓国、 中国	タイのバンコク。 タイ料理は非常に 美味しく、多くの 観光スポットがあ るから。	ラオスのビエンチ ャン。 友達に会いたい。	エア・アジア	¥30,000 前後	値段の安さ
E さん (43 歳男性日本 人・日本在住)	10 か国以上	タイのチェンラ イ。 興味深い寺院がた くさんあるから。	タイ。 奥さんに会うた め。	エア・アジア	コストにもよる が、¥150,000 以 内	値段
F さん (17 歳男性ベトナ ム人・カナダ在住)	ベトナム、カナ ダ、シンガポー ル、タイ	韓国。 素晴らしい観光ス ポットがあるか ら。	ベトナム。 家族に会いたい。	ベトナム航空	\$1000 = ¥87,240 (1C\$ = ¥87.24(2021/03/1 6 現在))	サービスの良さ
G さん (24 歳女性タイ 人・タイ在住)	日本、US、 インドネシア、 ミャンマー、 シンガポール	タイ。 多くの美味しい料 理があり、多くの 美しい自然、歴史 的、文化的な場所 があるから。	ラオス。 ラオスの Vang Vieng を訪れ、ラ オスの生活を楽し みたい。	ベト・ジェット、 エア・アジア、 ノックエア、 タイ国際航空、 バンコク・エアウ ェイズ	タイから他の ASEAN 諸国へ行 く場合、往復で 8,000 baht = ¥28,320 (1 baht = ¥3.54 (2021/03/16 現在))	快適性、 サービスの良さ、 価格
H さん (31 歳女性タイ 人・タイ在住)	タイ、香港、 ラオス、ベトナ ム、ミャンマー、 カンボジア、 US、日本、韓国、 インド、マレーシ ア、シンガポール	タイのチェンマ イ。 そこには、山での 生活から都会の生 活やカフェ巡りま であらゆるものが 揃っているから。	ベトナム。 景色や現地の食事 を楽しみ、リラッ クスをしたい。	タイ国際航空、 バンコクエアウェ イズ、エア・アジ ア、ベトナム航 空、ラオス国営航 空、スクート航 空、ノックエア、 タイ・スマイル	国内線では\$33 = ¥3593 国際線では\$65- 80 = ¥7077-8710 (1US\$ = ¥108.87(2021/03/ 16 現在))	広告、 時間厳守、 信用性、 有名度

Iさん (23歳女性タイ人・タイ在住)	タイ、日本、韓国、シンガポール、マレーシア、ラオス、スイス、オランダ、ドイツ、フランス	シンガポール。 この国は初心者 のASEAN外から 来たバックパッ カーには優しい 。なぜなら、シ ンガポールでは 英語を使うので 、トラブルに巻 きこまれた際 にも簡単に対応 できる。また、 治安もよいため 、一人で旅行す るのも大丈夫。	ミャンマー。 その国で、新し い文化や古代の 場所を探したい。	エア・アジア、 スクート航空、 ライオン・エア	18,000 baht= ¥63,720 (1 baht= ¥3.54(2021/03/16 現在))	サービス、 価格、 機内の環境
Jさん (18歳男性タイ人・タイ在住)	タイ、マレーシア、シンガポール、ラオス	シンガポール。 英語を話すから。	フィリピン。 特に理由はない。	シンガポール航 空、タイ国際航 空、スクート航 空、エア・アジ ア、タイガーエ ア	アジアへ行くの に \$400 = ¥43,548 (1US\$ = ¥108.87(2021/03/16 現在))	サービス

4. 考察

4-1. LCC 自体の消費者目線での評価

本アンケート調査によると、回答者の約3分の2がLCCを使ったことがない。理由としては、狭い、モニターがない、サービスが悪い(飲食物が出ないため、そのような偏見に陥っている可能性がある)などがあげられる。また、安全性に不安があるという回答もあった。これは「安い=ケチっている」という考え方が原因であると考察するが、その考え方は的外れである。前述したとおり、LCCの価格が極めて安いのは経営面での工夫、機内食を出さない・モニターがない・シートピッチを小さめることによって座席数を多くする等のサービスの工夫があってこそのものである。決して、部品を少なくしている、パイロットが二流などの理由ではない。事実、ピーチ航空が運航している飛行機はエアバス320であり、この機種は全日本空輸やユナイテッド航空等のFSCも運用されているものだ。パイロットのライセンスも他航空会社のパイロットと同じく国家試験をパスしたものである。よって今後はLCCに関する偏見をなくすことで新規顧客の獲得ができると推測する。また、LCCのリピーターも存在している。理由としてはチケットの安さだろう。これは全世界共通の声だ。しかし、日本人は値段よりもサービスの方を重視する傾向にある。航空会社としては、日本国内からは、日本国籍であるピーチ航空が人気であるが、ASEAN内からはASEANで大きな航空網を持っているエア・アジアが大人気だ。また、ベトナム航空やタイ国際航空、シンガ

ポール航空、ラオス国営航空など各国のナショナル・フラッグも一定の人気がある。

4-2. 現在人気のある路線

シンガポールが国内外を問わず大人気だ。理由としてはマリーナベイサンズホテルやマーライオンなど有名な観光名所がたくさんあるからだ。さらに、第一言語が英語であるため、観光客やバックパッカーなどにも超絶人気を誇る。2021年3月現在のシンガポールのチャンギ国際空港には105路線が就航している。そのうち、6路線が日本に就航している。また、アジア、北米、ヨーロッパ、オセアニア、中東、アフリカとほぼすべての場所に就航しており、世界でも大規模な空港の一つである。また、タイやマレーシア、フィリピンも人気だ。これらの国では、ASEAN内でも経済が発展しており、日本からも直行便が就航しているため、人気である。また、回答者のタイ人4人のうち、3人がラオスへ渡航経験がある。要因としては、タイーラオス間には直行便があるからであろう。

4-3. 今後の鍵となる路線

ラオスが今後のASEAN内でのキーだと推測する。現在、ラオスには、韓国、中国、タイ、ベトナム、マレーシア、カンボジアの計6か国が就航しているのが現状だ。また、似た経済規模のカンボジアはタイ、中国、ベトナム、マカオ、シンガポール、香港、台湾、韓国、ミャンマー、ラオス、カタール、日本

の計 12 国が就航している。比較すると、ラオスは他国と比べ、あまり航空網が発達していない。だが、昨今の日本の学校教育では課題解決型学習に重点を置いているため、発展途上国でのボランティアなどに興味を持っている人が多い傾向にある。また、観光面でもラオス独特の雰囲気を味わえるという点で人気である。アンケート調査からも一定の需要があるとわかる。しかしながら、ラオス政府は LCC の就航に消極的な考えを持っている。なぜなら、ラオスは共産主義国であり、国営のラオス国営航空の売り上げが減少することを危惧しているからだ。この問題を解決できれば ASEAN の移動の自由がさらに増え、ラオスの経済もさらに発展するだろうと考える。

5. 結論

LCC 就航に対して 4 つの提案を行う。1 つ目は、LCC のサービスや快適性の改善だ。狭いやモニターがないというのはコスト削減のため仕方がないが、寒いや機内食がおいしくない等は、改善の余地があると考える。2 つ目は、消費者目線への配慮だ。LCC を使用する顧客は値段の安さを目的としている。この LCC の本来の目的に沿ってこれからも安全に安く飛行機を飛ばしてもらいたい。3 つ目は、ASEAN 内の旅行需要に応じた路線の開拓だ。本研究では、シンガポールやタイ、ラオス等に需要があると結論づけた。これらの国々をはじめとした必要としている顧客に沿った新規路線を開拓してもらいたい。4 つ目は、LCC 就航に対する規制緩和だ。前述したとおり、ラオスなど一部の国では LCC を受け付けない、いわば鎖国状態に陥っている。今後は、これらの国々が開国できるよう、規制緩和に向けた取り組みをしていってもらいたい。LCC は、今後の航空業界発展のキーとなるであろう。LCC は人や物流の活性化を促すことができる。エアアジアのスローガンは「Now Everyone can fly(今は誰でも空を飛べる)」であり、たとえ貧困層であっても飛行機を使った移動をすることができる。

6. 今後の課題と展望

本研究は、観光に焦点をあてたものであり、飛行機を利用する顧客の目的は観光以外にもビジネス目的や家族に会うなどの目的もある。また、観光面でも主に扱ったデータは高校生目線のものが多く、他の年代の調査はすることができなかった。今

後の研究では、特にビジネス目線での現状把握及び考察に精進したい。

参考文献

- 赤井奉久『「格安航空会社」の企業経営テクニック』TAC 出版、2012
- 井上慎一『Peach のやりくり』東洋経済新報社、2019
- 高尾泰朗「ANA が踏み込んだ LCC との連携策 国際線で新ブランドも」『日経ビジネス』、2020 年 10 月 28 日
<https://business.nikkei.com/atcl/gen/19/00151/102700011/>.(最終閲覧日：2021 年 3 月 19 日)
- 細川倫太郎「世界の航空旅客 6.9%増え 44 億人に (18 年 IATA 調べ)」『日本経済新聞』、2019 年 8 月 1 日 <https://www.nikkei.com/article/DGXMZO48050270R00C19A8000000>.(最終閲覧日：2021 年 3 月 19 日)
- 堀川紀年『国際観光学を学ぶ人のために』世界思想社、2003
- Molly Moore, "Tourist arrivals in the ASEAN region 2010-2019," *Statista*, 2021 年 2 月 10 日 <https://www.statista.com/statistics/645643/tourist-arrivals-in-asean-region/#:~:text=In%202019%2C%20there%20were%20approximately,visitors%20to%20the%20ASEAN%20region>.(最終閲覧日：2021 年 3 月 19 日)

タイの環境問題はどのようにすれば解決できるのか - バイクによる大気汚染に着目して -

文化学園大学杉並高等学校 2 年 江原 咲月

1. 序論：いま、何が起きているのか

1988 年頃から現在において地球温暖化が解決すべき大きな問題となっている。地球温暖化を悪化させる要因はたくさんある。リゾート・都市開発による森林破壊、石炭火力発電所による硫酸化物汚染などの産業公害、そして排気ガスによる大気汚染があげられる。東南アジアでの状況を例に出すと、海面上昇や気候の変化などが地球温暖化の影響として見受けられる。日本に住んでいる私たちにとっては気温上昇ほどしか直接的な影響はなく、小さな問題に見えてきてしまうかもしれないが、過去百年で 19 センチメートルも上昇しており、今にも沈んでしまいそうな国も存在している。このように、世界に大きな影響をもたらしている地球温暖化だが、大きな原因となる大気汚染にはアジアの地域が大きく関係していることが分かった。特に東南アジア地域に焦点を当ててみると、経済発展による環境汚染、熱帯雨林の破壊と様々な地球温暖化の原因となることが起きている。なかでもタイを詳しく見ると、タイ国内で環境汚染の原因となることは多くあるがその中でも交通手段として欠かせないバイクや、トゥクトゥクによって引き起こされる大気汚染が目立っている。やはり最大の原因は急激なモータリゼーションの進展に伴う自動車排気ガスによる大気汚染である（環境省）。多くの人はバイクや自動車、バイクタクシー、トゥクトゥクを日常生活の中で使用している。では、バイクを使用する人と自動車を使用する人にはどのような違いがあるのか。調べてみると、バイクを交通手段の中心に使う人々と自動車を使う人々の間には経済的な格差があることが分かった。

また、タイの大気汚染という問題を考える上で、着目する排気ガスの種類が重要となってくる。例えば、二酸化炭素や窒素酸化物などいろいろありそれぞれ計測方法が異なる。そして何に影響するのかなど排気ガスの影響や原因も異なってしまう。そのため、調査する事柄にあった排気ガスの種類を明確にする必要がある。そこで東南アジアなどの発展途上国について詳しい大学の教授の方に話を聞くと、やはり排気ガスの種類を一つに絞ることが大気汚染の原因や、解決法を導き出すうえで重要だそうだ。世界中の国を見てみると、タイと同じような国でも CO₂ の排出量が少なく環境に悪影響をきたしていない国もある。やはり国ごとの特色や文

化という面も交通手段の違いに関係していてこの部分も配慮する必要がある。上記二つの事柄を踏まえてタイの環境問題の中でも大気汚染、そして多くある原因の中でも大量のバイクによって排出される CO₂ についての情報を中心とし、根本的に何が原因となっているのか。現状のタイの大気汚染を少しでも良い方向へと持っていくことができるように本論文では、タイでの環境問題はどのようにすれば解決することができるのかを経済格差と文化の二つを結び付けて考えたいと思う。

2. 研究方法

2-1 文献調査

現地に直接行き調査することが難しいため、タイの環境課題や、交通状況等に関し、主に論文やニュース記事等を使い情報を集めた。主に google scholar を用い、環境問題やバイクによる排気ガス排出量・影響を調べることができた。

2-2 インタビュー

オンラインで、インターネット上での文献調査によっては得ることのできない情報に関して大学の教授や企業へのインタビューを行った。

2-2-1 専門家へのインタビュー

2021 年 2 月 2 日、都市交通計画の専門の横浜国立大学の中村文彦教授に、オンラインでのインタビューを行った。発展途上国の交通や渋滞の原因、解決方法などについての見解を聞いた。

2-2-2 企業へのインタビュー

横浜国立大学の中村教授を通して、Honda グループのタイ企業 Asian Honda Motor Co., Ltd. (以下 Asian Honda) にタイで行われた法改正の影響や環境配慮への取り組みについてインタビューすることができた。Honda は再生可能エネルギーの使用による CO₂ 排出量ゼロを目指していて、環境に優しい自動車やバイクを開発している。このインタビューを通して現地の法律改正による現地の

人々・会社への影響やタイの文化、交通機関についての情報を得た。

3. 結果

3-1. 環境問題を考える上で大切なこと

3-1-1. タイの交通状況

タイは日本でもよく知られているほどのバイク王国だ。大気汚染の状況は、たとえ日本の東京がレベル1だとするとタイはレベル10と約十倍といえるほど大気汚染がひどくなっている。その原因とあげられるのは主に自動車やバイクから排出されるCO₂であり、タイでは特に信号量のバイクが問題となっている。信号が赤になるとすぐに信号を待つバイクが何台もたまっていく（写真1）。タイの首都であるバンコクでは特に通学・通勤でバイクを使う人が数えきれないほどいる。日本では、通勤・通学といえば電車が自転車を思い浮かべると思うが、タイはバイクが主な交通手段となっている。タイでのバイクの普及率は45人/台となっている（関根2004）。また、タイの車種別累積登録数の割合においてバイクは77%と半分以上を占めている（山田2015）。テレビなどでもタイの道路で信号を待つバイクの大軍を一度は目にしたことがあると思うが、これにはタイの道路の構造や文化が関係している。



写真1：タイの交通渋滞

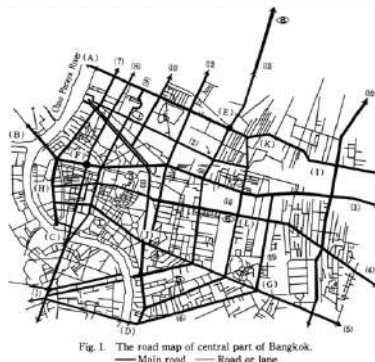
3-1-2. バンコクの道路構造と渋滞

バンコクの道路構造を見てみると明らかだが日本のようにまっすぐな道路が整備されているような状況ではなく、図1のように細くて短い道路が入り組んでいてとても複雑な構造になっている。そのため、細くて入り組んだ道路を早くスムーズに移動することのできない自動車よりも早く移動できるバイクが人気だということだ（山崎他2004）。

そのうえバイクと道路の割合が釣り合っていない毎日同じような時間帯に同じような渋滞が起きている。なぜこんなにも長く続

いている渋滞は解決されていないのだろう。渋滞が起きますとCO₂の排出量も増えてしまうため特にバイク王国となっているタイでは解決する必要がある。まず、タイの渋滞の原因として挙げられるのは、複雑な道路構造・経済格差による交通手段の偏りなどがある。特にタイでは、信号機が手動になっていて随時信号係の警察官が交通状況を見てボタンで信号機を赤に変えたり青にしたりしていることも深く渋滞と関係していると考えられる。

図1：バンコクの道路図（氷見康二1996）



3-1-3. 交通手段とその利用の問題点

また旧型で排気ガスの排出量が多いバイクではなく比較的新しく環境に優しいような自動車に乗っている人も数少なくいるが、タイの大部分は富裕層ではなく中所得者と低所得者層に占められている。そのため価格がバイクよりもだいぶ高い自動車に乗っている人は少ないのである。そこでなぜ低所得者層や中所得者層の人が燃料代などの維持費がかかるバイクを使うことができるのか疑問としてあがる。実際に調べてみると、タイの人は日本人で一人暮らしの大学生がどんなにお金に困っていても携帯だけはしっかりとお金を払って所持するようにほかの部分の生活費を節約してバイクを使っていることが分かった。このことが何を意味しているかという、どんな人でもバイクがないと生活できない、つまりほかにバイクに勝る交通手段がないということなる。タイには日本のような公共交通機関、MRTやBTSのような地下鉄や、道路を走るバスが存在する。だが公共交通機関を利用する人は多くない。バスを利用する人が少ないのは、同じ道路上で毎日起こる渋滞が大きく関係していて時間通りに利用することができないからだわかった。また、道路に影響されない地下鉄は日本のような安心・安全ではなく治安が悪いためたとえ移動手段にお金をかけることのできる余裕のある人でも利用せず最も安全で早く移動できる自動車を選んでいった。また、駅周辺に利用したい使節が整備されておらずバスや電車を利用するメリットが少ないことも問題だ。日本を例に挙げると、多くの地域が駅を中心に栄え、駅

に行けばとりあえずは何かすることができる。新宿や渋谷のような大きな駅でなくても容易に目的を果たすことができる。一方タイでは駅の周りを中心とせずにまばらに店が展開されているため人々がバスや電車を使ってどこかへ行くよりは、小回りの利くバイクでの移動が最も簡単なのだ。もしも、タイの公共交通機関が安全で速く移動できる便利な交通手段に変化すれば今バイクや自動車に乗っている人が少し公共交通機関を利用するようになるのではないかと考えられる。公共交通機関が安全な交通手段として普及し、利用者が増えれば相対的にバイクや自動車の利用者の人も減少すると考えられるが、公共交通機関が安全に今以上に普及するためには莫大な費用が掛かる。現状の公共交通機関は政府が運営していてバスや地下鉄の運賃は政府によって安く設定されているため常に赤字経営となっている。そのうえで地下鉄の安全性を強化したり、バスの増線や道路の整備などを行うことは難しいと考えられる。また、道路を整備すると一旦は道路が増え渋滞が緩和されるが、もともとある渋滞が頻繁に起こる道路よりも、多くの人が早く移動でき渋滞に会うことのない新しい道路を好むため、また新しい道路で渋滞が起こってしまう。そのため、道路を新たに作ることはCO₂排出量を増加させる原因となる渋滞を根本的に解決することはできない。また、政府の予算がないタイでは公共交通機関を充実させることは難しい。

3-2 現状の対策状況

3-2-1 法改正

タイの従来法では、バイクへの課税率はエンジンサイズの大きさによって振り分けられていたが、2020年春からCO₂排出量に基づく課税へと改正された。そのため、CO₂の排出量を多く排出する種類のバイクには多くの税率が課せられる。さて、ここで有力になってくるのが電気バイクだ。電気バイクは名前の通り電気を使って動くため走行時にCO₂を排出しない。そして税率も最も低い1%となっている。タイ政府はバイクが排出するCO₂による大気汚染をこれ以上悪化させないためにこの税率を改正したと考えられるが、タイにおいて電気バイクはまだ一般に向けて普及していません。販売状況もあまり変わらないということだった。タイ国内で電気バイクが普及すれば、自然とタイの人々は税率の低いバイクへと買い替え、このタイ政府の政策が機能するようになる。だが今の時点で、一般への販売も始まっていないためこの政策によってバイクによるCO₂の排出量削減は難しいとわかった。

改正前

Engine size (cc)	税率 (%)
<150	25
150-500	4
>500-1000	8
>1000	17

改正後

タイプ	CO ₂ (g/km)	税率 (%)
電気バイク	—	1
内燃機関orハイブリッド*	≦50	3
内燃機関orハイブリッド*	51-90	5
内燃機関orハイブリッド*	91-130	9
内燃機関orハイブリッド*	>130	18
研究開発用試作バイク	—	0
その他	—	20

(出典：世界×自動車×環境規制.jp. <https://eocar-policy.jp/article/201905020/>)

3-2-2 電動バイク

現地の人の反応や影響を直接タイに赴き調査することが難しかったため、タイのAsian Hondaの二輪車を担当されている森沢さんにインタビューをし、タイの現地の状況を把握することにした。Hondaでは再生可能エネルギーの使用によりCO₂の排出量ゼロを目指している。実際にインタビューをしてみると、一番環境に優しく現実的なのは電力を使う電動バイクだとわかった。電動バイクは、充電をすることができる電池を使って走るため、燃料を燃やして排気ガスを大量に排出するようなバイクとは違う。このように多くのタイの人々が電動バイクに切り替えることができれば、排気ガスによる大気汚染がなくなるのではないかと考えた。だが、電動バイクにはいくつか欠点があり、それにより普及することが難しいことが分かった。例えば、普通の燃料で走るバイクと比べてトータル走行可能距離が短いことや、ガソリンスタンドへ行けば短い時間で充電することのできるガソリンバイクとは違い、一旦充電がなくなり満タンまで充電するとなると少なくとも0.3時間から最大のもので7時間もかかってしまう。日本の郵便局で使われているHondaの電動バイク「べんりいe」(写真2)を例に出すと、最大で87km一回の充電で走ることができる。ガソリンバイクは少なくとも200kmは走ることができる。この二つを比べると一目瞭然だが、やはり走行距離が短いと何回もバッテリーを替える必要があるため不便になってしまう。すでに電動バイクが普及している台湾や韓国では街中に空になったバッテリーを交換することのできるガソリンスタンドのようなものがあり、これは政府が負担し提供しているため、いつでもどこで充電がなくなっても安

心して充電することができる。台湾ではコンビニや地下鉄の駅の中など、様々な場所に簡単に取り替えることのできる電気バイクの電池が設置されている。



写真2: Honda 電動バイク「ベன்றい e」

4. 考察

4-1. 渋滞の解決

渋滞の根本的な解決は道路の整備によっては難しく、次のような悪循環を生むことにつながってしまうことが分かった。道路を整備して渋滞を解消するには、まず道路を増やすことが一番効果的だと考えた。だが新しい道路を増やして渋滞が解消されるのは本当に一時的で、時間が経つと新しい道路の方が空いているためそこに車やバイクが密集してしまいさらに渋滞の原因を増やしてしまう。そのため道路を整備・増やすことは根本的な解決にはならない。だが公共交通機関を整備することは、渋滞の解決に繋がることがわかった。現在のタイの公共交通機関が日本のように普及していないがこれには安全面と時間に関する正確さがある。日本の公共交通機関は安全で時刻表通りに電車が到着し利用中に犯罪に巻き込まれる可能性は低いため多くの人が安心して使うことが出来る。一方タイでは、公共交通機関の治安があまり良くないため現地の人々の間で普及していない。高所得者はセキュリティを重視し自動車を好み、多くのタイ人は素早く移動することを重視して、バイクを利用している。タイの公共交通機関の現状としてあげられるのは、時間通りにバスや電車が動いていない、犯罪が起こる可能性があり、全ての人々が安心して乗ることのできる乗り物ではない、ということだ。だが、整備すれば多くの人が利用するようになるという見込みがある。

そのため、大気汚染につながる渋滞を解決するためにはまず、公共交通機関を整えることが重要だと考えた。

4-2. 電気バイクによる大気汚染改善の可能性と問題点

もしもタイで電動バイクが普及しない原因が走行距離の短さや、充電の不便さだとしたら、台湾や韓国のように政府のサポートなどがあれば、多くの人が手にしやすい物になるのではないかと考えられる。だが一概に電気バイクや電気自動車が排気ガスを減らし大気汚染を解決するとは言えない。もちろん走行中は排気ガスを排出しないためガソリンバイクに比べれば環境に優しいといえる。だが電動バイクや電動自動車に欠かせないバッテリーを作る過程で、多くの燃料を燃やし排気ガスを大量に排出していることが分かった。この量はガソリンバイクよりも多いといえる。バッテリーには主に鉛蓄電池とリチウムイオン電池の二種類がある。どちらも、走行中に排気ガスを排出することはないがそれ以外の面で人間自体にも、環境にも大きく悪影響をもたらしている。鉛蓄電池は、廃棄時に人体に悪影響を及ぼす可能性があり、またリチウムイオン電池は製作過程で大量の排気ガスを排出している。商品となっている時点では環境にやさしくガソリンバイクよりも好まれるが、作る過程でCO₂などの排気ガスをガソリンバイクが走行しているときに出す排気ガスよりも多いと考えるとどちらかを推薦して、タイの人に使ってもらうようにはできないと思った。

5. 結論

タイの環境問題を解決するためには、まずバイクや自動車の利用者を少しでも減らすために国としてのタイの国力を上げ移動手段を整備することが第一だと考えられる。日本でいう地下鉄や電車、バスを整備しタイの国民に日常的に使ってもらうためには安全で安心して乗ることができ、タイヤの乱れることのない公共交通機関をつくることで、利用者が増え相対的にバイクや自動車の利用者も減ることが考えられる。そのためには、常時赤字経営となっているタイ政府の公共交通機関の運営を改善し、より良い環境づくりをする必要がある。また、電気バイクを普及させることも重要だがバイクという交通手段を残すということは渋滞が解決されないということになるため、やはり公共交通機関を整備し同時に駅周辺の街を機能的にすることが最も効果的である。そして公共交通機関をより多くの人に利用してもらえるようになるためにしっかりとした仕組みを作りお金をかけてでも良い物へと変える。これが最善だと分かった。公共交通機関を整備することで、タイを訪れた観光客や通勤通学をする人にとって便利で気軽に使える移動手段になり、タイ全体の国力向上も考えることができる。タイにとって、大気汚染を解決するという事は、決して一

つのことを解決すれば終わることではない。だが、多くのことが関係している問題だからこそ、解決すれば大きな利益が生まれ芽づる式にほかの問題も解決されていくのではないかと考える。

参考文献

- 財団法人 地球・人間環境フォーラム.(1999). 「第一章 タイにおける環境問題の現状と環境保全施策の概要」『日系企業の海外活動にあたっての環境対策（タイ編）～「平成10年度日系企業の海外活動にかかる環境配慮動向調査」報告書～』
<https://www.env.go.jp/earth/coop/oemjc/thai/j/thaij1.pdf>
- 関根太郎.(2004). アジアにおけるオートバイによる交通事故現状 戸安全教育の指導点 IATSS review. 29(3)
- 山崎隆之,大蔵泉,中村文彦,&矢部努.(2004). バンコクにおけるバイクタクシーの端末交通手段としての可能性に関する研究.土木計画学研究・講演集, Vol28, 162-166.
- 氷見康二.(1996). バンコクにおける自動車交通と大気汚染.大気環境学会誌, 31(4),175-184
- 「タイ、バイクに対する新たな課税－エンジンサイズではなくCO₂排出量に基づく課税へー2020年1月1日から適用」
世界×自動車×環境規制.jp.2019年5月19日（2020年9月17日閲覧）<https://ecocar-policy.jp/article/201905020/>

タイにおける都市部、地方中間層の実態

共立女子高等学校2年 佐保田 千優

1. 背景と目的

1-1. テーマ背景

この研究に際して、なぜ今「タイ」なのかという問題に直面する。世界に目を向ければ、経済水準が高い国もある一方、発展途上と形容されるような国々もある。いわゆる、先進国と呼ばれる国々は総合的には「豊かな生活」を営んでいるとされるものの、まったく貧困問題や格差が生じていないとは言いきれない。また、他国と比較した際、GDPの数値が低く、十分な衣食住を得ることのできない人々が多い国々にも即急に解決しなければならない課題が膨大にある。これらの国々に共通して言えることは、先進国では上下層の所得格差問題、発展途上国では貧困問題など、今取り組むべき問題が明確であることだ。しかしながら、東南アジア諸国に特に多い新興国は、ある程度の発展をとげ、先進国とは言えず、かといって発展途上国でもない「板挟み状態」である。

私が初めてタイを訪れたのは2012年の冬。その後、幾度かタイに行く機会に恵まれ、最後に訪れたのは2019年だ。この9年間、子供ながら「タイはずいぶん成長したな」と真に感じた。物価も安く、ごはんもおいしい楽園のようなタイの現実を知ったのは、私が中学に在学していたときだった。バンコクの中心街を歩いていた時、あたりを見渡せばほとんどが日本人を含む外国人だった。一体中間層の人々はどのような生活を送っているのかということに疑問を持った。今やインフラも整い、バンコク中心の街並みはほとんど東京と変わりのないほど発展したタイ。一方で、急速な経済成長で富を蓄えた富裕層と困窮する貧民層の格差も広がった。しかし、その中間である中間層にはあまり焦点が充てられていない。以上のことから、「タイにおける都市部、地方の中間層の実態」を研究テーマに決定した。

この研究では、都市部、郊外という点から中間層の実態について着目し、各々において所得、食事、教育の3点から分析していく。一般的に、衣食住が指標になることが多いが、教育も経済力を支える重要な要因だと考えたので今回は所得、食事、教育を選んだ。

2. 研究方法

2-1. 文献調査

まず、概要としてタイ全体についての文献を探し、その後中間層に関する文献を調査した。

2-2. インタビュー調査

教育に関する資料、とりわけ都市部と郊外を扱うデータが少なかったため、都市部と郊外双方に居住経験があるAさんに、タイ都市部と地方部の教育格差に関する口頭インタビューを行った。

3. 結果

3-1. 文献調査

3-1-1. 都市部と郊外の所得

タイ全体の所得に関して

タイにおける、GDP成長率は右肩上がりではあるが非常に不安定である。2017年の国民一人当たりのGDPは6,731US\$である。2000年の2,031US\$と比較すると、国内総生産は3倍以上にまで飛躍した。

また、2018年時点では、所得が10,000US\$以上の世帯が3割を超えている（2020年3月 経済産業省）。つまり、経済は非常に鈍感であるものの、国家全体としては依然として著しい経済成長を遂げている。カラーテレビや冷蔵庫の普及率は高い他方、常夏の気候下にあるにも関わらず、エアコンの普及率が30.8%しかない。一方で、この経済成長はタイ国内の格差生み出した。バンコク一極集中型により、2015年には都市化率は50%を越え、第2次、第3次産業につく割合は2016年91%を占めている（国土交通省国土政策局）。つまり、人口は都市部へ流入し、郊外主体である第一次産業につく割合は低い。人々は、都会で職を持つことを求め、都市部に比べ収入が低い郊外は取り残されている。実際、この問題は、タイ当局において政策課題として認識されている。

都市部と郊外の所得格差

中間層としてのデータはほとんど存在しない。バンコク首都圏の一人当たりの GDP が最も高く、東北地方が最も低い。具体的に、バンコク平均年収は186万円（529,000バーツ）に対し東北部は80.6万円（229,224バーツ）である。しかも、両者の格差は1975年以降急速に拡大し、その倍率は1975年の5.3倍から1993年には9.8倍までに拡大している。これらにより、都市部と郊外に格差が生ずるのは明らかである。また、この20年足らずの間、双方の格差が約5倍から約10倍へと拡大、格差の倍率が大きく拡大した。著しい高度成長の間、労働力や投資が首都バンコクに集中し、外国直接投資の殆どがバンコク首都圏並びにその周辺地域に集中している。高度成長を成し遂げ、一部の地域では海外資本の大規模な投資、貿易収入、観光収入を獲得した裏腹に、その恩恵を受けていない地域も存在し、ギャップがより一層拡大した。また、世界銀行や日本からの援助を受けて、産業道路、港湾、発電、通信などのインフラ建設、さらには工業団地などの建設等を行って産業発展の基盤を整備していった。しかし、これらの活動と基盤整備は当初はバンコク首都圏、1990年代以降は東部臨海工業地帯(ESB)に集中し、首都圏から最も遠い地域である東北地方は、その波及効果は及ばなかった。経済発展の恩恵を受けたグループや地域がうるおい、逆のグループが取り残されていった結果として、都市部と郊外の所得格差が拡大していった。

地域別一人当たり GDP および地域別世帯所得層分布(2015年)のデータ(図1)では、すべての地域において(バンコク都市圏、中央部、北部、東北部、南部)ローワーミドル層の割合が約50%と最も高い。一方で低所得者層の占有率は最も多い北部で32.2%、対照に最も低いバンコク都市圏では5.9%にとどまっている。これに反比例して富裕層の割合はバンコク都市圏が5.7%、北部は0.9%となっている。

図1,2,3：一人当たり GDP および地域別世帯所得層分布(2015)

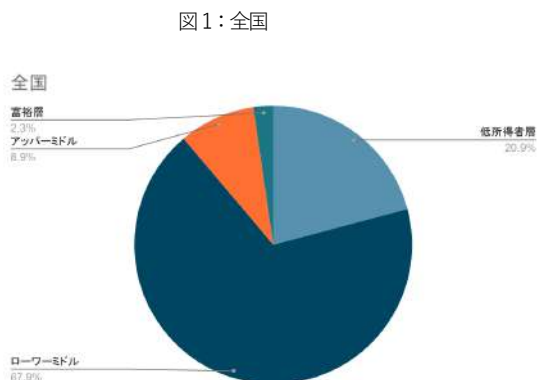


図2：バンコク都市圏 (都市部)

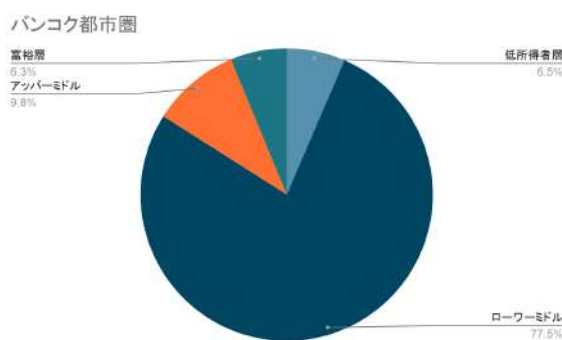
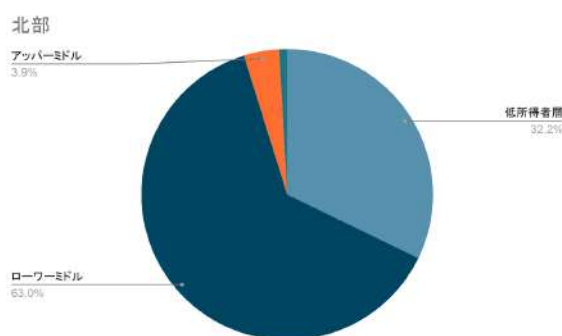


図3：北部 (地方)



次に中間層(アッパーミドル層、ローワーミドル層)のみを取り上げてまとめたものが表1である。

表1：都市部と地方における中間層の割合

	都市部 (バンコク首都圏)	地方 (北部)
アッパーミドル層 (5万-10万バーツ/月)	11%	6%
ローワーミドル層 (1万-3万バーツ/月)	89%	9%
合計	100%	100%

地方に比べ都市部のほうが、アッパーミドル層の割合が高いものの、双方においてローワーミドル層の生める割合は80パーセントと、非常に高い。

3-1-2 都市部と郊外の食事

タイ全体の食事に関して

国内の食品産業は国内総生産 (GDP)の23%を占め、国民生活と経済を支える重要な役割を担っている。産業の高度化を図る「タイランド 40」構想重点の12分野の一つに「未来のための食品

(Food for the Future)」を挙げ、2036年までに農産物や食料品の輸出額を586億米ドルまで拡大し、「世界の台所」を目指している。以上より、国家ぐるみで農業を推進していることが分かります。また、タイは家計の消費支出に占める食費の割合を示す「エンゲル係数(食費÷消費支出×100)」が高い。日本は25%、フランス24%、イタリア27%、アメリカ15%程度に対し、タイは38%と他国と比べて突出している(経済協力開発機構 OECD)。所得に対する食費の割合は非常に高く、国民の食への関心が高い。また、食文化が発達しているイタリア等でも同様の傾向がある。しかし、2009年と比較した15年の家計消費支出に占める食費の割合は、タイ全体では0.2%、バンコクでは15%縮小しており、タイ人の胃袋に変化の兆しが見られた。また、タイの共働き夫婦は約9割を占めている。これは共働き夫婦の割合が65%である日本をはるかに上回っている。これらの事情により、タイ人は手間をかけずにすぐ食べることを重視しているため、外食頻度が高い。さらに、所得に関係なく、露天商を利用している。タイのコンビニストアでは、弁当も40パーツ前後と露天商とさほど変わらない価格帯で気軽に購入することが出来るため、エリア、所得階層に関係なく、気軽に購入しやすい環境が整備されている。

都市部と郊外の食事情差

中間所得者以上の生活者は、食生活が特段変化している。近年、食に対する「健康」「安全」意識が高まり、より質の高い食品を求めて食費が増加傾向にある。また、都市部では首都バンコクを中心に、高級コンドミニアムやアパート以外には調理場が設置されていないことが一因となり、自炊するよりも外食を利用するほうが安上がりである。

3-1-3. 都市部と郊外の教育

タイ全体の教育に関して

ユネスコによると、2005年のタイの青年識字率は98.1%、アジアでは日本、シンガポールに並び、高水準である。義務教育は15歳までだが、タイは学歴社会であることから総じて修学意欲は強い。国全体で、大学卒業19.0%、高等学校卒業15.8%、中学校卒業14.5%と続く。1999年に国家教育法(National Education Act)が施行されたことにより小学校、中学校での教育に加え公立高校での教育も無償で受けられるようになり、2009年からは幼稚園・保育園の3年間も追加された。その結果として、現在では殆どの国民が計15年間教育を享受できている。一方で全体の教育機関修了率が非常に低い理由として、義務教育制定以前に修学学年を迎えた者が教育を受けないまま現在にいたる人が一定数存在することが挙げられ

る。また、都市の女子の大学卒業率が、31.9%と高く、この数字が女子合計の大学卒業比率を押し上げている。また、タイにはオープン大学という入学試験を課さない大学が二校存在していることが、大学進学率を引き上げる要因となっている。また、男性44.62%、女性58.24%と、女性の識字率が高いのも特徴である。ゆえにタイは女性の社会進出の面でも非常に発展している。さらに、教育水準の高まりとともに、賃金所得分布の高所得方向へのシフトがあり、賃金所得と教育所得との間に正の相関関係が存在している。関連として、153の国と地域を対象に世界経済フォーラム(WEF)が公表する男女格差レポート(2020年)では、タイは75位に位置している。日本は121位にランク付けされていることから、タイでは女性の高学歴化に伴い女性の社会進出が非常に推進していることが分かる。

都市部と郊外の教育格差

タイの大学ランキング上位30校のうち、半分以上の16校がバンコクに位置している。日本では上位30校中12校が東京に存在する。経済の中心と高等機関が首都圏に集中している。

3-2. インタビュー調査

3-2-1. 都市部と郊外の教育格差

Aさんは、スタンブリーという地域で幼少期を過ごし、現在はバンコク首都圏内ノンプリーで暮らしている。まず、格差の話の前に教育制度の違いについて尋ねたところ、どの地域においても大学進学には、共通のテストを受ける必要があると述べていた。次に、「都市部と郊外で教育格差が存在するのか」という問いを投げかけてみた。都市部と郊外で教育機関や、制度の違いは生じないが、「塾」が関連しているという。バンコク首都圏に住む学生は放課後は塾に行き、大学受験の勉強をするためである。これは、日本の状況と非常に酷似している。

4. 考察

調査より、以下のことが示された。

所得面

1. 経済成長はあったが、対外投資を受けたバンコク及び工業地域がうるおい、バンコクから最も離れた北部には波及効果が及ばなかった。

- 2, 共働き世帯が多いことから、女性の社会進出の面で発展している。

食事面

- 1, 外食文化が根付いている。その理由として、キッチンが設置されていない家が多いこと、比較的安価なこと、時間短縮になることが挙げられる。

教育面

- 1, 教育制度は全国统一。大学進学の際は、必ず共通テストを受ける必要がある。
- 2, 塾、有名大学が都心部に集中。

以上の結果から考察をする。所得に関して、女性の社会進出の面で発展しているが、アッパーミドル層とローワーミドル層で状況が異なるのではないかと考えた。アッパーミドル層は、いわゆるキャリアウーマンとして働く、比較的生活に余裕のある家庭。一方、ローワーミドル層は生活のために働かざるを得ないために女性が働きに出る、二面性が存在すると考える。また教育に関して、共通テストがあること、塾や有名大学が都心部に集中する傾向は日本の状況に非常に類似している。物価が高いバンコク首都圏でも8割以上のローワーミドル層が存在する理由として、安くコストが抑えられるローカルマーケットがあるからだと推察する。アッパーミドル層とローワーミドル層の比率にかなりの差があるが、こうしたローカルマーケットがあることでバンコク首都圏でもうまく双方が共存出来ていると考察する。また、ローカルマーケットの気軽に外食できる環境が女性の社会進出を促進する支柱になっているのかもしれない。

5. 結論：ローワーミドル層の底上げを目指して

私は、アッパーミドル層とローワーミドル層が存在する構図を無理して変える必要はないと考える。ただ、アッパーミドル層とローワーミドル層の格差を縮小していく必要はある、つまりローワーミドル層の底上げが大事であると思う。そこで、経済財状況の根本となる教育という点に着目した。

タイ全国において教育制度に違いはないものの、やはり塾の点に関しては都心部に集中する傾向がある。都市部に住む生活に余裕のあるアッパーミドル層の家庭は、塾に行きやすい点と経済的な面から教育機会が多い。これに対し、アッパーミドル層ほど金

銭的に余裕のないローワーミドル層、距離的に都心部の塾に通えない地方在住の人は、教育機会は少なくなっている。

そこで、「オンライン型教育バウチャー制度」を提言する。教育バウチャーとは無償の商品券のことで、大阪や北欧、一部の先進国で既に導入されている。利点として、有効期限があるので期間内に確実に使ってもらえる、また、教育用途以外では使用できないため、娯楽や貯蓄に回る心配がないことがあげられる。ただ、この制度は塾が集中する都心部に住む人あるいは通いやすい人に有利な仕組みになっている。そこで、オンライン型にすることで、距離的にも金銭的にも都心部の塾へ通えない人をサポートする「オンライン型教育バウチャー制度」を提言する。

6. おわりに

冒頭に述べたように、今回はタイの中間層つまり一般市民の暮らしに焦点を当てて研究をした。しかし、中間層の定義が非常に曖昧かつ資料が少ないため、確実な答えを導き出すことは非常に難しいと感じた。「発展途上国」という言葉はマイナスの意味合いを含む言葉で、劣悪な環境や貧困に苦しむ子供たちを思い浮かべるかもしれない。だが、実際は少なくとも中間層と呼ばれる人々は、外食をし、義務教育を受け、読み書きができる、私たちの生活とそうかけ離れていないことをこの研究で学んだ。

参考文献

- ガントーン・ワンナワス「タイ 統計データから読み解く経済情勢」ArayZ、<https://arayz.com/columns/vol56-feature/4/#~:text=%E3%83%90%E3%83%B3%E3%82%B3%E3%82%AF%E3%81%A8%E5%9C%B0%E6%96%B9%E3%81%A8%E3%81%84%E3%81%86%EF%BC%92%EF%BC%88%E7%B4%8416.1%EF%BC%85%EF%BC%89%E3%81%A7%E3%81%99%E3%80%82>
- 経済産業省「医療国際展開カントリーレポート：新興国等のヘルスケア市場環境に関する基本情報：タイ編」https://www.metigo.jp/policy/mono_info_service/healthcare/iryuu/download/files/pdf/countryreport_Thailand.pdf
- 国際開発学会「タイ首都圏と地方との地域間格差是正報告書」国際協力事業団、2001年3月。

新谷正彦「タイにおける所得格差要因としての教育効果－2006年
社会経済調査個別結果表利用による接近－」[『西南学院
経済学部論集』45(3),2010年2012年、45-87頁、

世界の人口ピラミッド、タイ王国(1950～2100年)、[https://www.
populationpyramid.net/ja/%E3%82%BF%E3%82%A4%E7%8
E%8B%E5%9B%BD/2018/](https://www.populationpyramid.net/ja/%E3%82%BF%E3%82%A4%E7%8E%8B%E5%9B%BD/2018/)

Dijima－出島「アジア新興国で急増する「中間層・富裕層」国別割
合と消費市場を分析」
<https://www.dijima-japan.com/knowhow/world/4816.php>

NIRA 総合開発研究機構「アジアにおける中所得国の罫とは」『NI
RA 政策レビュー』No.58,2012年10月、

船津鶴代「タイ中間層の変容－グローバル化と地方中間層の成長
(特集：イメージと実態の中間層)」『アジア研ワールド・
トレンド』2021年9月号、日本貿易振興機構/アジア
研究所

船津鶴代・籠谷和弘「タイ中間層－都市エリートの生成と社会意
識－」『アジア中間層の生成と特質』日本貿易振興機構/
アジア 経済研究所(研究双書)、2002年、

National Statistical Office, Summary of the Labor Force Survey in Thailand: J
anuary 2017,
[http://web.nso.go.th/en/survey/data_survey/200260_summary
_Jan_2017.pdf](http://web.nso.go.th/en/survey/data_survey/200260_summary_Jan_2017.pdf)

National Stational Office、Report on the Labor Force Survey,
[https://www.ilo.org/dyn/lfsurvey/lfsurvey.list?p_lang=en&p_cou
ntry=TH](https://www.ilo.org/dyn/lfsurvey/lfsurvey.list?p_lang=en&p_country=TH)

RANKING WEB OF UNIVERSITIES,
[https://www.webometrics.httpinfo/en/asia/thailand?sort=asc&
order=World%20Rank](https://www.webometrics.httpinfo/en/asia/thailand?sort=asc&order=World%20Rank)

Sabaichai Consulting Co., Ltd.[タイの教育制度の・学校について]
http://sabajaiicons.com/thai_education.ht

THE WORLD BANK population,total-Thailand,
[https://data.worldbank.org/indicator/SP.POP.TOTL?locations=
TH](https://data.worldbank.org/indicator/SP.POP.TOTL?locations=TH)

東ティモールの教育と言語

京都府立洛北高校2年 山元なのは

1. 背景と目的

1-1. はじめに

東ティモールでは2002年の独立後、ポルトガル語、テトゥン語が公用語とされた。しかし約24年に及ぶインドネシアの支配により、現在でもインドネシア語を話す人も多く、近隣国や国際機関の影響で使われている英語と共に作業語に指定されている。さらには20以上ともいわれる地域言語があり、複雑な多言語国家である。その為、東ティモールでは教育の面で様々な課題を抱えており、複雑な状況が生じている。例えば教科書にはポルトガル語が使われているが、実際の教授言語はテトゥン語や地域言語であることが多いことがある。しかし地方では生徒の母語が様々であり、テトゥン語さえも第二外国語のような感覚を持つなど理解が困難な生徒もいるという(須藤、2018、24)。過去には、教授用語(話し言葉)と書き取りの言語が異なったり、頻繁に別の言語の単語が混じるなど場面によって教授用語を変える現象が起きていたことが報告されている。さらに土着の言葉を含めた2~3の言語を教室内で併用していることもあったそうだ(田平、2007、60)。

このほか、植民地支配期には支配層によって政治の方針が変わってきたことで、時代によってどの言葉を使うか、どのような教育を受けるのが異なり、問題をより複雑にした。

これらをふまえ、本研究では地域や世代によって異なる言語使用状況と教育の実態から見える東ティモールの言語教育のあり方を考えたい。

2. 研究方法

2-1. 先行研究

研究方法として東ティモールの言語や教育についての先行研究の文献調査を行い、複雑な言語国家を築いた背景や、東ティモールが抱える問題などについての情報や知見を得た。

2-2. インタビュー

調査実施日：2020年12月~2021年1月

- 調査対象：・Aさん 日本に留学している東ティモールの学生
(ディリ、2000年生まれ)
- ・Bさん 日本に留学している東ティモールの学生
(ディリ、2000年生まれ)
- ・Cさん ディリ在住の日本人
- ・Dさん 青年海外協力隊で教育現場に派遣
(ディリ、2017年7月~2019年12月)
- ・Eさん 青年海外協力隊で教育現場に派遣
(アイレウ、2017年1月~2019年1月)
- ・Fさん 青年海外協力隊で教育現場に派遣
(パウカウ、2018年7月~2020年3月)
- ・Gさん 青年海外協力隊で教育現場に派遣
(アタウロ、2019年1月~2020年3月)

対象者設定の背景：

先行研究より首都ディリで主に話されているテトゥン語はオーストロネシア系の言語であり、ディリから離れている地域の多くではパプア系の言語が話されていると知った。また、北側のアタウロ島ではオーストロネシア語族、パプア語族に属さない言語が複数存在している。これらの地域は教育言語問題がより深刻であると考えられている(須藤、2020、41)。このことからインタビューの対象者をディリ、ディリと同じオーストロネシア系のアイレウ、パプア系のパウカウ、アタウロと異なる言語圏にすることでより現在の東ティモールの言語状況の実態が分かるのではないかと考えた。

インタビュー内容：

6人にテトゥン語、ポルトガル語、インドネシア語、英語、方言言語の言語使用状況を聞き、それぞれの言語の使用場面や、使用する世代について回答をもらった。また、多言語であ

ることの利点や課題、今後の東ティモールの言語に対する考えも答えてもらった。さらに今回のインタビューの回答者の多くは実際の東ティモールの教育現場を知る人であるため、学校現場での言語状況や教育の問題点や課題についても話を聞くことができた。

3. 結果と考察

3-1. 日常生活の言語について

(1) 東ティモールで使用されている言語

東ティモールでは、公用語としてポルトガル語、テトゥン語、作業語として、インドネシア語、英語が使われている。さらにこの4つに加え、20以上(30以上という人もいる)の地方言語がある。元々、圧倒的な多数派言語は存在せず、テトゥン語を母語とする者も東ティモール全体の2割程度で地方言語の一つに過ぎなかった(福武、2015、241)。

多くの地方言語の中からテトゥン語が最も話される言語となったことには、カトリック教会と大きく関係している。テトゥン語は19世紀から布教のために使われていたが、地域差があり、全土に広まることはなかった。しかし、インドネシア植民地時代にポルトガル語が禁止されたことに伴い、東ティモールカトリック教会はテトゥン語を公用語として採用した(田平、2007、51)。その後、徐々に全域に浸透していったが、独自の文字を持たず、依然として話し言葉であった(奥田、2017、86)。

その後、テトゥン語の正書法は国立言語学院 Instituto Nacional de Linguística によって整備され、2004年に政府によって承認された(奥田、2017、86)ものの、テトゥン語支援に対するドナーの反応が鈍いこと(田平、2007、57)やポルトガル語、インドネシア語からの借用語も多く存在し、未だ書記システムは整っていない。

その他、主要な言語であるポルトガル語は、16世紀初頭から約400年間ポルトガルの支配の下、行政の言葉として使われていた。遠く資源も乏しい東ティモールの維持は負担であるため、ポルトガルは、支配以前から存在した東ティモールの伝統的な部族社会の機構を利用し間接的な支配を行った。そのた

め、支配に必要な最低限の人数の官僚と兵士を供給する制度があれば十分と考えていた。教育の機会に恵まれたのも、一部のエリート層だけであり、1975年まで人口の約10%にしか過ぎなかった(田平、2007、50)。ポルトガル語はインドネシア政府により1981年に禁止されたが、1999年の住民投票時に再び公式の場に復活し、独立後の新憲法によって公用語の一つとして採択された。独立を率いた指導者の多くがポルトガル語圏に逃れていたため、独立を続けるゲリラの言葉として使われ、ポルトガル語は抵抗の言語として彼らの独立のシンボルとなった(奥田、2017、81)。現在も主に学校、行政関係書類などの公式の書類等で使われている。

ポルトガルとは対照的にインドネシアは統治する際、東ティモール人をインドネシア人に再教育する、いわゆる同化政策に着手した(田平、2007、51)。この甲斐もあって1990年代初めには早くもインドネシア語の普及率は60%と推定(Santinegara Rifika、1990、17)されており、初等教育の総就学率も1999年には90%を超えている^{*1}。インドネシアの積極的な政策はインドネシア語話者を急激に増やし、独立時に作業語とされた後もインドネシア語の存在感は強く、2004年の調査では地域の偏りはあるものの普及率はテトゥン語とほぼ同じであった(Durand、2010、141)。

このような歴史的な経緯が現在の複雑な言語状況を生み出したと考えられる。

(2) 人々の言語使用

インタビュー結果をまとめたものが表1である。

アタウロ島を除く6人中5人が一番よく使い、扱いやすい言語はテトゥン語と回答した。テトゥン語は東ティモールで最も一般的な言語であり、職場や病院、市場など日常生活の多くの場面でコミュニケーションの手段として使われている。学校や家庭、報道などではインドネシア語やポルトガル語は使われているものの、テトゥン語を使うことが多いということが分かった。

*1 インドネシア政府の主張であり、多くの生徒が対象年齢と一致していなかったことから実際は70%程度であったとも言われている(UNDP、2002)。

表 1. 東ティモールの言語使用頻度順

回答者	言語の使用頻度 (1:高～5:低)				
	1	2	3	4	5
A(ディリ)	テトゥン語	インドネシア語	英語	ポルトガル語	
B(ディリ)	テトゥン語	インドネシア語	ポルトガル語	英語	
C(ディリ)	テトゥン語	※2			
D(ディリ)	テトゥン語	インドネシア語	ポルトガル語	英語	
E(アイレウ)	テトゥン語	インドネシア語	地方言語 (マンバイ語)	ポルトガル語	英語
F(バウカウ)	テトゥン語	インドネシア語	地方言語 ※3	英語	ポルトガル語
G(アタウロ)	地方言語 (アイレウ語)	テトゥン語	英語	インドネシア語 ポルトガル語	

※2 Cさんはインドネシア語、ポルトガル語、英語、地方言語は使用する場面が異なるため、順序をつけるのは難しいと回答

※3 バウカウ県ベニラレ(ヴケケ県との県境)ではマカサエ語が主に使われており、そのほかにもメディキ、ワイマアといった地方言語がある。

(3) 地方言語

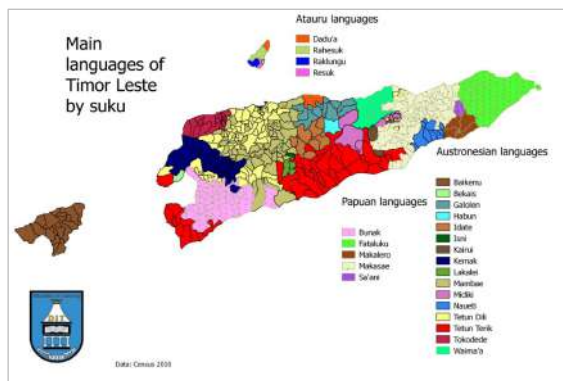


図 1: 東ティモールの言語分布

(Klinken&Williams (2015)より引用,元データ:NSD & UNFPA (2011))

田平(2007, 52)には「インドネシア植民地支配時代、テトゥン語は教育を受けた新しい世代には東ティモール人の言葉と位置づけられ始めたが、依然として土着語を家庭内で話している地方の人々にとっては首都で進学や就職をしなければ完全に習得するのが難しい言葉であった」と述べられている。2010年の調査でも国内のテトゥン語話者は約6割であり、農村部では5割に達していない(NSD & UNFPA, 2011)。しかし、今回のインタビューでは地方であってもテトゥン語を最もよく使うと答え人がほとんどであり、現在ではさらにテトゥン語話者が増加していると推測する。

現在、地方言語しか話せない人はテレビがない家庭や識字率の低い村の奥地、一部のお年寄りなどのごく少数となっており、若者を中心にテトゥン語が共通語となっている。

特にディリから近い地域ではテトゥン語の普及が進んでおり、Eさんによれば、アイレウ県では地方言語であるマンバイ語はお年寄りを使用していたものの若者は使用している人はいなかったという。40代以上も理解できるものの、使用することはめったにないという。

一方、Fさんによると、ディリから離れたバウカウではパプア系のマカサエ語が最もよく使用される地方言語であり、現在でも子どもからお年寄りで使われているという。Fさんが滞在していたベニラレはバウカウ県であってもヴケケ県との県境であるためオーストロネシア系のメディキ語、ワイマア語を話す人も少数であるが存在したらしい。しかし、コミュニケーションの主流はテトゥン語となり、若者はテトゥン語の中に時より地方言語を混ぜて話す程度だという。学校など様々な地域の人が集まる場所でも地方言語が使われることがあるが、異なる地方言語話者がいた場合、共通語のテトゥン語に言い換える。そのため一瞬の混乱はあるものの大きなトラブルには繋がることはない。他にも地方言語しか分からないお年寄りが家族にいる場合、家庭内ではテトゥン語を使わず、地方言語を使用するなど多様な言語を話す相手や環境で自然と使い分けをしている。

唯一、テトゥン語ではなく地方言語を最もよく使うと答えたのはアタウロ島に派遣されていた G さんだ。G さんによるとアタウロ島では地方言語であるアタウロ語を全世代で最もよく使用するという。日常生活では観光客や外国人と会話するときを除き、基本的にアタウロ語を使用する。そのためテトゥン語との使用頻度の割合は約 7:3 だ。インドネシアの植民地支配を受けた時代の 40 代以上はインドネシア語を、同様に若者も学校で習うためポルトガル語を話すことはできるが、ほとんど使用されていないらしい。

アタウロ島のように地方言語が最も話されている地域もあるが、多く地域ではテトゥン語が主流のコミュニケーションの手段と変わり始め、地方言語は言語話者が少ない地域を中心に消失が始まっている。地方言語の消失には様々な背景が関係している。例えば、幼少期からディリで育った子や、地方で育った子でもミックスルーツの場合、家庭内で家族がお互いの共通語であるテトゥン語で話す事が多い為、テトゥン語の方が得意になることが多い。また、教育を受けるためにはテトゥン語が欠かせない為、地方言語よりもテトゥン語を子に覚えさせる事を重視する親も少なくないという。特に首都ディリでは両親が地方出身者であることも多いが、親が子どもに自分の出身地の地方言語を教えるかどうかは親次第であり、同じ親に育てられた兄弟の間でも異なることもある。

C さんは「東ティモールは口承文化。地方言語が失われると、その土地の文化なども同時に失われる可能性が高い。形骸的に文化が残るような形になるのではないかと思う。」と述べた。このまま話者が少ない地域を中心に地方言語が失われていくのか、または、地方言語を保護し、その地域の文化を残していく努力をしていくのか、今後東ティモール人が選択していかなければならない問題である。

(4) 世代間のギャップ

インドネシアから独立して約 20 年が過ぎ、若者のインドネシア語離れも進んでいる。2014 年から 2016 年の調査では、インドネシア語での質問に全く答えられない 10 歳前後の子どもが少なくなかったそうだ(奥田、2017、88)。国連統治期であった 2000 年に生まれた A さんや B さんは英語よりインドネシア語の方が使いやすいが、二人の 10 歳程度しか離れていない弟や妹の世代はインドネシア語より英語のほうが扱いやすいという。家

庭ではテトゥン語、学校ではポルトガル語での教育が行われているため、主にインドネシア語に触れるのはアニメなどテレビを通してである。A さんや B さんが幼い頃はインドネシアのテレビなどがよく視聴されていたが、インターネットの普及など時代の変化に伴い、さらに若い世代は英語に触れる機会が増えたことが一つの要因だと考えられる。外国人が多いアタウロ島でも音楽やフェイスブックの影響などもあり、英語の使用がインドネシア語よりも高まっていることが確認できる。現在、言語の変革期であり、この約 10 年の間でも日常的によく触れる言語が変わってきていることが分かる。

3-2. 教育のあり方

(1) 教授言語と教科書

現在、教育の分野ではポルトガルの影響を受けているものが多い。教授言語がポルトガル語であるだけでなく、他の教育のシステムもポルトガルの制度から取り入れられているものが多く、教科書や大学受験システムがその例に挙げられる。

東ティモールでは義務教育を 12 年とし、教育段階ごとに習得する言語の目標を定めている(須藤、2018、1)。2008 年、それまでのポルトガル語を重視し、テトゥン語はあくまで補助的な言語であった教育政策を、初等教育低学年ではテトゥン語を学び、徐々にポルトガル語へ移行させていく教育制度に改められた(須藤、2020、25)。また同時に、英語も導入されたり、母語(地方言語)の重要性について初めて公式な見解が落とし込まれた(須藤、2020、26)。ここには、マルチリンガル国家を目指している政府の思惑が伺える。その後 2015 年にこの政策をさらに踏み込み、学年に応じた教授言語を設定した。教授言語についてこれまで以上に詳細に策定し、現在の教育制度に至る(須藤、2020、27)。

東ティモール人にとってテトゥン語と並びもう一つの教授言語であるポルトガル語は難しく扱いにくい言語であり、日常生活ではほとんど使用されていない。調査では生徒の中にはポルトガル語のリテラシーが求められる高等教育段階(須藤、2018、22)に入ってもポルトガル語の理解が困難な生徒もいることが分かった。そのため、高等教育でも教科書の教授言語はポルトガル語であるが、実際の教授言語はテトゥン語であることが多い。このことは東ティモールに独自の教科書はなく、ポルトガルの教科書を使用していることも関係しているだろう。2014 年の教

育関係者へのインタビューでは2010年前後でおおむね十分な配布ができるようになったと述べられているが(奥田、2017、90)、今回行ったインタビューでは少なくともバウカウやアイレウなどの地方では、1人1冊教科書が配布されていない地域もあることが分かった。そのため、Fさんの派遣されたバウカウ県ベニラレのある学校では教師が黒板に教科書に書いてあるポルトガル語を板書し、それを教師がテトゥン語で意味を説明し、その後内容の説明やポイントへという流れで授業を行っていたという。

このように生徒全員が理解していない可能性があるポルトガル語で授業を行うことは教育の妨げになり得るだろう。生徒は学校に入ると、今まで触れてこなかったポルトガル語に急に触れ、使うことが求められる。勉強についていけなくなる生徒もいるが、定期テストや大学入試試験はポルトガル語で行われるため、東ティモールで良い職業に就くためにはポルトガル語が必要であるといえる。須藤(2018、26)は「現行の教育システムはポルトガル語のエリート言語化をさらに固定化させるなど子どもたちの職業選択の幅が大きく制限される懸念がある」と述べている。

このような状況に教師も困惑している。2017年に学校関係者に行われたインタビューでも「ポルトガル語によって書かれた教材を使い、主にポルトガル語で授業が行われる中で、子どもたちは理解が進まず、教員はゆっくり説明したり、繰り返し教えたりしなければならない」(須藤、2018、19)と困難を露わにしている。また現在の東ティモールの教師の多くはインドネシア支配期にインドネシア語で教育を受けた世代である。そのため教師自身もポルトガル語を理解することが難しく、理解を促すために、隣国インドネシアの教科書を買って参考書にするなど対応に追われている(須藤、2018、23)。教員自身がポルトガル語を使って授業をすることができない場合、地域のお年寄りを外部講師として招き、授業を行ってもらっている地域の学校もあるそうだ(須藤、2018、20)。

このように現行のカリキュラムに対する教師のスキルが不足していることや、ポルトガル語による授業が子どもにとっても教師にとっても壁となっていることが明らかである。

東ティモールにおいてポルトガル語が日常生活で使われていない言語にも関わらず、教授言語とされ、教科書にも使用されている背景には、前述とおり、テトゥン語が未発達な言語であ

り、語彙が少なく学術的な物事を表すことが難しいことや、ポルトガルやブラジルを中心としたポルトガル語諸国共同体(CPLP)諸国からの支援に依存する状態が続いている(奥田、2017、96)ことが挙げられるだろう。さらに、現在の東ティモール政府の統治層はポルトガル植民地時代にポルトガル語で教育を受けた人々であり、国の方針を決めるこの層がポルトガル語話者であることも影響している。

(2) 教師

現在の東ティモールの教師の多くが受けたインドネシア支配期時代の教育は権威的な教育であった。その影響もあってか教師の中には生徒に体罰に近い行為を行うなど厳しい指導を行っている者もいることが分かった。また、教師は生徒に対し現在も権威を持っており、授業の放棄や課題だけを出すといった授業を行っているところもあるという。これには教師自身がポルトガル語を完全に理解していないのに、生徒に教える難しさもあり、教師自身の混乱や葛藤がこうした行為に繋がっていると考えられる。さらには、後述するが、発展途上で未発達な部分が多い東ティモールの生活の実態も関係しているだろう。

(3) 教育への人々の意識

2016年の調査では人口のおよそ40%が1日に1ドル以下の生活を余儀なくされており、45.8%が多次元貧困に陥っていると報告されている(UNDP、2019)。産業従事者(10歳以上)の多くが農業に従事しており、ディリを除くとその数は約8割に達する(JICA、2015、2-3)。地方では自給自足のような生活を送っている人も多く、多くの学生が水くみや薪拾いなど家庭の手伝いをしながら学校生活を送っている。その為、高校卒業後、大学進学という選択をする人は少なく、家庭の仕事を手伝う人も多い。彼らはテトゥン語さえ話せれば、ポルトガル語を使わなくても生活でき、使うところがないポルトガル語に学ぶ意義を感じることもあるという。

Eさんは「特に地方では勉強より家の手伝いが大変。子どもも大人も勉強や仕事の前に生きるために生活の基盤を整えないといけな。みんな生きるのに一生懸命だった。」と答えた。また彼女は同インタビューにおいて、派遣当初、教師が授業に来なかったり、遅れてきたりすることへの理解は困難であったが、このような東ティモールの実情を生活しながら身に持って

感じていく中で、日本とは違い、インフラなど基本となる生活の土台となる環境が整備されていない東ティモールでは仕方なく、仕事や教育よりも明日生きられるかどうか、1日1日を生きていくことが彼らにとって最重要であると感じたと述べている。このような事情に加え、親自身が十分な教育を受けられなかった場合など子どもに勉強を教えられない家庭も少なくない。親の教育への関心はまちまちだが、全体的には高くはないだろう。

またインタビューでは教育分野のポルトガルなどからの支援依存の高さから政府の教育への優先度の低さを指摘する声もあった。教師の給与も十分なポルトガル語能力を身につけた割には低く、学校教育の質の向上には結びついていない(奥田、2017、93)。教授言語だけでなく、教育において様々な問題を抱えており、教育のあり方もまだまだ発展途上である。

4. 結論とまとめ

4-1. 教育・言語面からの考察 - 今後の東ティモールについて

前述したが、インターネットの普及や国際的な流れの影響で英語を使用する人は、若者を中心に増加している。世界の公用語である英語は、今後東ティモールにおいても普及が進み、国際社会と関わりを持っている人を中心に英語の実用性が高まるべきだという意見も多い。実際に2017年に行われた東ティモールで教育支援プロジェクトを行う国際協力NGOの職員のインタビューでは今後英語が重要になるのではないかと考えていることが分かっている(須藤、2018、22)。また、青年海外協力隊で派遣されていた多くの日本人からも同様のことが聞かれた。東ティモールで英語を話せる人の多くは観光業や国際機関などの職業に就き、農業従事者などには少ない。やはり英語を話すことができると仕事の幅も広がり、良い職に就くことができると考えられる。英語の実用性は外国人や外部との繋がりを持つ人を中心に過去にも多く指摘されている。

このように英語の重要性が謳われているが、東ティモール人の中には隣国のオーストラリアと同じ英語を公用語としてしまうと、国内においてオーストラリアの影響が強くなりすぎる恐れがあると懸念する人もいる。同様に、中年代を中心に使用頻度が高く、扱いやすいインドネシア語も公用語としてしまうと

再びインドネシアに支配されてしまうのではないかという不安から、公式には使用したくないという抵抗感を持っている。このインドネシアへの抵抗感は東ティモール人としての国民意識を形成させている(奥田、2017、98)。ポルトガル語は日常生活ではほとんど使われていなく、今回インタビューした青年海外協力隊などの日本人はポルトガル語で学ぶ意味に疑問を持った。しかし、東ティモール人はポルトガルに対する憧れやアジアで唯一のポルトガル話者国であるプライド、国の上流層がポルトガル語を使うことからポルトガル語が話せるようになると良い職に就け、将来に役立つ言語だと考えている。そして何よりポルトガル語は、独立時彼らをまとめたものであり、彼らのアイデンティティである。2016年に行われたインタビューではポルトガル語を理解することが、「新社会」の一員であることの証であるとの認識を持っていることが示唆されており、独立後の若者達にとってポルトガル語はシンボリック的な存在であると考えられている(小松、2017、69)。

このように外国人と現地の人では、東ティモールの言語に対する考えの違いがあると分かった。我々日本人からすると一見不便そうに見える多言語であることも東ティモールの人々にとっては当たり前であり、むしろ多くの人とコミュニケーションがとることができる自分達の武器であると考えている人も多い。そのため、一つの言語に統一していくのではなく国としての言語、機能としての言語は分けて考え、使い分けていくことも有効なかもしれないと感じた。ポルトガル語は子どもたちが学校で学び、使用していくには負担が大きい言語だ。今は東ティモール国内にポルトガル語を完全に使いこなせる人は少なく、公的機関や行政資料の作成にも、ポルトガルを中心に国外からポルトガル語を母語とする人を呼んできているが、いずれは東ティモール人自身が担うことを目標としている(奥田、2017、90)。そのためにも今後テトゥン語の発達、発展も含め、国全体としてどのような教育が子どもにとって良いか考えないといけない課題だろう。

4-2. 教育・言語に加えて

以前は地方の人々にとってテトゥン語を完全に取得するのは難しいとされていたが、1990年に小学校のカリキュラムに地方語としてテトゥン語学習の時間が取り入れられた(田平、2007、

52)ことにより東ティモール国内でテトゥン語での教育を受けた層が増加した。さらにその後の教育改革で、初等教育で教授言語としてのテトゥン語も認められはじめ、その結果、現在では地方言語しか話せない人はほとんどおらず、教育を受けた世代を中心にテトゥン語が共通のコミュニケーションの手段となっている。このため学校においても地方言語だけしか理解できないために授業についていけなくなる生徒は少なくなっている推測する。教室内で複数の地方言語が使用されることはあるかもしれないが、テトゥン語という共通語によって混乱は解消されつつあるだろう。

しかしながらテトゥン語とポルトガル語による教授言語問題など教育面での課題はまだ残っていることが分かった。

独立後から今までの十数年間、東ティモールの行政の上層部には常にポルトガルやブラジルなど外国の介入や援助があり、どの分野においても東ティモール国内だけで国の政策や方針が決まっているとは言い難い。そのためインタビューでは東ティモール人が他国からの支援慣れをしており、東ティモール人にとってそうした支援が当たり前となっていると感じたという声もあった。他国への依存は大きく、東ティモールだけでの本当の独立は進んでいないと考えられる。教育だけでなくあらゆる面で今後の東ティモールの発展、自立のために他国がどう関わっていくかを考えるべきだと思う。

5. 今後の展望

今回のインタビュー対象者は、日本人が多く、外国人からみた東ティモールがほとんどであった。また時期や地域に偏りがあり、正確な結果とは言い難い。調査では貴重な東ティモール人留学生からの話から国内と国外では考え方に違いがあると感じた。新型コロナウイルスが収束し、東ティモールに渡航できるようになったら、実際の現地の人目線で東ティモールを見て、東ティモールの若者にとってポルトガル語がシンボリック的な存在となっていることの意味の再考と国際社会で東ティモールがポルトガル語を使用することに対する考えを比較するなどし、東ティモール人のアイデンティティについて、探りたい。

参考文献

- 奥田若菜、2017、「権威語としてのポルトガル語 —東ティモールにおける公用語化と言語政策の一考察—」『グローバル・コミュニケーション研究』第5号
- 小松太郎、2017、「紛争の影響を受けた社会における教育の役割と課題 東ティモールのセカンド・チャンス教育 —紛争復興社会の教育ダイナミズム—」『比較教育学研究』第55号
- 須藤玲、2018、「東ティモール民主共和国の初等教育段階における教授言語 —その課題と解決のための視座—」(非公開)
- 須藤玲、2020、「東ティモール教授言語政策の政策形成過程に置くポリティクス—母語を基礎とする多言語教育 (MTB-MLE) の政策形成過程を事例に—」(非公開)
- 田平由希子、2007、「東ティモールにおける教育と言語 —政治課題としての公用語と教授用語選択のダイナミズム—」『比較教育学研究』35号
- 福武慎太郎、2015、「難民と十字架——ティモール島における宗教と言語の位相からみた国境問題——」、臨地研究セミナー(プログラムと報告要旨)
- 国連開発計画(UNDP)駐日代表事務所、2019、『人間開発計画書 2019』
- 独立行政法人 国際協力機構(JICA)、2015、「東ティモール民主共和国 農業マスタープラン・灌漑開発計画策定プロジェクト ファイナルレポート(要約編)」東ティモール民主共和国 農業水産省 政策計画室、灌漑水管理局、農業園芸局
- Catharina Williams-van Klinken and Rob Williams, 2015, *Mapping the mother tongue in Timor-Leste: Who spoke what where in 2010?* Dili Institute of Technology.
- Durand, F., 2010, *Timor-Leste País no Cruzamento da Asia e do Pacífico—Uma Atlas Histórico-Geográfico* co, LIDEL
- NSD and UNFPA, 2011, "Population and Housing Census of Timor-Leste, 2010" Volume 2: Population Distribution by Administrative Areas.
- Santinegara Rifika, *Timor Timur Mitos dan Kenyataan*, 1990, PT Rosda Jayaputra Jakarta
- UNDP, 2002, *East Timor national human development report*, Dili

Comparative Analysis in Education of a Multicultural Society: Malaysia and Hawaii

Kalani High School Grade11 Mana Iketani

1. Introduction: Background and Purpose

1-1. Background

Globalization creates diverse cultures, religions, ethnicity, backgrounds, perspectives, and ideals in the community. Areas with great diversity need an education system and curriculum flexible to students with different backgrounds. In this era, education that is adaptable to diverse people is raising its demand. As Dr. Ahmad, a professor at the Universiti Kebangsaan Malaysia (UKM), stated in his lecture that “respect” to each culture is a key for unity in a diverse community (Ahmad, 2020). People who could respect others are essential for each individual to safely practice their own culture.

1-2. About the Author

Mana Iketani was born and raised in Japan until she immigrated to Hawaii at age nine. She was astonished by the difference in education in Japan and Hawaii, and Hawaii’s unique school curriculum when she moved. She was also surprised for not facing any racial discrimination in an island where Japan attacked its pearl harbor on 1941 and killed 2,403 people, causing her to wonder the impact of education in the values of children.

1-3. Purpose of the research

The purpose is to understand the connections that the education in multicultural society has in common to develop a youth who are respectful to people with different values and to its native culture of the land. Malaysia and Hawaii, the two multicultural societies since a century ago, are utilized to understand the essential components for the education in multicultural society.

The research question of this study is, “What is an adaptable form of education in a multicultural society?”

Malaysia and Hawaii serve as an example of a multicultural society. Comparative analysis is conducted to reveal the similarities and differences in education to understand the essential aspects of an adaptable education in a multicultural society.

1-4. Significance of the research

The research utilizes the cases of Malaysia and Hawaii, which are the country and the state with more than 3 different ethnicities co-living. An adaptable form of education in a multicultural society can be discerned based on a preliminary comparison of the similarities and differences among two multicultural society’s education.

1-5. Limitations of the research

Malaysia and Hawaii can be considered not to be the best object to compare and understand the aspects of education in multicultural societies. First, this is due to the scale of the research, meaning that this research compares the country level curriculum and policies to the state level school curriculum and policies. Since different areas of the country own different resources, it is difficult to assume the connection of public education as a whole country or whole state. In addition, demographics are extremely different in Malaysia and Hawaii. In Malaysia, there are more than the majority of the population who can be identified as the natives but on the other hand, there are about 10% of Natives living in Hawaii. With these limitations, this study can be considered as a preliminary comparison between two multicultural societies.

2. Research Method

The research was conducted based on a bibliographic survey/review, lecture of Dr. Ahmad, and classes ran as part of the “World Exploration Club” ([せかい探究部]) program.

2-1. Literature Review

Hawaii Department of Education website, news articles, research papers about Malaysia and its school curriculums were utilized in the study. The author believes that foreign language education, native culture inheritance, and affirmative action for natives are key components of shaping an adaptable education in diverse communities. Therefore, the author paid attention to those components when researching the similarities and differences between Hawaiian and Malaysian education.

2-2. Dr. Ahmad’s Lecture

From September 8 through 12 on 2020, Sophia University hosted a virtual study abroad program named Sophia Online Summer Program—Learning from Southeast Asia: Creating Together Resilient and Sustainable Future Society, where they invited participants and guest speakers from Sophia University in Japan, Ateneo de Manila University (ADMU) in Philippines, Mahidol University International College (MUIC) in Thailand, Xavier Learning Community in Thailand, and UKM in Malaysia. On September 11, 2020, Dr. Ahmad from the UKM delivered a lecture, “Multicultural Malaysia: Diversity & Sustainability.” Some of the background information of Malaysia in this research is based on the information presented in his lecture.

2-3. Lectures provided at the World Exploration Club

Since summer 2020 to present, Sophia Global Education and Discovery Co. Ltd. (Sophia GED) has operated the World Exploration Club program for high school students. Dr. Yasushi Hirotsato and Ms. Erika

Atarashi ran lectures about politics, economics, current events and much more information about ASEAN countries in the program. There were also guest speakers invited, such as Dr. Yuto Kitamura, Professor, University of Tokyo; Dr. Kiyoshi Furusawa, Assistant Professor, Rikkyo University; and Mr. Yosuke Kataoka, Bioengineer, Chitose Group. The ideas in the research were influenced by their lectures, talks from guest speakers, as well as discussions with other participants of the program.

3. Cases: Malaysia and Hawaii

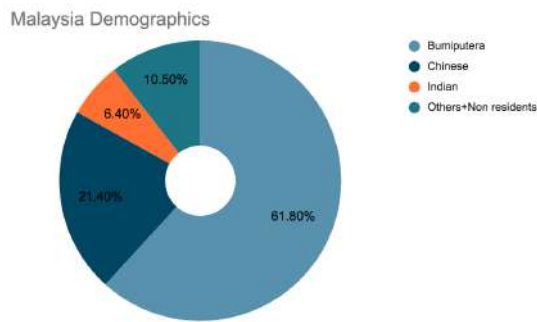
This section presents cases of Malaysia and Hawaii, regarding their history, demographics, public school curriculum, and education policies.

3-1. Case 1: Malaysia

3-1-1. Background Information

Malaysia is a country located in Southeast Asia with an official language: Bahasa Melayu or simply, Malay. Figure 1 reveals that the population is composed mainly by 3 ethnic groups—61.8% bumiputera (native population), 21.4% Chinese, and 6.4% Indian (The Malaysian Administrative Modernization and Management Planning Unit, n.d.). Approximately 61% of the population identify themselves as Muslim but 19.8% identify as Buddhist, 9.2% identify as Hindu, and 6.3% identify with traditional Chinese religions such as Confucianism and Taoism (Evason, 2016). This multi-ethnic and multi-religious demographic was influenced from the history of importing workers from foreign countries for cassiterite and rubber plantation during the 20th century (Castles & Miller, 2011). The country also has a history of being colonized by Portugal, Netherland, Japan, and Britain (Ahmad, 2020).

Figure 1: Malaysia Demographics



Note. Data from The Malaysian Administrative Modernization and Management Planning Unit (n.d.).

3-1-2. School Curriculum

In Malaysia, secondary education institutions are divided into lower secondary and upper secondary school. For the upper secondary school, there are 6 different school types: regular school, fully residential school, technical school, religious school, vocational school, and special school. In 1996, Integrated Curriculum for Secondary Schools (ICSS) was introduced, which demanded to teach foreign languages such as Arabic, Japanese, French, and German in the secondary schools. It also established core subjects and additional subjects to be taught in the lower secondary school. There are 10 core subjects, which are Malay, English, Mathematics, Islam, science, geography, history, life environment studies, art, and health/physical education. Additional Subjects are Chinese, Tamil, and Arabic. In the regular upper secondary school, there are 7 core subjects: Malay, English, Islam, mathematic, science, history, and health/physical education. There are 3 additional subjects: Chinese, Tamil, and Arabic. There are also electives and they are divided into 4 groups: humanities, technical skills, science, and Islam. The subjects in the humanities group include Malay literature, English literature, geography, art, and Arabic. The subjects in the technical skills group include accounting, introduction to economics, commerce, agricultural science, home science, advanced mathematics, mechanical engineering, private engineering, electronics, engineering technology, and cartography. The subjects in science include experimental

science, physics, chemistry, and biology. The subjects in Islam include Islamic mystery, Quran, and Islam (Zaidanhojin Jichitai Kokusaika Kyoukai 2001).

Moreover, in 2013, the Ministry of Education has identified six pillars in education: communication; spirituality, attitudes, and values; humanity; science and technology; physical development and aesthetics; and personal skills. The communication pillar encourages the learning of verbal and nonverbal language skills listening and speaking, reading and writing, and the value of reasoning. Bahala Malaysia, English, Chinese, Tamil, Arabic, Iban, Kadazan, and Semail language education fall under this pillar. The spirituality, attitudes, and values pillar encourages respect for the religious practices, beliefs, attitudes and values of different religions believed in Malaysia. Islam is both taught to Muslim and non-Muslim students, benefitting on their moral education. The humanity pillar encourages the understanding of local knowledge, traditions, and the environment. It is aimed to proliferate the sense of patriotism and convey unity to be expressed to the nation and to the world. As the name mentions, the science and technology pillar encourages the accumulation of scientific knowledge, mathematics, and technology-based skills; the physical pillar encourages healthy physical development and health. The personal skills pillar encourages the leadership and personal development through curricular and extracurricular activities (Barghi et al., 2016).

3-1-3. History Education

In Malaysia, History is taught to all Level 2 students. The primary school history curriculum spotlights the development of national history as well as elements of citizenship and civil values: contributing in raising students' awareness towards their national identity and patriotism. At Year 4, students learn "national early history"; at Year 5, they learn "national sovereignty"; and at Year 6, they learn "national prosperity." These education raises learners who are able to understand Malaysia's national heritage in local, national, and global contexts, conveying the appreciation towards Malaysia's

ethnic traditions, creating the sense of identity and loyalty to the country, and acknowledging the respect towards the culturally diverse community (Barghi et al., 2016).

The Kurikulum Standard Sekolah Rendah (KSSR), the standard primary school curriculum of Malaysia, demands the Malay language to be taught as the medium of instruction for all subjects. Students learn it through the context of science; heritage appreciation; creativity and innovation; culture, arts, and aesthetics; and identity, patriotism, and citizenship. They will not be learning the language through vocabulary in the absence of context, instead, they will be exposed with traditional food, costumes, games, other forms of traditional entertainment, visitation to major heritage sites, to reinforce the concepts learned in classrooms and to deepen their understanding towards their heritage (Barghi et al., 2016).

3-1-4. Language Education Policy

In addition to Malay, Tamil and Chinese are spoken as well in the community but Tamil and Chinese are restricted to be taught in public school. Tamil and Chinese can be only used as a language of lecture until primary school and classes must be taught in Malay from secondary schools (Kimura, 2002).

In 2003, the government established a policy of using English to instruct science and mathematics in the public school but ended in 2011. However, they are still continued to be taught as a second language in both primary and secondary schools. In primary schools where they use Chinese and Tamil as the language of instruction, English is taught as their third language. In public universities, Bachelor Degree programs are taught in Malay, except for subjects related to science, mathematics, and computing and IT subjects, which are often taught in English. Graduate studies are generally conducted in English and in private universities, English is usually their language of instruction (Clark, 2014).

3-1-5. Bumiputera Policy

In 1971, Malaysia introduced the New Economic Policy (NEP) which serves as a form of affirmative action to the Bumiputera—native people of Malaysia—because in general, the Bumiputera group have lower income than other ethnic groups (Ali, 2016). Affirmative action influences the education policies in Malaysia too. One example of this is the establishment of secondary school for Malay elites. 40 schools were created as of January 2000 and only Bumiputras who placed high in the 6th grade national standardized exam are permitted to enter the school (Zaidanhojin Jichitai Kokusaika Kyoukai, 2001). Another example of affirmative action is that all nation operated public universities obtain a fixed quota for Bumiputera students for them to be advantaged in pursuing higher education (Suda, n.d.). In the case of UiTM (Universiti Teknologi MARA), their vision is “to establish UiTM as a premier university of outstanding scholarship and academic excellence capable of providing leadership to Bumiputeras’s dynamic involvement in all professional fields of world-class standards in order to produce globally competitive graduates of sound ethical standing” (Ali, 2016). Higher education institutions attempt to enhance the learning of Bumiputeras by providing programs and resources for them to be advantaged than other ethnic groups.

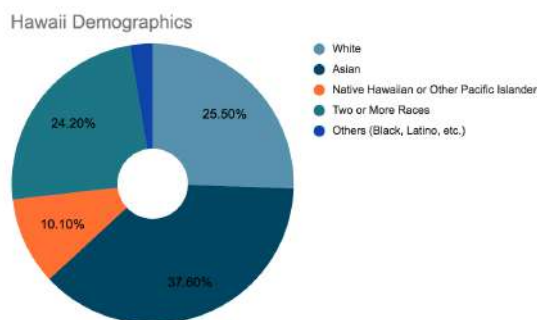
3-2. Case 2: Hawaii

3-2-1. Background Information

Hawaii is the state of the United States located in the Pacific Ocean. It has two official state languages: English and Hawaiian, and it is the only state in the United States with multiple official languages (Hawaii State Department of Education, n.d.-a). Figure 2 shows that the population is multiracial, where 24.2% identify as two or more races, 37.6% identify themselves as an Asian alone, 25.5% identify as a white alone, and 10.1% identify as a Native Hawaiian and Other Pacific Islander. As the United States as a whole, only 2.8% of the United States population

identify as two or more races, 5.9% identify as an Asian alone, 75% identify as a White alone, and 0.5% identify as a Native Hawaiian and Other Pacific Islander. There are no races that comprise the majority of the population in Hawaii (U.S. Census Bureau, 2020).

Figure 2: Hawaii Demographics



Note. Data from U.S. Census Bureau (2020).

This diverse demographic was influenced by the sugar cane and pineapple plantation industry which began in the 1850s (Fox, 2017). Laborers were imported from different countries including Japan, China, the Philippines, Korea, Puerto Rico, and Portugal (Frigerio, 2016). Hawaii was annexed by the United States in 1898, and admitted as the state of the United States in 1959 (Schamel & Schamel, 2016).

3-2-2. Hawaiian Studies

Hawaiian study is a K-12 program that instructs Hawaiian culture, history, and language, including integration of Hawaiian concepts and content into classroom lessons by teachers and/or school-level Cultural Personnel Resources. The history of Hawaiian study program begins in 1981, when the Hawaii State Department of Education (HIDOE) adopted a kupuna-based program which utilizes native people of Hawaii (kupuna) to teach traditional Hawaiian skills, knowledge, values and practices to students. This was gradually implemented statewide to educate K-6 students (Hawaii State Department of Education, n.d.-b). There were different Hawaiian Study programs established afterwards, for instance: the Hawaiian Language Immersion Program

or Ka Papahana Kaiapuni Hawai'i (Hawaii State Department of Education, n.d.-a). Kaiapuni schools use the Hawaiian language as a language of instruction. English will not be introduced as a subject until grade 5 and there are 25 public and charter schools which incorporate the program (Hawaii State Department of Education, n.d.-c).

3-2-3. World Language

HIDOE implements the World Languages Program that provide teaching and learning of languages other than English and the cultures the languages represent. Their vision is to develop students' ability to communicate and demonstrate cultural competence in at least two languages and to encourage Hawaii's students to be educated, healthy, and joyful lifelong learners who could contribute positively to the community and global society. There are 11 languages taught at the elementary and secondary schools including American Sign Language, French, German, Hawaiian, Ilokano, Japanese, Korean, Mandarin Chinese, Russian, Samoan, and Spanish. There are different languages available from school to school based upon resources and interest from students and the community (Hawaii State Department of Education, n.d.-f).

On February 16, 2016, Hawaii State Board of Education (HIBOE) introduced BOE Policy 105-14, which is a multilingual policy for equitable education (Raatiior, 2016). It was established according to the vision that all HIDOE schools should embrace, promote, and perpetuate multilingualism and multiculturalism to support and advance learners, families, and communities. HIBOE acknowledges the important role of multilingualism in providing a meaningful and equitable education for student achievement and recognizes all cultures and languages are valuable resources for a student's learning environment (Hawaii State Department of Education, n.d.-e). The policy specified how HIDOE should strive to meet the goals of the policy, for example: providing a range of language programs for multilingual students, providing effective educators with appropriate

capacity, and providing outreach support to families to encourage engagement in their children's education (Policy 105-14 Multilingualism for Equitable Education, 2016).

3-2-4. Native Hawaiians' Education

The rationale of the affirmative action to the native hawaiian's education is that according to the Native Hawaiian Education Act, which is part of Elementary and Secondary Education Act of 1965, congress acknowledges that the extending of services to Native Americans is because of their unique status as the indigenous people of a once sovereign nation as to whom the United States has established a trust relationship, denying the criticism upon racial discrimination (Native Hawaiian Education Council, n.d.).

Native Hawaiians are financially funded by the government to encourage pursuing education. In September 2020, Hawaii announced that they will be receiving \$27 million in federal education funds for Native Hawaiians. These money will be used to fund 23 Native Hawaiian educational programs across the state and to early childhood education, family engagement, Hawaiian language education, the creation of STEM pathways, and curriculum and professional development (Peterkin, 2020).

There are exclusive educational opportunities for students with Hawaiian ancestry, for example: a right to enroll in Kamehameha Schools. Kamehameha Schools is a private charitable educational trust. Their mission is to improve the capability and well-being of Hawaiians through education. They are serving over 6,900 students of Hawaiian ancestry at K-12 campuses on Oahu, Maui and Hawaii island, and at 30 preschool sites statewide. Approximately 98 percent of the support to their educational programs are generated from their endowment fund; program tuition and fees are normal, and the majority of students receive financial aid or scholarships (Kamehameha Schools, n.d.).

Another example is Mohala i ke A'o (MIKA). MIKA is a Native Hawaiian Project funded by the U.S.

Department of Education. They provide educational services to children and youth of Hawaiian ancestry to improve educational outcomes with a collaborative effort of the University of Hawai'i at Manoa and HODOE. MIKA launched a three-year project (2017-20) with HODOE and University of Hawaii's Curriculum Research and Development Group to work with 12 elementary schools and schools communities with a high percentage of the enrollment of Native Hawaiian students to improve the reading of pre kindergarteners to 3rd graders (Hawaii State Department of Education, n.d.-d).

Moreover, different organizations such as the Office of Hawaiian Affairs (OHA), Na Lei Na'auao or Native Hawaiian Charter School Alliance, Liko A'e Native Hawaiian Leadership Program at Maui Community College, and Hawai'i Community Foundation, grants scholarship opportunities to Native Hawaiian students to help them pursue higher education. They intend to mitigate the financial burden placed on Native Hawaiian students in pursuing higher education and hope to maximize choices of life and work through colleges (Office of Hawaiian Affairs, n.d.).

4. Comparative Analysis

Table 1 below compares and contrasts the background information of Malaysia and Hawaii.

Comparative analysis is conducted according to the following three areas: (i) foreign language education, (ii) native culture inheritance, and (iii) affirmative action for natives. It appears that these three areas would be the essential aspects of an adaptable education in a multicultural society, based on cases of Malaysia and Hawaii to understand the similarities and differences in the education of a multicultural society.

Table 1: Background Information of Malaysia and Hawaii

	Malaysia	Hawaii
Official Language	Malay	English & Hawaiian
Demographics	Bumiputera (62%), Chinese (21%), Indian (6%)	Asian (38%), White (25.5%), Native Hawaiian or Other Pacific Islander (10%)
History leading to the establishment of diverse community	Cassiterite and rubber plantation during the 20th century -> workforce were imported from foreign nations	Pineapple plantation industry in the 1850s -> workforce were imported from foreign nations

4.1. Foreign Language Education

In both Malaysia and Hawaii, the foreign language education is highly emphasized in their education curriculum. This section considers Malaysia's foreign languages as any language except Malay and Hawaii's foreign languages as any languages except English and Hawaiian.

In Malaysia, secondary school curriculum demands to educate English as their core subject and Chinese, Tamil, and Arabic as their additional subjects. Students also have an opportunity to learn English literature as their electives. English is continuously taught to them as a second language in both primary and secondary schools. Although there are primary schools that adopt Chinese and Tamil as their language of instruction, English are taught to the students as their third language. Students in Malaysia are exposed to different foreign languages from young ages.

In Hawaii, different foreign languages are taught at elementary and secondary schools including French, German, Japanese, Korean, Mandarin Chinese, Spanish, and Russian. The Department of Education encourages the foreign language education and acknowledges the importance of it in a student's learning environment as they ratified Policy 105-14 Multilingualism for Equitable Education. Students in Hawaii are exposed to different foreign languages from young ages as well.

4.2. Native Culture Inheritance

In both Malaysia and Hawaii, students receive native culture education including native language education and history education, no matter if they are affiliated to its native culture. They serve to deepen the understanding of native cultures in the young population and inherit the culture to next generations. This section considers native culture in Malaysia as a Malaysian culture and the native culture in Hawaii as a Hawaiian culture.

In the case of Malaysia, Malay, history, and Islam is required to be taught as the core subject of secondary schools. Although there are public primary schools that instruct in Tamil or Chinese, Malay is used as the language of instruction in all public secondary schools. History education starts from primary school in Malaysia. The primary school history curriculum emphasizes the development of national history as well as elements of citizenship and civil values to acknowledge Malaysia's national heritage in local, national, and global contexts. It serves to develop students' awareness towards their national identity and patriotism. The Ministry of Education also demands to teach Islam—religion believed by about two-thirds of the population of Malaysia—to both Muslim and non-Muslim students for moral education. It conveys respect for different religious practices, beliefs, attitudes, and values believed in Malaysia.

In the case of Hawaii, there are few public and charter schools which use Hawaiian as the language of instruction.

The schools are called Kaiapuni Schools and they are part of Hawaiian Language Immersion Program. Although the majority of the schools use English to operate classes, there is a subject called Hawaiian study to instruct Hawaiian culture, history, and language to students in K-12 public institutions. The Department of Education also adopted a kupuna (Native Hawaiian) based program in which students are able to learn Hawaiian cultures through native people.

4.3. Affirmative Action for Natives

In both Malaysia and Hawaii, the government and private organizations provide affirmative action in education directed to native people of Malaysia (Bumiputera) and Native Hawaiians. Affirmative action assists indigenous populations from pursuing higher education despite the financial burden.

In Malaysia, there are secondary schools solely for Malay elites. Also, public universities such as Universiti

Teknologi MARA obtain a fixed quota for Bumiputera students to provide them an advantage to enter universities.

In Hawaii, similar to the elite school of Malaysia, there is a school called Kamehameha Schools where students with hawaiian ancestry could enroll. Students are able to learn the capability of well-being of Hawaiians with normal tuition and fees supported by donations. In addition, there are exclusive scholarship opportunities for Native Hawaiians to pursue higher education. Organizations such as the Office of Hawaiian Affairs (OHA), Na Lei Na’auao, Liko A’e Native Hawaiian Leadership Program, and Hawai’i Community Foundation grants scholarships every year to empower Native Hawaiian students.

4.4 Summary

Table 2 summarizes the main points discussed in sections 4.1 to 4.3.

Table 2: Summary of Main Points Discussed

	Malaysia	Hawaii
Foreign Language Education	<ul style="list-style-type: none"> The language of instruction in some primary schools are Tamil or Chinese English is taught from primary schools and it becomes a core subject from secondary schools Some secondary schools teach Chinese, Tamil, and Arabic as their additional subjects 	<ul style="list-style-type: none"> A total of 11 languages are taught in the primary and secondary schools of the state including American Sign Language, French, German and etc. Multilingualism is encouraged with a HIDOE policy for equitable education
Native Culture Inheritance	<ul style="list-style-type: none"> All public secondary school used Malay as the language of instruction History class from primary school Requires Islam education to Muslim and non-Muslim students 	<ul style="list-style-type: none"> Few public and charter schools uses Hawaiian as the language of instruction (Kaiapuni Schools) Hawaiian study class Kupuna (Native Hawaiian) based program
Affirmative Action for Natives	<ul style="list-style-type: none"> Bumiputera Policy Elite schools for Malay population Fixed quota for Malay students to enter universities 	<ul style="list-style-type: none"> Kamehameha Schools (school for students with Native Hawaiian ancestry) Scholarships for higher education

5. Conclusion

This research was based on a research question, “What is an adaptable form of education in a multicultural society?” It focused on 3 components—foreign language

education, native culture inheritance, and affirmative action for natives—to understand the similarities and differences exist in the education of a multicultural society. Malaysia and Hawaii were presented as the example of multicultural society. The evidence from literature review

acknowledged that education in Malaysia and Hawaii emphasizes the components, proving the prediction that multicultural society uses foreign language education, native culture inheritance, and affirmative action for natives, to proliferate the respect towards people with different cultures.

However, whether or not they emphasize those components more compared to other nations or states with no multicultural demographics are not largely understood. Further research of the suitable education in a multicultural society is required by conducting comparative analysis with other nations and states without multicultural demographics. Moreover, this research did not consider the negative effects that are caused by an unique policy in a multicultural society, meaning that it insufficiently acknowledges if it is helping to raise citizens who were respectful to people with different backgrounds. Further research is also required to examine the pros and cons of education directed to the multicultural population.

Bibliography

[English]

- Ahmad, Abdul Latiff. "Multi-Cultural Malaysia: Diversity & Sustainability." Presented at the Sophia Online Summer Program—Learning from Southeast Asia: Creating Together Resilient and Sustainable Future Society, 11 September 2020.
- Ali, I. (2016). Affirmative Education in Higher Education: The Malaysian Experience. *Asian Journal of University Education*, 12(1), 83–104. ERIC. <https://files.eric.ed.gov/fulltext/EJ1207798.pdf>
- Barghi, R., Zakaria, Z., Aswati, H., & Hashim, N. H. (2016). Heritage Education in the Primary School Standard Curriculum of Malaysia. In ResearchGate (pp. 1–20). Teaching and Teacher Education. https://www.researchgate.net/publication/309040266_Heritage_Education_in_the_Primary_School_Standard_Curriculum_of_Malaysia
- Clark, N. (2014, December 2). Education in Malaysia. WENR - World Education News + Reviews; World Education Services. <https://wenr.wes.org/2014/12/education-in-malaysia>
- Evason, N. (2016). Malaysian Culture - Religion. Cultural Atlas; International Education Services (IES). <https://culturalatlas.sbs.com.au/malaysian-culture/malaysian-culture-religion>
- Fox, C. T. (2017, September 26). Hawaii's Rainbow of Cultures and How They Got to the Islands. Hawaii Magazine; HAWAI'I Magazine. <https://www.hawaiimagazine.com/hawaiis-rainbow-of-cultures-and-how-they-got-to-the-islands/>
- Frigerio, A. (2016). The Effect of Hawaii's Vast Diversity on Racial and Social Prejudices. In VCU Scholars Compass (pp. 1–8). Virginia Commonwealth University. <https://scholarscompass.vcu.edu/cgi/viewcontent.cgi?article=1051&context=auctus#:~:text=Hawaii%27s%20unique%20diversity%20is%20derived>
- Hawaii State Department of Education. (n.d.-a). Hawaiian Education. Hawaii State Department of Education; Hawai'i State Department of Education Offices. Retrieved October 20, 2020, <https://www.hawaiipublicschools.org/TeachingAndLearning/StudentLearning/HawaiianEducation/Pages/home.aspx>
- Hawaii State Department of Education. (n.d.-b). Hawaiian Studies. Hawaii State Department of Education; Hawai'i State Department of Education Offices. Retrieved October 20, 2020, <https://www.hawaiipublicschools.org/TeachingAndLearning/StudentLearning/HawaiianEducation/Pages/HSP.aspx>
- Hawaii State Department of Education. (n.d.-c). Kaiapuni schools — Hawaiian language immersion. Hawaii State Department of

- Education; Hawai'i State Department of Education Offices. Retrieved October 20, 2020, <https://www.hawaiipublicschools.org/TeachingAndLearning/StudentLearning/HawaiianEducation/Pages/Hawaiian-language-immersion-schools.aspx>
- Hawaii State Department of Education. (n.d.-d). Mohala i ke A'o (MIKA). Hawaii State Department of Education; Hawai'i State Department of Education Offices. Retrieved October 20, 2020, <https://www.hawaiipublicschools.org/TeachingAndLearning/StudentLearning/HawaiianEducation/Pages/mohala.aspx>
- Hawaii State Department of Education. (n.d.-e). Multilingualism. Hawaii State Department of Education; Hawai'i State Department of Education Offices. Retrieved October 23, 2020, <https://www.hawaiipublicschools.org/TeachingAndLearning/StudentLearning/Multilingualism/Pages/default.aspx>
- Hawaii State Department of Education. (n.d.-f). World Languages. Hawaii State Department of Education; Hawai'i State Department of Education Offices. Retrieved October 21, 2020, <https://www.hawaiipublicschools.org/TeachingAndLearning/StudentLearning/Multilingualism/Pages/WL.aspx>
- Kamehameha Schools. (n.d.). About Kamehameha Schools. Kamehameha Schools; Kamehameha Schools. Retrieved October 23, 2020, https://www.ksbe.edu/about_us/about_kamehameha_schools/#:~:text=The%20mission%20of%20Kamehameha%20Schools,at%2030%20preschool%20sites%20statewide.
- Native Hawaiian Education Council. (n.d.). The Native Hawaiian Education Act. Native Hawaiian Education Council; Native Hawaiian Education Council. Retrieved October 23, 2020, <http://www.nhec.org/about-nhec/the-native-hawaiian-education-act/>
- Office of Hawaiian Affairs. (n.d.). Education. OHA - Office of Hawaiian Affairs; Office of Hawaiian Affairs. Retrieved October 23, 2020, from <https://www.oha.org/education/>
- Peterkin, O. (2020, September 10). Hawaii to receive \$27M in federal educational funds for Native Hawaiians. Pacific Business News; American City Business Journals. <https://www.bizjournals.com/pacific/news/2020/09/10/hawaii-to-get-27m-for-native-hawaiian-education.html>
- Policy 105-14 Multilingualism for Equitable Education, (2016). <https://boe.hawaii.gov/policies/Board%20Policies/Multilingualism%20for%20Equitable%20Education.pdf>
- Raatior, V. (2016, February 19). Multilingualism Policy Approved in Hawaii. Chuuk Reform Coalition; Chuuk Reform Movement. <https://www.chuukstate.org/multilingualism-policy-approved-in-hawaii/>
- Schamel, W., & Schamel, C. E. (2016, August 15). The 1897 Petition Against the Annexation of Hawaii. National Archives; The U.S. National Archives and Records Administration. <https://www.archives.gov/education/lessons/hawaii-petition#:~:text=On%20July%2012%2C%201898%2C%20the>
- The Malaysian Administrative Modernization and Management Planning Unit. (n.d.). Demography of Population. MyGovernment; MAMPU. Retrieved January 6, 2021, <https://www.malaysia.gov.my/portal/content/30114>
- U.S. Census Bureau. (2020). Hawaii Population Characteristics 2019. In hawaii.gov (pp. 1–5). State of Hawaii. <https://census.hawaii.gov/wp-content/uploads/2020/06/Hawaii-Population-Characteristics-2019.pdf>

【Japanese】

- 木村出 (2002) 「教育セクターの現状と課題 東南アジア 4 カ国の自立的発展に向けて」, <https://www.jica.go.jp/jica-ri/IFIC_and_JBICI-Studies/jica-ri/publication/archives/jbic/report/paper/pdf/rp17_j.pdf> 2020 年 8 月 6 日アクセス.
- S. カースルズ、M.J. ミラー (2011) 「ケース 6.3 東南アジアの移民国家のジレンマ—マレーシア」 『国民移民の時代』, <https://www.unp.or.jp/images/age-of-migration/case6.3_aom.pdf> 2020 年 9 月 18 日アクセス.
- 須田貞崇 (発行年不明) 「マレーシアの教育事情」, <<http://crie.u-gakugei.ac.jp/report/fb06a45cfc897ddeb4d83d47c217531333544936.pdf>> 2020 年 12 月 1 日アクセス.
- 財団法人自治体国際化協会 (2001) 「マレーシアの教育」, <http://www.clair.or.jp/j/forum/c_report/pdf/219.pdf> 2020 年 12 月 1 日アクセス.

名文化に見るタイの社会状況とタイ人気質

共立女子高等学校3年 土方 楓子

1. 序章

タイの名文化に興味を持ったのは、あるタイ人の俳優のインタビューを聞いたことがきっかけだ。自己紹介で、彼は何気なく「名前を変えた」と言い、また、名字を聞かれてもすぐに思いつけない様子だった。私は「タイでは簡単に改名できるのか?」「なぜすぐに自分の名字を言えないのか?」と疑問に思い、調べてみることにした。すると、タイの名文化は日本とはかなり異なるということが分かった。具体的には、以下の特徴がある¹。

- ・タイ人は生まれた時に名前と一緒にニックネームを与えられる。
- ・親しい人はニックネームで呼び、尊敬する人や、首相などの偉い人は名前で呼ぶ。
- ・名字は公的な手続きのみに使う。
- ・改名することは珍しいことではない。

本論文の目的は、このような名文化がどのような歴史や慣習によって形成されたのか、またなぜいとも簡単に改名をするのかを考察することにある。

2. 研究方法

研究方法は、文献調査とインタビュー調査を組み合わせる。それぞれの概要は以下の通りである。

2-1. 文献調査

人名に関する書籍やタイの文化全般を紹介する書籍、タイの名文化を紹介するウェブサイトを参照した。

2-2 インタビュー調査

2020年の10月から11月の間に、オンライン上で4人のタイ人にインタビューを実施した。全員20代で、男女2人ずつ、その内2人は「タイ族」と異なる名字・名前・ニックネームの慣習を持つ可能性から、「少数民族」と呼ばれるアカ族とカレン族出身の方に協力していただいた。（表1：インタビュー対象者の属性）

質問内容は主に下記項目を軸とし、半構造化インタビューで行った。

- ①インタビュー対象者の名字・名前・ニックネーム。
- ②名前・ニックネームはそれぞれ誰がつけ、どのような意味があるのか。
- ③改名したことがあるか、または改名したいと思うか。

表1：インタビュー対象者の属性
(インタビュー対象者を本文ではA・B・C・Dと呼ぶ)

対象者	年代・性別	出身地
A	20代女性	バンコク近郊出身
B	20代男性	バンコク出身
C	20代女性	アカ族出身
D	20代男性	カレン族出身

3. 結果と考察

3-1. 歴史背景・制度

3-1-1 名字

近代化政策を急ぐラーマ5世は、国民一人一人のデータ(誕生日・死亡日・家族の人数)を記録しようとしたが、あまりにも同じ名前の人がいて判別できない事態となった。そこで、1912年、ラーマ6世は姓氏令を發布して、国民に創姓登録を義務づけた。地方では有力者がサンプルを作成し、アイデアの浮かばない者に配布した。仏教徒のタイ人の多くは、名字が家族に良い影響を与えるよう、仏典から言葉を選んで繋いだ。名字を作る際には下記のような決まりがある。

¹本論ではFirstnameを「名前」、Lastnameを「名字」と呼ぶ。また、タイ人の名字・名前・ニックネームを紹介する際、都合上、本来タイ文字であるものをアルファベットで示した箇所がある。

①「母音・発音記号を除いて10文字以内」

王族の子孫や将官、政府機関で働く者は名字に接頭辞が付いたため、10文字を超えることがある。また、10文字というのは建前で、一般人でも30文字以上持つ例も少なくない。

・王族の子孫の名字につく接頭辞の例：Na Ayudhya(Ayutthaya)

(参考) Vatanika Patamasingha Na Ayudhya

名前 名字

②「唯一の名字であること」

タイでは、親戚以外に同じ名字の人はほぼいない。現在はその名字が唯一のものか調べられるデータベースがあるが(写真1：名字のデータベース)、昔は調べられるものが無かったため、名字が被ることがあった。タイ人の名字は81%が唯一のものだと言われている。

写真1：名字のデータベース

(備考) 上が名字を入力する欄、下が名字の発音を入力する欄

また、法律により、結婚すると夫の名字を名乗らなければならなかったが、2004年に違憲とされ、下記の中から選ぶようになった。

- ・夫の名字を名乗る
- ・妻の名字を名乗る
- ・それぞれの名字を使い続ける
- ・新たに名字をつくる

日本では夫婦別姓について長年議論されているが、タイでは20年近く前に認められており、更に、新しく名字を作ってもいいと、柔軟に対応している。

ただ、名前とニックネームを使う文化が定着していた上、名字は長すぎるため、日常で使われることはない。使われるのは公的な手続きをする時くらいで、親しい者同士でも互いの名字を知ら

ないことがある。また、後述するが、中華系タイ人を除いて名字を継ぐという思いもさほど強くない。

3-1-2 名前

階級社会だった昔、平民は「ミー」や「サー」など1音節の短い名前を使い、王族や位の高いお坊さんだけが長く格好のいい名前を使っていた。しかし、1932年の立憲革命後、中層・下層の平民も高層の人々と同等でいたいと、長い名前を好むようになった。

また、敬虔な仏教徒が多いタイでは、お坊さんに名前をつけてもらうのが良いとされており、昔は多くの親がお寺に向いて命名してもらっていた。しかし、世の中が忙しくなった現在は、お坊さんに頼まず、たくさん出版されている命名の本を参考に自分で名付ける親が増えている。

命名法は、占星術によることが多い。子供の生まれた曜日と時刻をもとに、母音・子音合わせて65ある文字の中から運氣の上がる文字を選ぶ。ここに、「自分の生まれた曜日のカラーや仏像が運を高めてくれる」と考えるのと同じで、生まれた曜日を重視するタイ人の考えが表れている。この命名法では、生まれた曜日ごとにタブーがあり、例えば月曜日生まれの人の名前に母音がついていて、その人のキャリアがうまく行く時、その人の家族は反対にうまく行かなくなるとされる。タイ人の名前は35%が唯一のものだと言われている。

決まりとしては、1962年に個人名法が制定され、下記のもの以外なら自由につけられるとされた。

- ・国王の名前に類似したもの
- ・身分の高い人が与えたもの
- ・意味のない単語
- ・10音節以上持つもの(長すぎるもの)

その他、名前にかかる特徴として、以下の特徴が挙げられる。

①主要な名前とその意味

Arthit (男の子)：「太陽の子」という意味。寓話や信仰、食文化など、全てのタイの文化を体現したのがこの名前。他に「粘り強い」「よく働く」「強い」などの意味がある。

Somchai (男の子)：「王」という意味。昔は王室か、高位の人しか使えず、貧しい家の子供がこのような高貴な名前を使うと馬鹿にされた。現在はそのようなことはなく、貧富に関わらず自由に使うことができる。

Malee (女の子)： 「花(ジャスミン)」という意味。生まれた時の赤ちゃんの美しく、無邪気な姿から。

Anong (女の子)： 「美しい」という意味。持ち主を「美しいなければ」という気持ちにさせる名前。

②傾向

昔：男の子は勇者やリーダーを意味する名前、女の子は凛とした、品格のある女性を意味する名前が多かった。

現在：男女問わず、富、成功、健康、知性を意味する名前が増えている。

③珍しい名前

Raranrom(รารนรม)という名前を持つ人がいる。意味のない単語を認めない上記の法に即していないが、単語をくっつけて何の意味も持たなくても、書いた時のインパクトから名前をつける人もいる。Raranrom という名前は、いじめられ、ニュースで取り上げられるほど突飛であったが、通常ニックネームで使われるようなキャラクターや会社名を名前として使っても、悪印象を与えることはない。インタビューでAさんは「気にしない」、Bさんは「変ではあるが、珍しいと思われるくらいで、むしろそのことがプラスに働くのではないかと答えた。奇抜な名前を「キラキラネーム」と呼び、悪い印象を与えることが多い日本と比べて、タイの寛容さが表れている。

3-1-3. ニックネーム

スコタイ朝時代(13~15世紀)に庶民の間で子供の順を識別するために作られたのが始まり²。これは公式文書には記録されない。(例:"A"は1番目、"Yee"は2番目、"Sam"は3番目など)

現代に残る慣習が生まれたのはアユタヤ朝時代(14~18世紀)だ。タイは古くから精霊信仰が盛んで、新生児・乳幼児の死亡率が高いのは、超自然的な力を持つ精霊ピーが魂をさらうのだと人々は信じていた。そのため、本名の代わりに動物名(例:Moo[豚]、Puu[カニ])や、生まれた時の身体的特徴(例:Daeng [赤]、Uan[太っている])を日常的に使うことで、ピーの、子供にとりつく気を失せさせようとした。

現在も赤子には名前と一緒にニックネームがつけられるが、精霊から子供を守るというより、長い名前の代替としての呼びやすい短い名前という役割が大きくなっている。名前と違ってニックネ

ームは運勢に影響しないと考えられているため、適当につける親もいる。名前の縮めたもの以外、ニックネームが名前と関係していることはほとんど無い。出生時にはニックネームを役所に届け出るが、その後はニックネームを変えても報告する必要はなく、複数のニックネームを持つ人もいる。親しい者同士では名前よりもニックネームで呼び合うことの方が多い。男性はどのような場面でも自分のことを「ボム」と呼べるが、女性にはそのような便利な呼び名が無いため、自分のことをニックネームで呼ぶことが多い。名前に比べると、同じニックネームを持つ人は多い。また、名前が既に短いため、ニックネームを持たない人もいる。

その他、ニックネームにかかる特徴として以下の諸点が挙げられる。

①ニックネームの付け方

- ・ポジティブな意味の言葉を使う
- ・親の好きな食べ物・飲み物・動物・趣味の名前を付ける
例：Pancake[パンケーキ]、「Maew[猫]、Nok[鳥]、Pla[魚]
- ・親の好きな俳優・歌手・セレブと同じニックネームを付ける
- ・両親のニックネームを組み合わせる
例：両親のニックネームが Mote と Da なら、子供のニックネームは Mod などになる
- ・両親・兄弟のニックネームと同じ頭文字のニックネームを付ける
例：両親のニックネームが Jack と Jaa なら、子供のニックネームも J から始まる Joom や Jee などになる
- ・自分の名前の一部から取る
例：Kachana→Kan、Prasert→Sert

②傾向

昔： 1音節の短いものが主流。生まれた時の体の特徴や動物名から付ける。

現在：長く、発音が難しいものも増える。かっこよさや、音の響きも重視。英語のニックネームが増え、タイ語のニックネームと同数になる。

² 王族・位の高いお坊さんの名前は長すぎて周りに覚えてもらえなかつ

たために使った別名がニックネームの由来という説もある。

③ニックネームランキング <男女混合,タイ王国文化庁調べ>

(性別/意味)

*特殊な発音をするものは[]で示した

- 1位"May"(女/英語名)
- 2位"Ploy"(女/「宝物」)
- 3位"Nan"[naen](女/英語名)
- 4位"Ice"[ai](男女/英語名)
- 5位"Bank"(男/英語名)
- 6位"Nahn"[naam](女/「水」)
- 7位"Fah"(女/「空、青、天使」)
- 8位"New"(男女/英語名)
- 9位"Ball"[bon](男/英語名)
- 10位"Beer"(男/英語名)

英語名のニックネームは、親の思いを込めるというより、響きがかっこいい・かわいいという理由から付けられるようだ。

④タイ独特のニックネーム

会社名やキャラクターの名前をニックネームとして使う人もいる。例えば、Airbus、Nasa、King-Kong など。また、三人兄弟で、長男から順に Ice、Kim、Sandae というニックネームを持つ人達もいる。三人合わせて「アイスクリームサンデー」となり、名付けた人の遊び心が窺える。外国人は違和感を感じるかもしれないが、タイのニックネームはどのようなものでもいいのだ。

3-1-4. インタビュー対象者のまとめ情報と参考情報

タイ族のインタビュー対象者 (AさんとBさん) の名字・名前・ニックネームの特徴を以下の表2にまとめている。また参考情報として、タイのプラユット現首相とインラック元首相の例を取り上げる。

表2：インタビュー対象者のまとめ情報 (タイ族)と参考情報

	Aさん (20代女性)	Bさん (20代男性)	プラユット首相	インラック元首相
名字	中華系。名字は叔母が作った。中国語の音・意味を取り入れている。	住んでいる場所から作られた名字。海の近くに住んでいたことに由来。	Chan-ocha	Shinawatra
名前	「綺麗な子」という意味	「優れている人」という意味	Prayut	Yingluck
ニックネーム	分からない。名前から取ったと思われる。	父と兄のニックネームと同じ頭文字。	Too (タイ語で「大きい」という意味がある。首相になるくらい、立派な人物になってほしいという親の願いが込められているのか)	Puu (「カニ」という意味。インラック元首相は50台。この世代ではまだニックネームに動物名が使われている)

3-2 実生活におけるタイ人の名

ここまで名字・名前・ニックネームそれぞれが作られた歴史や一般的な慣習を挙げたが、ここからは実生活でのこれらの使い分け、改名の実態を見ていく。

3-2-1 名字・名前・ニックネームの使い分け

名字・名前・ニックネームの使い分けには、以下のパターンを見出すことができる。傾向としては、実際の生活でニックネームが頻繁に使われていることが分かった。

①自己紹介

インタビューで、「初めて会った人に3つのうちどれを教えるか」という質問に対して、Bさんは「私は<名前><名字>で、ニックネームは<○○>です。」と言うと答えた。ニックネームは名前より呼び易いし、自分もニックネームで読んで欲しいから、初対面で必ず教えると言う。一方でAさんは、名前と名字のみを教えると答えた。初対面でニックネームを教えるかどうかは人によるが、ニックネームで呼ぶことでより親密になれることは間違いないようだ。

②家・学校・職場など

自分の子供や友人、同僚はニックネームで呼ぶ。始めは名前と呼び合っていた上司と部下でも、仲良くなれば自然にニックネームで呼び合うようになる。また、コールセンターの人が「何と呼べばいいですか」と聞いてくることもあり、そこでニックネームで呼んでもらうよう言ってもいい。一方、名前と呼ぶ人とは、先生のような尊敬する人物や、医者や弁護士など。同じニックネームの人がいるため、学校で出欠を取る時は、先生は生徒を名前と呼ぶ。また、いつまでも名前と呼び合うのは、お互いに心理的距離があるという暗黙の了解になる。

③SNSのアカウント名

インタビューで、BさんはLINEはニックネーム、Facebookはプライベート用がニックネーム、仕事用が「名前+名字」だと答えた。一方Aさんは、LINE、Facebook共に「名前+名字」だと答えた。2人とも、タイ人のLINEのアカウント名はニックネームであることが多いと話した。Facebookは実名で登録するという規則があるが、タイ人は必ずしも「名前+名字」のフルネームを登録しているわけではない。

④実生活での記名

テストの答案用紙：名前+名字

所持品：基本ニックネームだが、ノートなどにはニックネームと名前・名字を併記

保険や携帯会社との契約書類：名前+名字

公の機関の書類：名前+名字

⑤有名人の呼び方

芸能人はニックネームをよく知られているが、同じニックネームの人もたくさんいるため、「ニックネーム+名前」が芸名になることが多い。

政治家はニュースで「名前+名字」のフルネームで呼ばれるため、多くの国民が名字を知っている。現首相であるプラユット首相は、「トー」というニックネームも知られており、国民に「トーおじさん」という意味の「ルントー」と呼ばれることがある。日本のメディアは、タイの首相を「プラユット」「タクシン」などとまるで名字であるかのように呼んでいるが、これらは名前だ。

⑥メディア

新聞の見出しでは、有名人はニックネームのみ書かれることが多い。事件のニュースではその人を識別するために、<ニックネーム><名前><名字>の順に呼ばれる。

3-2-2 改名について

タイでは改名は珍しいことではない。それは、改名の手軽さ故のことだと考えられる。タイでは、役所からの認定が降りやすく、手続きが簡単である。改名の理由と傾向には以下のものがある。

①名前を改名する

日本と比較すると、どちらも改名には「正当な理由」が必要とされるが、日本で認められるのは、

- ・奇妙な名前や難しすぎる名前である
- ・異性や外国人に間違われるような紛らわしい名前である
- ・性同一障害で、今の名前では不都合
- ・周囲に同姓同名がいて不都合

などの理由で、「正当な理由」かを家庭裁判所に裁定してもらう必要があり、手続きには総額で約1500~2000円、裁定結果が出るのに2週間~1ヶ月半かかるのに対し、タイでは、

- ・運氣向上のため
- ・繁栄のため

などの理由でも「正当」と認められ、戸籍謄本と身分証明書があれば、50パーツ(約175円)で、役所でその日中に手続きすることができる。2019年のタイの総選挙では、立候補者の男性11人が「タクシン」、女性4人が「インラック」に改名した。首相時代に功績を挙げ、今も支持される2人にあやかっただけの改名だという。選挙で当選するための手段として何人も改名したという事実からも、タイでは手軽に改名できるし、気軽にすることがかかる。

②名字を改名する

タイでは名字の変更に家の長か、子供なら親の承諾が必要で、手数料も名前変更の2倍(100パーツ)するということもあり、名前よりは申告数が少ない。

しかし、名字を変えられ、名字を継ぐ文化が浸透していないタイでは、家族全員が違う名字ということがあり得る。前述したように、タイでは夫婦別姓が認められているし、子供も名字を変える権利を持っている。法律で家族全員が同じ名字でなければならないと決まっている日本では考えられないことだ。

③改名する理由例

- ・何度も不幸に見舞われ、相談先のお坊さんに勧められる
- ・離散や離婚した
- ・親と不仲で、もう会いたくないと思い、縁を切りたくなった
- ・古い師に良くないと言われた

改名は嫌な思い出を絶って、心機一転するために使われているようだ。また、名前や名字の良し悪しが人生を左右するという考

えを持っていることも窺える。家族全員で名字と名前を変えた人は、「改名することは、新居に引っ越ししたり、新しい車に買い替えるようなものだ」と話す。

④インタビュー対象者の改名について

インタビューで、「改名したことがあるか、または改名したいと思うか」という質問に対して、Aさんは「改名したことがあります。父親と父親の友人が付けた名前を使っていたけど、母親が気に入らなくて、14歳の時、母親と役所に行って改名しました。」と話した。改名は母親の意向によるもので、Aさんの友人も親の意向で改名したという。一方、改名したことがないBさんとDさんは、「親がせっかく付けてくれたから」「自分の名前は親からの贈り物だから」と、今後も改名する気はないと回答した。Cさんも、「退屈な自分のニックネームは変えたいが、名前を変えたいとは思わない」と回答した。

改名が盛んではあるが、親が付けてくれた名前は大切にするとし、親の意向で変える人もいるくらい、タイ人にとっての親は大きな存在であることが窺える。

3-3. タイ族以外の名

タイ族以外の名について、中華系タイ人と少数民族（アカ族とカレン族）についての整理を行った。

3-3-1 中華系タイ人

タイに多く移住し、現在一大勢力となっているのが中華系の人々だ。20世紀初頭にタイ名を登録するよう求められ、人と被らないように様々な文字や単語を足した。

中国では同じ名字を持つ人が多いが、タイでは名字は唯一である必要があるからだ。その結果中華系の人の名字は長くなった。現在長い名字を持つのは中華系の子孫であることが多い。また、タイ人と違って名字は基本的に継ぐことになっている。

3-3-2 タイの少数民族-アカ族とカレン族-

タイ政府が僻地の戸籍を管理するため、数十年前に住民登録を始めた。父親の名字を登録するよう言われたが、カレン族では、母系社会である上に、名字の概念が無く、混乱した。少数民族の人々は各民族の名とタイの名、2種類を持つことになる。表3は、インタビュー対象者（少数民族）のまとめ情報である。

表3：インタビュー対象者のまとめ情報（少数民族）

	Cさん（アカ族）	Dさん（カレン族）
名字	アカ・タイそれぞれの名字を持つ。	タイの名字のみ。
名前	アカ：「可愛い鶏」という意味。タイの街で生まれ、村に戻ってきた時に祖母が付けた。伝統的な行事の時にしか使わない。	カレン：「白い金」（存在しない）という意味。母の名前から取る。
	タイ：「美しい肌」、「金」（金曜日生まれだからかもしれない）という意味。	タイ：「勝つ」という意味。父の名前から取る。
ニックネーム	アカ：「頑張る子」という意味。赤ちゃんの時、頑張って歩こうとする姿を見て命名。日常生活で使われる。	カレン：無し。カレン族はニックネームを持たない。
	タイ：名前の後ろ部分から取る。	タイ：「勝者」という意味。高校進学で街に出る時、母に付けてもらう。なぜそう名付けたかは分からないが、「勝者」でいようという意識は持っている。
各民族の特徴	祖先との繋がりを大事にするため、男の子のアカ名は、代々父親の名前の一部から取る。	名字とニックネームを持たない。

進学などで村から出て、タイの中心部で生活する時にはタイの名字・名前・ニックネームが必要になる。また、逆に実家のある民族の村に帰る時には、民族の名が必要になると分かった。インタビュー対象者の2人のタイの名の付け方は、タイ族の人とほぼ同

じであるようだ。呼ばれ方について、2人とも「タイ名と民族名、どちらで呼ばれても構わない」と話した。インタビューから、タイの少数民族は「民族」という強固なまとまりが緩み、タイ社会に溶け込んできていることが窺えた。

4. 結論と今後の課題

タイ人の名字・名前・ニックネームの特徴と、改名に関して調査した結果、分かったことは、タイ人は違いを認め合う寛容さ、柔軟性を持つということだ。夫婦別姓どころか、新しい名字を作ることが認められ、日本なら「キラキラネーム」と呼ばれてしまうような名前やニックネームでも受け入れられ、運氣向上のための改名も気軽にできる。タイ人の気質を表すものとして、よく「マイペンライ(気にしない、大丈夫という意味)」という言葉が挙げられるが、まさにタイの名文化もそれに当てはまる。タイは単一民族ではなく、移民が多く、また、LGBTQ が活躍しやすい国として有名だ。寛容さや柔軟性は、多様な人々が暮らすタイ社会で共存していくために必要だろう。改名するのは、貧富の差が大きく、政治もまだ不安定で先が見えない中、自由に付けられ、自分自身を表す名だけは運氣の上がるもの、気に入るものにしたという考えがあるのではないか。今回の調査で、特徴的なタイの名文化は、タイの社会状況やタイ人の気質を反映したものと分かった。

今後の課題としては、名字を持たない・普段ニックネームを使う・改名するというタイと共通する名文化を持つ他の東南アジアの国における名に関する歴史的経緯を調べ、名文化から東南アジアのダイナミックな文化や経済、植民地支配の影響の動きを捉えることである。

参考文献

- 阿辻哲次・黒井伊保子、2017、『はじめての贈り物 赤ちゃんの幸せ名前事典』、ナツメ社
- 辻原康夫、2005、『人名の世界史—由来を知れば文化が分かる』、平凡社
- 中島マリン、2012、『タイのしきたり』、めこん
- DACQ、2021、「自分や相手の呼び方って、どんな風に使い分けているの?」、3月号、p.11
- 「タクシンだらけのタイ選挙 改名ブーム、首相『奇妙だ』」
<https://www.asahi.com/articles/ASM254T78M25UHBI00L.html>
 (最終閲覧日:5月2日)
- 「姓名論雑考：タイ」
https://www.daito.ac.jp/gakubu/kokusai/asia21/naming/thai_2.html
 (最終閲覧日:3月31日)
- 「姓名論雑考：タイ—カレン民族」
https://www.daito.ac.jp/gakubu/kokusai/asia21/naming/thai_1.html
 (最終閲覧日:3月31日)

「タイ人の『名前とニックネームの特徴』と『本名との使い分け』」

<https://t-freak.info/blog/?p=17623> (最終閲覧日:3月31日)

“Thai Culture 101: Nobility Title”

<https://www.thailandtatter.com/life/thai-culture-101-nobility-titles> (最終閲覧日:3月31日)

“Know The 8 most Common Thai Names And Examine Their Meaning”

<https://australiantranslationservices.com.au/thai-names-and-examine-their-meaning/> (最終閲覧日:3月31日)

“Thai Nicknames”

<http://www.thailandbreeze.com/thai-nicknames.html>(最終閲覧日:3月31日)

“Top 10 most Common Thai nicknames, and some weird ones”

<http://learnthaiwithmod.com/2013/06/top-10-common-thai-nicknames-and-some-weird-ones/> (最終閲覧日:3月31日)

“What’s in a name?”

<https://www.bangkokpost.com/thailand/special-reports/1125065/whats-in-a-name-> (最終閲覧日:3月31日)

“Analyzing Thai Names: Superstition, History, and Foreign Influence”

<https://www.rosette.com/blog/analyzing-thai-names/> (最終閲覧日:3月31日)

“ชื่อสกุล”

<https://statbora.dopa.go.th/Wcheckname/#/CheckLname%E3%82%BF%E3%82%A4>(最終閲覧日:3月31日)

ラオスにおける教育への信頼性と就学傾向の関係性

順天高等学校 2 年 石川沙瑛子

1. 序論：問題提起と研究の目的

世界における初等教育の純就学率は 2015 年においてほぼ 90% にまで到達している (UNESCO Institute Statistics 2016)。しかし、初等教育就学率の高さが目立つ一方で見逃されがちなのが、その修了率である。子どもたちの全員が最終学年まで残るわけではない。近年、学校を中途退学 (ドロップアウト) する子どもたちの存在が、途上国教育での世界的な課題となっている。世界における教育の完全普及のためには、就学の継続に困難を抱える少数派の子どもたち一人ひとりに焦点をあてる必要がある。

ドロップアウト率の高い国における学校へ通えない理由としては、貧困に加え、労働力として農作業をはじめとする家事労働への従事が優先されている点、また少数民族の多い地域では授業が標準語で行われることにより、学業についていけずドロップアウトしてしまうことなどが挙げられる (井出 2014)。では、ドロップアウトをする子どもたちを減らすにはどうすれば良いのか。もちろん、代表的な就学継続の阻害要因である貧困や言語の壁を克服する取り組みは必要であるが、本研究では、子どもたち一人ひとりの教育の捉え方に注目することの必要性を提唱したい。教育において、「学ぶことで〇〇ができるようになる」という実感、いわゆる効力感と将来への期待が得られる教育が、学びへの意欲を増幅させドロップアウト率を減らす鍵になるのではないかと。言い換えるならば、「いかに生徒が、現在の学びに意味や価値 (学習意義) を見出し、現在受けている教育を将来への切り札として信頼できるか」という視点が、就学傾向を強めるために重要ではないだろうか。その視点を、本論では「教育への信頼性」と称し、実際に就学傾向との関係性があるのかどうかを検証する。

本論では、多民族国家としての教育格差が課題となっているラオスの教育に焦点を置く。ラオスにおけるドロップアウトの実態を捉え、現地の人々の教育への捉え方に着目し、教育への信頼性や教育を受けることによる効力感と就学傾向との関係性を考察する。そして新たな視点から調査の必要性を

提示し、修了率を上げるための糸口を見出すことを目的とする。

本論を通して、教育の価値や将来性という未知なる領域からドロップアウトの実態を捉え、新たな切り口でこれからの教育開発の進む方向性を提案したい。そして、ラオス国内の教育格差の是正を目指す公平な教育機会を実現する一助としたい。

2. 研究方法

本研究では、手法として文献調査とインタビュー調査を用いる。

2-1. 文献調査

先行研究より、世界全体や東南アジアという比較的大きな視野で捉える今日の教育課題や教育に対する国際社会の動向と、ラオスの教育制度や課題などの情報収集とそれらの検討を行う。

2-2. インタビュー調査

(1) インタビュー概要

実際にラオスの教育を修了し、現在、政府関係者としてラオスの教育に携わっている方にお話を聞くことができた。インタビューは、オンライン上で zoom を通じて行う方法をとった。半構造化インタビューで、事前に聞きたい項目を整理しておき、当日は確実に聞きたい内容を押さえながら回答に合わせて質問を少しずつ変化させた。調査日時は、2021 年 2 月 11 日の 17 時 30 分から約 1 時間である。

(2) インタビュー内容

インタビューの目的は主に 2 つある。一つは、事前に文献で調べたラオスの教育状況と実際の現状に相違がないかを確かめることだ。もう一つは、この研究のメインテーマである、

教育への信頼性と就学傾向に関係性があるかを調べることである。この2つを検証すべく、インタビューの内容を主に二つに分けた。表1は、実際のインタビュー項目である。

表1：インタビュー内容と質問項目

インタビュー内容	具体的なインタビュー項目
1. ラオス国内の現在の教育実態について	<ul style="list-style-type: none"> ・ドロップアウトの現状について教えてもらいたい ・ラオスの教育政策や方針で成功していると思うことはあるか、等
2. 学生時代の「勉強すること」への捉え方について	<ul style="list-style-type: none"> ・学生時代、勉強することが好きだったか ・ラオスでの教育は満足できるものだったか、等

インタビュー後は、何が就学意思と強く関係しているのか、という視点で幾つかの話題や回答をピックアップし、その関係性を推測した。なお、はじめから教育への信頼性と就学の関係性についての検討を行うのではなく、幅広い視野で対象者の就学要因は何だったのかを考察した。

(3) インタビュー対象

今回のインタビュー対象は、ラオスの教育スポーツ省の職員 A さん。ラオスで初等教育から高等教育を修了している。その後、日本やオーストラリアの大学院に進学し博士号を取得。現在は政府関係者として豊富な経験や知識のもとラオスの教育課題にアプローチしている。

3. 世界・東南アジアの教育状況と課題

3-1. 教育を受ける権利・国際社会の動向

教育の権利を国際会議や条約といった世界全体の動向から捉えると、意外にもその歴史は浅いといえるだろう。

教育が基本的人権として捉えられ、基礎教育が注目されるようになったのは、タイのジョムティエンで開催された「万人のための教育(Education for All:EFA)世界会議」¹においてのことだ。それは1990年のことであり、今からわずか30年ほど前のことである。この会議では、すべての人々に基礎的な教育機会を保障することが、世界共通の責務であり目標であるという国際的な認識と、達成に向けたさまざまな政策を実施または支援するという合意が得られた(芦田2018)。

その後、世界全体で基礎教育の拡充を目指していく動きが強まり、2000年には世界教育フォーラムの成果として「ダカール行動枠組み」が採択され、1990年に設定された目標がより具体的で実現可能な形で再設定された。また、90年代に得られた成果²がもっとも困難な状況に置かれた人々には届いていなかったこと³が指摘された。このうち、初等教育の完全普及および教育におけるジェンダー格差の解消が、2000年の国連総会で採択された「ミレニアム開発目標」に組み込まれ、教育が主要な開発課題として国際社会の関心を集めた(荻巣2021)。

それから10年ほどが経過し、EFAやミレニアム開発目標の目標達成期限であった2015年に向けて、ポストEFAやポスト2015としてこれまでの取り組みの見直しや新たな目標の合意など進められた。2015年4月に韓国で開催された世界教育フォーラムでは、『インチョン宣言：教育2030』が「すべての人に包括的かつ公平な質の高い教育と生涯学習を」を目標として採択された。「教育2030」では、教育の質(特に学習効果)、公平性、教育内容及びアプローチについて、より踏み込んだターゲットが設定されている。また、MDGsの後継であるSDGs(持続可能な開発目標)には「教育2030」と同一の目標とターゲットが組み込まれている(荻巣2021)。

表1では『EFA モニタリング報告書』で報告されたダカール行動枠組みの目標に即する成果と残された課題を示した。なお、今回は、課題として教育の修了に関する明確なデータが示されていた目標②、③のみ記載した。表1から分かるように、不就学の生徒、中途退学をする生徒が未だに存在し、

¹ 子どものみならず青年や成人にも教育機会を保障し、基礎的な学習のニーズを満たすこと、すなわち講義の基礎教育の普及が国家的・国際的な義務であることを確認したという点で、EFA世界会議は歴史の重要な転換点であった(北村2008:8)。その後の国際教育開発は、この会議でなされた「広義の基礎教育の普及」という課題を時代に即した形で再設定することと、EFA達成に向けて国際社会が責任を果たすためのシステムを構築することの2つを両論として進んできたと言える(荻巣2021)。

² 初等教育の修学率は90年代を通して毎年平均して約1,000万人ずつ増加し、非識字者の数も著しい減少を見た(荻巣2021)。

³ 残された課題とは、「1億1,300万人以上の子どもには初等教育の機会が与えられておらず、8億8,000万人の成人は読み書きができず、教育システム全体のジェンダー格差は依然続き、教育の質や生活に必要な技能(ライフスキル)の習得は国家としての達成目標や個人・社会が必要としているニーズを大きく下回って」いること、さらに、「青年や成人は職を得たり、社会活動に参加するのに必要な技術や知識を得るための手段を否定されている」ことなどがあげられる(荻巣2021)。

次の目標である 2030 年に向け、少しでもその割合を減少させられるよう取り組みを続ける必要がある。

表 1 ダカール行動枠組み⁴の目標②③とその残された課題

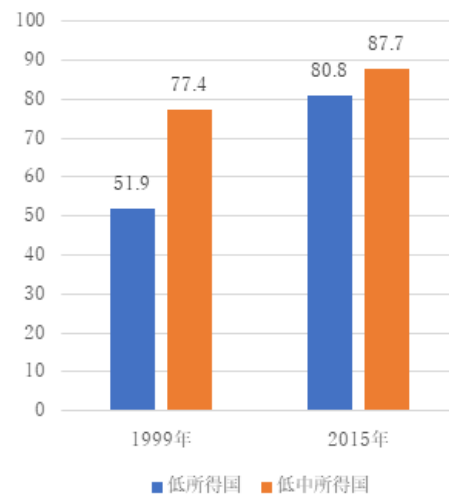
	目標の内容	残された主な課題
目標②	全ての子どもが無償で質の高い義務教育へのアクセスをもち修学を完了すること	<ul style="list-style-type: none"> ・2012年の不就業児童は約5800万人で足踏み状態にある ・毎年3400万人が小学校を中途退学しており、最終学年到達率は改善していない。 ・複合的に疎外された子どもたちに恩恵が行きわたっていない
目標③	全ての青年及び成人の学習ニーズを満たすこと	<ul style="list-style-type: none"> ・依然として6300万人の若者が不就業である。 ・2015年時点で低中所得国の若者の3分の1が前期中等教育を修了していないと予測される。 ・貧困や移住地による中等教育へのアクセスの格差は解消されていない。

出典：（荻巣 2021）/第3回国際協力懇談会配布資料 から抄訳

3-2. 世界の子どもの就学状況

世界銀行によると、世界における初等教育の修了率は2019年に89.507%と、ほぼ90%を記録している。3-1で述べたように、教育状況改善に向けた国際的な取り組みを通して、初等教育は世界的に普及してきている。ユネスコ統計研究所（UNESCO Institute for Statistics）の推計によれば、低所得国及び低中所得国の初等教育課程における0就学率は大幅に改善された。低所得国においては1999年の51.9%から2015年に80.8%へ、低中所得国においては1999年の77.4%から2015年の87.7%にまで上昇している。このように就学率が上昇したことは明らかだが、一方で不就業児童は未だに存在し、その減少は足踏みの状態にある（芦田 2018）。

図1：低所得国・低中所得国における初等教育純就学率の移り変わり



出典：（芦田 2018）より筆者作成。

3-3. 中途退学

中途退学の問題は、初等教育の完全修了を妨げるものであり、教育の内部効率性にかかわるものとして留年の問題とともに、これまで多くの研究がなされてきたという（芦田 2018）。

⁴ ダカール行動枠組みには表1に示した②と③だけでなく全部で6つの目標が設定されている。目標①総合的な就学前保育・教育の拡大及び改善 目標④2015年までに成人識字率（特に女性）を50%改善

目標⑤2005年までに初等及び中等教育における男女格差を解消 目標⑥教育全ての局面における質の改善、卓越性の確保（特に読み書き等の生活技能）

また、近年、留年を介さずに比較的早い段階で退学に至るパターンも多数存在することが報告されている(芦田 2021)。

退学をする子どもたちのその理由にはさまざまなものが考えられるが、序論でも述べたように、その中でも共通してよく見られる要因は、教育にかかる費用、収入活動の有無、そして学校と自宅間の距離や妊娠などである。さらに、退学者にはオーバーエイジの状態にある子どもたちが多く含まれており、その要因には、就学時期の遅れや留年による進級の遅れが考えられる。また、先住民や少数民族の子どもたちは教授言語と生活言語の違いなどから就学機会から疎外されやすい。本論で取り上げるラオスのように、多民族で構成される国家においては、このような子どもたちへの対処が喫緊の課題となっている(伴・乾 2018)。

3-4. 東南アジアにおける教育

乾 (2017) によると、ラオスが位置する東南アジアでは、これまで共通の学力調査は行われていないという。また、中にはシンガポールのような PISA 上位国もあるが、ほとんどの国が学力において深刻な問題を抱えており、先進国との間や国内間でも大きな格差が見られる。

例えば、カンボジアではクメール・ルーージュが教育制度を徹底的に破壊し 1980 年代初頭には非常に質の低い教育を細々と行うといった状況であった。その後政府によって教育制度が再建され、現在、基本的な就学に関しては目覚ましい成果を上げている一方で、教育の質が低いことや中途退学などが大きな課題となっている(北村 他 2018)。また、ミャンマーでも、一度は初等教育課程に入学したものの、修了できずに学校を去ってしまう子どもたちが多く存在する(吉田・Aye Aye 2018)。

このように、東南アジア諸国では、教育の質や修了に関する課題や先進国との学力格差に直面する国が幾つか存在している。本論で扱うラオスもそのうちの一つだ。

4. ラオスの教育状況と課題

4-1. ラオスの教育制度とその現状

(1) 学校制度と義務教育

ラオスの学校制度は 5・4・3・4 制であり、1~5 学年が初等教育、6~9 学年が前期中等教育、10 学年から 12 学年が後期中等教育、中等教育卒業後の 1 学年~4 学年が日本でいう

大学に当たる高等教育である(表 2)。2015 年に改訂された教育法によると、義務教育は 1 学年~9 学年(6 歳~14 歳)の、前期中等教育までであり、公立校における義務教育は無償であると明言されている。

教授言語はラオス語。科目は、ラオス語、算数、私たちの身の回り、芸術、体育、音楽、工芸などで、第 3 学年から英語が取り入れられている。2016 年より、日本(算数)とオーストラリア(他教科)の支援によりカリキュラムと教科書の改訂が行われている。休校日は日本の義務教育と同様に土曜、日曜、祝日である(外務省 2017)。

表 2: ラオスの学校区分とその学齢

学校区分	学年	年齢
初等教育	1~5 学年	6~10 歳
前期中等教育	6~9 学年	11~14 歳
後期中等教育	10~12 学年	15~17 歳
高等教育	4 年間	

出典: 外務省 (2017) 諸外国・地域の学校情報より筆者作成。

(2) 学校制度に対する国民の認識

外務省の諸外国・地域の学校情報によると、ラオスにおける「教育法の内容はもとより、憲法で定められている教育に対する国民の権利や義務教育について、国民が正しく理解している」とは言い難く、行政についても、政府の予算不足もあり、必ずしも教育法に則った施策が実施されているとは言い難く、第 9 学年までが義務教育であることは国民には浸透していない」とのことだ。

このうち、インタビュー調査において「第 9 学年までが義務教育であることは国民には浸透していない」という記述の正当性を窺ったところ、少し違った情報を聞くことができた。職員 A さんによると、多くの人々が義務教育はいつまでかを知っているが、政府側は完全に無償で教育を提供できていないわけではないため、義務教育への就学も完全に強制することができないことが問題であるようだ。

(3) 教育政策

ラオスにはまだ国レベルで低学力を解決する状況にはないが、教育の質に対する主な取り組みが行われている。

まず、2008年には教育の質保証システムの整備として教育の質保証センターが設置され、評価ガイドラインの立案や各教育レベルの質評価などが行われた。この各教育レベルの質評価では、初等教育においては①生徒に対する基準②教師、教授法に関する基準③環境に関する基準④教材に関する基準⑤運営・管理に関する基準⑥コミュニティ参加に関する項目に対し、全校8000以上の小学校で評価を行い、低基準の学校に改善を求める計画をしている。また、教員養成システムの整備も進んでおり、教員養成校の入学対象は現在は高校卒業者のみとされている。以前は中卒も採用していたが、現在は採用していないため、教員の質向上も進んでいると考えられる(乾2017)。

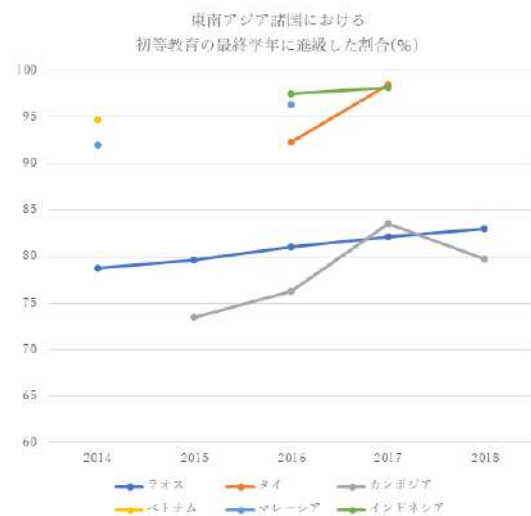
4.2. ラオスの子どもの就学状況について

(1) ラオスの就学状況

ラオスにおける小学校(初等教育)の純就学率は98.5%まで上昇している。ただし、第一学年の退学率は8.5%、留年率は13.5%と高い。遠隔地を中心に公立小学校の教室のうち27.8%が複式学級⁵であり、その授業の質は改善が求められている。中学校(前期中等教育)の総就学率は78.1%であり、近年の初等教育の拡大と共に飛躍的に拡大している。中学校、高等学校への入学率は、地方では未だ低い水準にあるが、首都であるビエンチャン特別市をはじめとする都市部では教育熱が高まっており、中学校、高校への入学率も高く、更に高等教育(大学、職業訓練専門学校等)へ進む者も多い(外務省2017)。

図2のグラフは、UIS(UNESCO Institute for Statistics)の、初等教育の最終学年に進級した割合(survival rate to the last grade of primary education, both sexes(%))から東南アジア諸国のデータをまとめたものである(図2)。東南アジアの他国と比べて明らかなように、ほとんどの国の割合が90%を超えているのに対し、ラオスでは2014年から順に78.72%、79.63%、81.08%、82.95%と上昇はしているものの約80%であり、10%ほど低い値となっている。ラオスは、カンボジアと同様に初等教育の継続が難しい状況であるといえるだろう。

図2: 東南アジア諸国における初等教育の最終学年に進級した割合(%)



出典: UISより筆者作成。

(2) ラオスにおいて教育が直面する問題・中途退学

ラオスの教育が直面する課題は、都市部と農村部の就学格差、中途退学率の多さが代表的なものとしてあげられる。これらの課題の要因として考えられるのは、貧困、通学困難、保護者の学校教育に対する意識の低さに加え、少数民族の児童はラオス語を生活言語としないため、授業を受けるのが困難であることなどである。

また、要因として政府の教育予算が極めて少ないという点も指摘できるだろう。このため、教科書の不足、適切な校舎の不足、教員の能力不足、不適切な教員は1、遠隔地の学校における教育の質の低さ、教育行政能力の不足等の状況が生じている(外務省2017)。

5. ラオスにおける教育への信頼性・効力感と就学傾向の関係性

5-1. 将来像から学びの意義を見出す

(1) 学ぶことの意味

前述したように、ラオスでは初等教育から中等教育に上がる段階でドロップアウトをする生徒が多い。Aさんによると、その理由として、「外の世界の面白さを知ったために学校に行くことが退屈になってしまう」という教育への興味の欠如

⁵ 2つ以上の学年をひとつにした学級のこと。

があるという。そして、以下のインタビュー内容からは、就学継続において「なぜ学ぶのか」という学びの目的を知ることの重要性が分かる。なお、筆者が英語によるインタビュー内容を和訳した。

筆者：

学生時代、勉強することは好きでしたか？

A さん：

まだ少年だった頃、小学校での生活では、なぜ学校に行くのかは分からず、正直のところ、（好きかどうか考える以前に）ただ友達について行っているだけでした。教育の重要性に気づいたのは、教育について考え始めた最終学年の11年生⁶のときのことで。後期中等教育を卒業したら何ができるか、将来について考え始め、父がいつも言っていた『教育は生きるための道具であり人生のツールである』ということを実感しました。学校に通っていましたが、多くの先生が、なぜ学ぶのか、なぜ何を学ぶ必要があるのか、何のために学んでいるのかを説明してくれたわけではありませんでした。ただ学校に行くだけで、なぜここに来ているのか、その目的を知らずに、どんな未来があり将来どのような道を進んでいくのか分かっていませんでした。...

このように、Aさんは勉強が好きだったかどうかの明言はしていないものの、「なぜ学ぶのか」という学びの目的が分からず誰にも教わらなかったゆえに、中等教育卒業までは学校に行くという行為を、目的もなくただの一つの行動として行っているだけで、進んで勉強しようという意思が強かったわけではないことが分かる。このことより、学校に行くことが退屈になって外の世界に出ていく理由として、「なぜ学ぶのか」が分からないなどの学習意義を見出せないことが原因の一つとしてあげられるだろう。

つまり、現在の学びの目的や意義をはっきりさせて自分なりの意味や価値を見出すこと、動機づけがきちんとあることによって、就学意思が強まり、就学の継続に繋がるといえるのだ。

(2) 現在の学びと将来像のつながり

インタビュー記録

筆者：

では、あなたは後期中等教育を卒業するとき何か夢を持っていましたか

A さん：

はい。一つは父の背中を追いかけて教師になることでした。父は、仕事があるときとときどき仕事場に連れて行ってくれました。そのとき私は、とても快適で素晴らしいエアコンの

部屋に座っている人たちを見て、それを夢見ました。こういう仕事がしたいと思いました。それが私の学びを鼓舞しました。それが、私が子どもたちに世界をみせに連れていくことが大事だと思う理由です。世界を知ることによって〇〇になりたいという夢を持つことにつながるので、今日の子どもたちにとって非常に役に立つはず。彼らは何のために勉強するか、どうして先生、親が勉強を強要してくるのか分かっていません。私は生徒たちにとって、想像や鼓舞が大事だと思います。ちょうどあなたと私のように、もし興味がなければ何もしないでしょう（今の取り組みは興味があるからやっていること）。だから、子どもたちに世界で何が起きているかを見せることは大切です。それは自分の子どもにも伝えていきます。何を学ぶことに興味があるかではなく、将来何になりたいのかを聞き、そしてこれを学ぶといいよと伝えることで、子どもたちが将来のイメージをもてるようにしています。

以上のインタビューから分かるように、Aさんは、学生時代から将来像をもつことが就学の動機づけにつながることを、自身の経験に基づいて述べている。

子どものうちから実際の仕事場などの外の世界に触れ、小さなことでも良いから将来の夢やイメージを持つ。それによって、学校での学びの先を見据えた目的意識や明確な学習動機が生まれ、就学の継続につながる。これは、「学ぶことで夢を叶えられる、将来〇〇の職業に就くことができる」という考え方を持つことの重要性を示しているといえるだろう。つまり、序論で述べたように「学ぶことで〇〇ができる」という将来への期待がもてる教育が必要であるといえるのだ。このように、将来像を思い描くことは(1)で述べたように現在の学びに意義を持たせるための有効な方法であり、それは就学継続への好循環を生むといえるだろう。

(3) 将来を左右する、学びへの動機づけと就学プロセス

5-1. (1)(2)の内容より、就学傾向を強める（就学の継続）には、なぜ学校で学ぶのかという目的意識をはっきりさせ、無意識であっても自分なりに現在の学びに意味と価値を見出し、動機づけをすることが重要だと結論づけられるだろう（図3）。そのためには、周りの教師や大人が、子どもたちに外の世界を見せたり将来のイメージを持てる手助けをすることによって、彼らの学びを鼓舞することが必要だと考えられる。

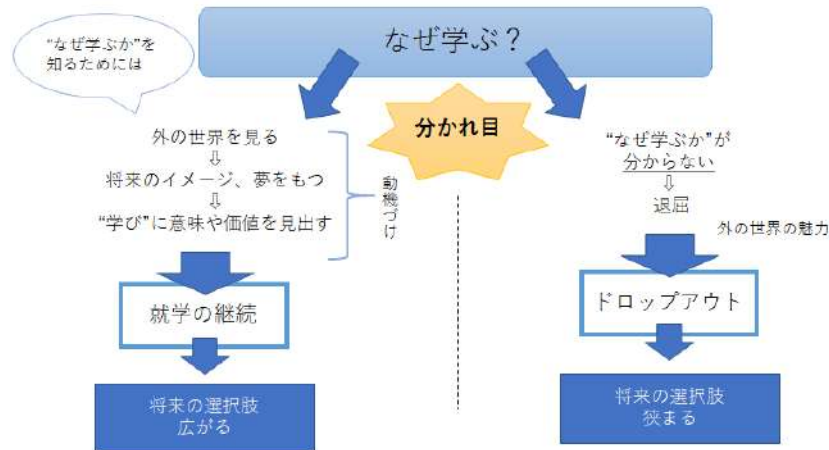
また、図3で示したように、“なぜ学ぶか”という、自分なりに学校で教育を受けることに価値を見出せるかどうかの分かれ目が、就学の継続かドロップアウトしてしまうかを左右するポイントだと考えられる。さらに、Aさんによると、修

⁶ 当時は現在と異なり、11学年が後期中等教育の最高学年だった。

了できた場合はさまざまな場所で働くことができ、卒業後に就くことができる職業の幅が広がるという。一方、ドロップアウトをした場合は、一つの職業や能力に特化している(例え

ば農家なら農業に関する知識のみ、など)ため、その職を失った際は安定した職業に就けず、人生の選択肢が狭まることに繋がってしまうようだ。

図 3：将来を左右する、学びへの動機づけと就学プロセス



出典：筆者作成。

5-2. 生涯学習の視点

インタビュー記録

筆者：

ラオスでの教育はあなたにとって満足できるものでしたか？

Aさん：

「大学で学んだことに関しては満足していました。しかし、卒業後2年間教育省で働いてみると、自分の知識を向上させる必要があると感じました。なぜなら仕事での多くのことが、現実とマッチさせて教育課題を処理するために、まだより深い知識や能力を必要としていたからです。それが、なぜ私が新たな（学びの）機会（日本への進学など）を探し始める動力となりました。...

...あなたの質問に率直に答えるならば、はいともいいえとも言うことができないでしょう。最初は学んだことに満足しますが、仕事を始めると向上させる必要があると感じます。私は、それは自然なことだと思います。どんどん向上させていく必要がある。それは、私が生涯学習という概念を取り入れている理由です。学びに終わりはなく、学ぶことは毎日学校に行くことだけを指すではありません。今現在、あなたは私から、私はあなたから、互いに学び合っている、というように。

以上から、Aさんは生涯学習⁷の視点を通して学びを得てきたことが分かる。また、「大学の学びに満足し仕事上での経

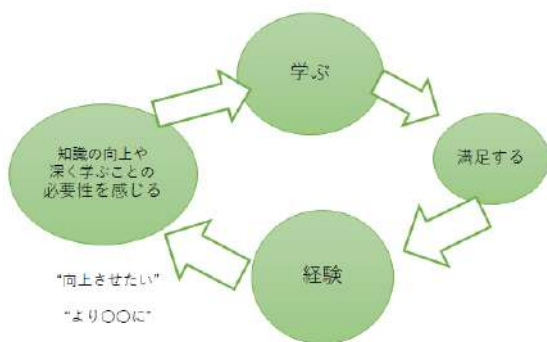
験を経てさらなる能力や知識の必要性を感じてまた学ぶ」というAさん自身の経験に基づいて、生涯学習の考え方が自然の原理のように成り立っていることが指摘できるだろう（図4）。

また、この生涯学習の考え方では、過去の経験が動機となって、よりよくしたい、という将来への向上心、未来の視点につながることで学ぶという行為が起こるといえる。子どもたちの視点から予想してみても、何かしらの体験から、向上させ変えていく必要性を感じて学習意欲や就学継続につながるというような、生涯学習の概念が当てはまる事例も十分に考えられる。

5-1では、就学継続において、将来の夢やイメージを持つことで教育の価値を見出すことの重要性を指摘したが、今回は、過去の経験を通じて将来改善すべきことに気づき学びの必要性を感じる、というプロセスの重要性を強調したい。つまり、学び続ける姿勢から生まれる向上心が学びへの意欲や新たな就学意思を誘発するといえるだろう。

⁷ 「生涯学習」という言葉は、人々が将来に行うあらゆる学習、さまざまな場や機会において行う学習の意味で使われる（文科省ホームページより抄訳）。

図4：生涯学習の考え方



出典:筆者作成。

6. まとめ

6-1. 現段階での結論

5章で取り上げた、将来像から学習意義を見出す視点、生涯学習の視点、その二つから考察しても、教育への信頼性⁸と就学傾向の関係性は強いといえるはずだ。

繰り返すようだが、将来を見据えた動機づけと、「何かを変えたい」という生涯学習サイクルの向上心は、就学という行為につながる。そして、その動機づけや向上心は、教育を受け勉強したらこうなれるという確信を持ってなければ、つまり国の教育を信頼しなければ生まれにくい。また、本論を通して、現在の学びに自分なりの意味や価値を見出すことにより就学継続や将来の可能性を広げられることを主張してきた。よって、就学傾向の高さには教育への信頼性の高さが関わっていることが暫定的な結論として導かれるであろう。

逆の視点から考えれば、ドロップアウトを引き起こす一つの要因は学びへの興味の欠如といえよう。教育への興味の欠如という課題をなくすには、どうやって学習意欲を掻き立てるか、という視点が大事になってくる。また、義務教育の認識が国民に浸透しているにも関わらず、興味の欠如によって中途退学を選ぶ子どもたちがいることは非常にもったいないことだ。義務教育の修了率を上げるためには、将来への信頼性がある教育の展開を続けていく必要がある。

6-2. 今後の課題と展望

ラオスを含む途上国の就学に関する調査で、子どもたち個人の教育への価値観や捉え方を調べ就学率や就学傾向と結び

つける研究は現在あまり見受けられないが、そういった数値データの関係性のみではない一人ひとりの意思に注目した調査が今後必要になってくると考えられる。なぜなら、本論で述べてきたように、現在就学に問題のある生徒は少数派となっているため、個々の教育に対する意思や価値観の変化をみるなどして深くまで踏み込まなければ、教育の完全普及は達成できないからだ。さらに、教育の価値や信頼性に焦点を当てた調査は、就学率をあげるための手段としてだけでなく、各個人の根本的な学びの概念や位置づけを認識し、それぞれが抱える就学継続の問題の根本的な解決につながるというだろう。

上記に述べた現段階での結論は、暫定的で、いくつか検討の余地があろう。なぜなら非常に限定された範囲での見解であるからだ。今回の調査ではインタビューが実施できたのは一度であったので、今後の研究ではもっと多くの方からお話を聞きたいと考えている。また、今回のインタビューでは、学生時代の内容であってもAさんの現在の教育者としての視点や見解が含まれる部分があった点や、Aさんの学生時代のころと現在のずれも指摘されるべきかもしれない。そのため、ラオスの教育課程に在籍する学生や中途退学を経験した方など、実際に現地に訪れてさまざまな立場の人にお話を聞き、より広い視野で教育への信頼性と就学傾向の関係を捉え、説得力のある研究にしたい。

また、多民族国家であるラオスを選んだのにも関わらず、本論ではその言語の壁による課題についてあまり論じられなかったことが悔やまれる。言語の壁や貧困等の就学を拒む阻害要因と、教育への価値観や捉え方(教育への信頼性)の関係性も、今後調査する価値があるはずだ。

今後、個々の子どもたちの教育への価値観に焦点を置いたさらなる調査が必要であり、将来への信頼性を伴う教育展開が重要であると考えられる。

参考文献

芦田明美、2018、「子どもたちを取り巻く、就学状況の変遷」、關谷武司編、『開発途上国で学ぶ子どもたち-マクロ政策に資するミクロな修学実態分析-』、関西学院大学出版会、19-32頁。

⁸ 序論で述べた通り「教育への信頼性」とは、本論では、「いかに生徒が、現在受けている教育を将来への切り札として信頼でき

るか」という視点のこと。国の教育を、機能を果たす価値あるものとして信頼できること。

- 芦田明美、2021、「修学状況の変遷を捉える-横断的データおよび縦断的データ双方の視点から-」、荻巣崇世 他編著、『国際教育開発への挑戦』、東信堂、76-94 頁。
- 乾美紀、2017、「ラオスにおける学力調査の現状と格差是正の試み-地域間格差を中心に-（学力格差是正に向けた各国の取り組み、大会報告・特集、課題研究1）」、『比較教育学研究』第54号。
- 井出和貴子、2014、「ASEAN における教育の充実と経済成長」、https://www.dir.co.jp/report/research/economics/emg/20140611_008636.pdf、大和総研（2020年8月26日アクセス）
- 荻巣崇世、2021、「国際教育開発の国際的潮流」、荻巣崇世 他編著、『国際教育開発への挑戦-これからの教育・社会・理論』、東信堂、3-16 頁。
- 外務省、2017、「諸外国・地域の学校情報」https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/01asia/infoC12100.html（2021年2月9日アクセス）
- 北村友人 他、2018、「カンボジアの初中等教育における就学継続の阻害要因-生徒の「語り(ナラティブ)から読み取る-」、關谷武司編、『開発途上国で学ぶ子どもたち-マクロ政策に資するミクロな就学実態分析-』、関西学院大学出版会、183-214 頁。
- 大臣官房国際課国際教育協力懇談会、2001、「ダカール行動枠組みの目標」、https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/kokusai/002/shiryu/011202_c_1.htm（2021年3月29日アクセス）
- 伴遥奈・乾美紀、2018、「ラオス初等教育における民族・地域格差-小学校におけるラオス少数民族の子どもたち」、關谷武司編、『開発途上国で学ぶ子どもたち-マクロ政策に資するミクロな就学実態分析-』、関西学院大学出版会、159-182 頁。
- 文部科学省「生涯学習の意義」https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab200601/002/001/003.htm（2021年3月31日アクセス）
- 吉田夏帆・Aye Aye Aung、2018、「ミャンマーの初等教育における子どもたちの修学軌跡-個別の社会経済的地位の違いに着目して-」、關谷武司編、『開発途上国で学ぶ子どもたち-マクロ政策に資するミクロな就学実態分析-』、関西学院大学出版会、239-265 頁。
- The world bank 「primary completion rate, total(% of relevant age group)」<https://data.worldbank.org/indicator/SE.PRM.CMPT.ZS> (2021年4月2日アクセス)
- UNESCO Institute for Statistics 「Education,National Monitoring」<http://data.uis.unesco.org/> (2021年3月30日アクセス)

富裕層と貧困層の幸せの感じ方の相違

—タイの経済格差を踏まえて—

つくば開成高等学校3年 谷川明穂

1. 序論：背景と目的

タイと都市化率は2015年に50%を超え、その後も都市化が進むと予測される。バンコク首都府に接し、スワンナプーム国際空港のあるサムットプラカーン県の人口増加は特に著しく、2020年には100万人を超える見込みが立っている(経済産業省2020)。都市化が進んでいるタイであるが、都市化は都市に流入して滞留する人々に十分な雇用機会を提供できないがゆえに、都市の不安定就業層を生み出すことにもなる。また、住環境にも影響を及ぼす。都市化が進むと、都市は急激な人口流入に対して道路や交通機関、上下水道などの都市社会資本の整備を間に合わせることができず、十分な居住空間を提供することができない。そのため、住居を購入できない人々は、湿地帯のように水はけが悪くて土地利用が進んでいない地域や、河川敷や鉄道路線付近、港湾付近のほか、市場やごみ収集場所の周辺といった土地条件の悪い地域に粗末な家々を立てて住み着いていくことになる。その結果、都市貧困層が暮らす都市スラムが目立つようになっていく(中西2020)。都市化は経済格差を広げる一助を担い、タイの人々に悪影響を及ぼしている。この貧困層を生み出し続けているタイの社会構造は果たしてタイに暮らしている人々の幸せに繋がっているといえるのか。

本論文では、タイの都市化による経済格差の拡大に伴い、都市部の富裕層と貧困層では、日常生活での幸せの感じ方どのような相違があるのかについて考察することを目的とする。それにより、消費社会で物質的価値観が重視されている日本やその他の先進国で、精神的価値観に重きを置いたことによる幸せについて着目する契機になることを願っている。

2. 定義と概念

2-1. 幸福度にかかる定義と概念

本研究で扱う、幸福度にかかる定義と概念をダン・ギルバート(2004)による「私たちが幸せを感じる理由」を用いて以下のように整理する。

- ・人工的幸福：欲したものが手に入らなかったときに自ら作り出す幸福のこと。
- ・自然発生的幸福：欲したものが手に入ったときの幸福のこと。

2-2. 幸福度に関する指数

本研究では、幸福度について以下の指数を参照した。

幸せの指標

1) 世界幸福度調査 World Happiness Report. 国際連合の持続可能な開発ソリューション・ネットワーク (SDSN)

一人当たり国内総生産(GDP)、社会保障制度などの社会的支援、健康寿命、人生の自由度、他者への寛容さ、国への信頼度の6項目で構成されており、0~10の主観幸福度アンケートを元にランキングしている。タイは、2019年度は52/156位。2020年は54/153位であった。

2) 「レガタム繁栄指数」 Legatum prosperity

安全と安全保障、個人の自由、権力のガバナンス、社会関係資本、投資環境、企業環境、市場へのアクセスとインフラ、経済体制の質、住環境、健康、教育、自然環境の12個項目で算出している。

2019年度、タイは66/167位であった。ソーシャルキャピタル27位、経済的品質28位は上位であるものの、安全とセキュリティ128位、個人の自由120位、ガバナンス105位、自然環境111位は下位の方になっている。

3) 国際世論調査 (Annual Global End of Year Survey)

WIN/Gallup International 社

幸福度(Happiness Index)：各国の1000人~1500人を対象に「今の自分の人生を幸福と思うか」をアンケート調査している。幸福度指数：とても幸福もしくは幸福と答えた人の割合から、不幸もしくはとても不幸と答えた人の割合を差し引いた数値を指す。2017年度、タイは32/55位であった。

4) 地球幸福度指数(HPI) イギリスのシンクタンク、ニュー・エコノミクス財団 (NEF)

HPI 指数：主観幸福度調査結果に、平均寿命と国内の格差を掛け合わせ、それをエコロジカル・フットプリント（自然環境への依存度）の数値で除したもの。2009 年度、タイは 41/143 位であった。

2-3. 所得階層に関する定義と概念

本研究での階層は、岡本（2019）の区分に沿って、以下のように整理する。

- ・富裕層：月当たりの所得が 10 万バーツ以上（3,000 ドル～）
- ・貧困層¹：月当たりの所得が 1 万バーツ以下（～300 ドル）

3. 研究方法

3-1. 文献調査

文献調査では、タイの所得と幸福感にかかる関係、タイの人々の生活の 2 項目に着目し、タイ統計局などの文献を用いて調査した。

3-2. 貧困層と富裕層の方へのインタビュー

本論文では、「幸福について」を主題として、2021 年 01 月 12 日 20 時 30 分から 22 時（日本時刻）にわたり約 1 時間半行われたインタビューの内容を検討する。タイと日本を zoom で繋ぐことで実施した。インタビューの受け手はタイの高校生 4 人と社会人 1 人であり、プロフィール、幸せの感じ方、日常生活や人生と幸福についての話を伺った。この 5 名とは、せかい探究部を通して知り合うことができた。

表 1：インタビュー対象者

語り手	分類	略歴
A さん	貧困層	10 代の女性。モン族。チェンライ在住。キリスト教徒。
B さん	貧困層	10 代の女性。アカ族。チェンライ在住。キリスト教徒。
C さん	貧困層	10 代の女性。アカ族。チェンライ在住。キリスト教徒。
D さん	貧困層	10 代の男性。モン族。チェンライ在住。キリスト教徒。
E さん	富裕層	20 代の男性。タイ人。バンコク在住。仏教徒。

インタビューでは、下記の質問項目を軸に、半構造化インタビューを行った。

1) プロフィール

年齢、職業、家族構成、居住地、民族、宗教、夢、座右の銘

2) 自身の日常生活と幸せ

一日の過ごし方、一日の中の自由な時間、自由な時間になにをするか、幸せを感じる時

3) これまでの人生と幸せ

人生の幸せの上下、現在の総合的な幸福度（1～10）

4. 結果

4-1. 文献調査に基づく結果

4-1-1. タイの人々の所得と幸福感の関係

1) 地域別の世帯当たりの月の平均収支

タイ国内の約 2 万 6000 世帯で実施した調査(タイ統計局 2017)によると、地域別にみる世帯当たりの月の平均収入と支出は以下となっている。

表 2：タイ世帯当たりの月の平均収支

地域	収入 (バーツ)	支出 (バーツ)
バンコクと首都圏 3 県	41,335	33,221
中部	26,700	21,498
北部	19,843	16,141
東北部	20,570	16,877
南部	26,133	21,673

2) 1 人当たりの GDP

タイ経済の現状と課題について示した資料（岡本 2019）では、地域別にみるタイの 1 人当たり GDP は以下となっている。

表 3：タイの 1 人当たり GDP

地域	1 人当たり GDP (バーツ)
バンコクおよび周辺部 (うちバンコク都)	410,617 (513,397)
東部	432,712
中央部	251,392
西部	135,262
南部	130,970
北部	93,058
東北部	70,906
全国平均	203,356

¹ 岡本（2019）では「低所得層」としている。本研究では、「貧困層」として扱い、統一表記とする。

3) 所得と幸福

ある調査によるとバンコクの平均世帯収入は月 2 万 9,300 バーツだった。これは各地方に比べて格段に高いものになっている。しかし、幸福度（最高が 5 ポイント）の調査では 3.59 ポイントと各地方に比べてもっとも低い。これは長い通勤時間の疲労や家族間のコミュニケーションの少なさ、そして大気の汚染が幸福度を低くしている要因としている。所得格差指標のジニ係数は所得の再分配後で 0.341 だった（タイ統計局 2017）。

表 4：タイの平均世帯収入と幸福度指数

地域	平均世帯収入 (バーツ)	幸福度
バンコク首都圏	17,600	3.72
北部	14,300	3.74
東北部	10,800	3.80
南部	20,200	3.84

4-1-2. タイの人々の生活

1) 食文化

タイの生活様式は、中国からやってきた食文化に多大な影響を受けている。19 世紀初頭には、広東省や福建省など中国南海岸地方からの移民が、バンコクや南部のプーケット、トラン、ラノーンなどで貿易、錫の採掘、ゴムの栽培といった事業を拡大し、当時のタイ社会における地位を高めた。結果、中国仏教寺院や祠、中華料理店などがつくられチャイナタウンを形成し、そのなかでタイ料理へも中華料理の影響から炒め物や麺類などが加わるなど、庶民の間にも中国文化が広く浸透するようになった(タイ国政府観光庁)。

山田コンサルティング・グループがタイの食生活に関する消費者の意識・行動を把握することを目的に行った「2019 タイ生活者の食に関する調査レポート」によると、2009 年と比較した 15 年の家計消費支出に占める食費の割合は、タイ全体では 0.2%、バンコクでは 1.5%縮小しており、変化の兆しが見られた(タイ国家統計局)。タイは家計の消費支出に占める食費の割合を示す「エンゲル係数(食費÷消費支出×100)」2 が高い。日本は 25%、フランス 24%、イタリア 27%、米国 15%程度に対して、タイは 38%と他国と比べて突出している(OECD)。

タイの小売市場を業態別にみると、2013 年～2016 年の間に、コンビニエンスストアが 20%増と急成長している。タイのコンビニエンス「ストアでは、弁当も 40 バーツ前後(約 136 円)と露天商とさほど変わらない価格で気軽に購入する

ことができる。全国で 1 万店舗以上展開するセブン・イレブンは、チルド(低温冷蔵)食品をほぼ全店で取り扱っており、エリア・所得階層関係なく、気軽に購入しやすい環境が整備されている。タイのコンビニに売っている、日本風おにぎり・寿司。日本食はタイ人にも人気。日本風おにぎりや寿司も冷蔵庫に並んでいる。外食市場も伸長傾向にあり、チェーン系レストランが約 3 割を占めた。根強い人気の日本食レストランの数は、07 年の 745 店から 17 年に 2774 店と約 3 倍に急増した。

食に対する「健康」「安全」の関心が高まり、中間所得層以上の生活者を中心に食生活が変化している。直近 5 年の食生活や食に対する意識の変化については、約 75%の回答者が変わったと感じている。地域・所得階層別にみると、特に地方の中間所得層以上の変化が顕著である。

タイの生活者にとって、食事は手間なくすぐに食べられることが重要である。タイ全体で食事形態(外食、中食、内食)ごとに「ほぼ毎日」と回答した割合をみると、最も高いのは「内食」だが、3 割以上が「外食」「中食」も利用している。このことから、約 9 割の夫婦が共働きと言われるタイにおいては、手間をかけずにすぐ食べられることが重視されていることがわかる(※日本の共働き夫婦の割合は約 65%)。手軽に家ですぐ食べられる中食を選択する人が増えている。銀行大手のカシコン銀行は、タイ人消費者の健康意識が高まると同時に、より利便性の高い食品を選ぶ嗜好へと変化していると指摘する。(ArayZ 2019)

2) 生活環境

世界有数の金融グループである HSBC が、100 カ国以上の駐在員を対象に実施した駐在員快適度調査において、タイは常に 10 位以内にランクインしている(2013 年度は首位)。このように、タイは外国人にとって非常に住みやすいことから、日本人を含め多くの外国人がタイに長期滞在・移住している。しかし、近年タイの経済が大きく成長を遂げているが、未だ世界銀行によって発展途上国と評価されるなど、経済成長のみならず、生活環境においても世界的にはまだ低水準にある。

また、米コンサルティング大手のマーサーが約 230 カ国・450 都市を対象に、10 つの項目をもとに生活環境をランク付

けており²、バンコク（タイ）の順位は例年 125～135 位を推移している（東京は 43～44 位にランクイン）（ぶらちけ 2017）。

3) 家庭環境

大幅な人口の増加傾向によって、世帯数が大きく増加している反面、1 世帯あたりの人数が減少している。しかし、タ

イでは親を大切にするという習慣が現在でも確固たるものになっているので、核家族化が進行していても家族の絆は強い。また、現在では共働きする女性が増加している。

4-2. インタビュー調査結果

表 5 は、幸せの感じ方や日常生活や人生と幸福に関してインタビューを行った結果である。

表 5：幸福に関するインタビュー結果

質問	A さん	B さん	C さん	D さん	E さん
兄弟の有無	4 人兄弟	2 人兄弟	3 人兄妹	3 人兄妹	2 人兄弟
ペット飼育の有無	飼育なし	飼育なし	飼育なし	飼育なし	猫を飼育中
将来の夢	客室乗務員	ガイド	医師	シェフ	大学の教師
座右の銘	ベストを尽くしたら、成功する。(do your best you will be success.)	明日は来ていない。(日本語訳)	我が道を行く。自身の信じた道を行く。(日本語訳)	目標・夢に向かって挑戦する。(日本語訳)	〈思考傾向〉悪く考えたり、ネガティブな考え方はやめるようにしている。
1 日の過ごし方	勉強		勉強		表 6*に記載
1 日の中の自由な時間	3 時間	3 時間		4 時間	5 時間
自由な時間に何をするか	友達と遊ぶ、スポーツする	勉強はしない	読書	アニメの絵を描く	
幸せを感じる時	睡眠中	友人といるとき	読書(ポエム)	起床時	美味しい料理を食べるとき、ゲームしているとき(アクティビティみたいな感じです。)
人生の幸せの上下	過去のことは忘れてしまった。(過去のことはあまり掘り返したくない。)	両親と離婚。妹が父と一緒にいる。妹が欲しい。(妹と一緒に暮らしたい)	5 歳から大変なことが多かった。	お金がないことが現在の悩み(話している中で、悩みの話に移行した。)	中学生の時期は虐められていたので、幸福度は低かったものの、大学生になり少しずつ上昇し、現在は高い所で維持している。
現在の総合的な幸福度 (1～10)	9	8	10	9	9
その幸福度の理由		試験がない、気候がよいから。			

*表 6：E さんの 1 日の過ごし方

時間	すること	時間	すること
起床時	スマホチェック、ゲームや SNS、歯磨きなどをする。	20:00～20:30	ヴァイオリンの練習
10:00	父と一緒に地下鉄へ行き、10 時に仕事場着。	22:00～23:00	SNS
10:00-17:00	仕事	23:00～	瞑想
17:00	地下鉄に乗って、仕事場から帰る。	23:30～24:00	就寝
18:00～19:00	晩御飯を食べる。		

² マーサーによる世界生活環境調査 (10 項目カテゴリー) 政治・社会環境 (政情、治安、法秩序等) / 経済環境 (現地通貨の交換規制、銀行サービス等) / 社会文化環境 (メディアの利用、検閲、個人の自由の制限等) / 健康・衛生 (医療サービス、伝染病、下水道設備、廃棄物処理、大気汚染等) / 学校および教育 (水準、およびインターナショナルスクールの有無等) / 公共サービスお

よび交通 (電気、水道、公共交通機関、交通渋滞等) / レクリエーション (レストラン、劇場、映画館、スポーツ・レジャー施設等) / 消費財 (食料 / 日常消費財の調達状況、自動車等) / 住宅 (住宅、家電、家具、住居維持サービス関連等) / 自然環境 (気候、自然災害の記録)

5. 考察

文献調査およびインタビュー調査の結果より、人工的幸福の発生にかかる要因、過程、作りやすさについて考察する。

5-1. 人工的幸福の発生要因

調査からは、人工的幸福は人との関わりや辛い経験から発生すると考えられる。

根拠としては、高校生にインタビューをした際に「友人・友達」といった言葉が何回か出てきたことや、辛い経験をしてきたインタビューの方が、現在はとても幸せだと話していたことなどが挙げられる。どちらも根拠としてはまだサンプル数が少ないため、インタビュー母数を増やして調査してみる必要がある。

加えて、人工的幸福は適応機制的行動ではなく、心理的なものだと思えることは可能なのではないかと考える。適応機制とは、自身の心理的な葛藤や欲求不満を解消する行動のことで、あくまで自身の精神的バランスをとることが目的であることが多く、根本的な解決にならないこともある。人工的幸福をつくることで、精神的バランスをとることができるのではないかと考える。逆に、精神的バランスをとるために、人工的幸福をつくっているのではないかと考える。

5-2. 人工的幸福の発生過程

参考文献として見たプレゼンテーション中に出てきた調査では、人工的幸福は選択肢の多さによって決まると話していた。しかし、辛い出来事を体験し超えていく過程で、人工的幸福度の向上が見られるとも考える。

5-3. 人工的幸福の作りやすさ

人工的幸福の作りやすさを貧困層と富裕層で比較する。

幸せを感じる時はどんなときか？という質問に、貧困層は睡眠中や起床時などと話していた。内的要因から幸せを感じていることが多いことが分かる。一方で、富裕層はゲームをしているときなど外的要因により幸福を感じている傾向が高いことが読み取れる。

6. 結論

当初、貧困層の方が人工的幸福を作りやすいと言えるのではないかと仮定していた。富裕層は所得が高い分、選択肢も広

い上に、物質的幸福も得られやすい。この選択肢が多いとは、世帯年収、月収が高い両親の子どもは様々なことに挑戦できる可能性が高くなる。習い事や塾に行かせてあげられるお金を抽出しやすいからだ。そのため、自然発生的幸福の定義である「欲しいものが手に入ったときの幸福」を得られやすいと考えた。この定義の欲しいものは、物質的な物を含めた欲しいものであると理解している。そして、タイの富裕層は選択肢が広い分、自然発生的幸福を作り出しやすいのではないかと考えた。一方で、貧困層は選択の幅が狭いため人工的幸福に相性が良く、人工的幸福が作り出しやすいのではないかと考えた。しかし、インタビューの結果により貧困層と富裕層を比べたとき、現在の総合的な幸福度の数値に幸福度に大きな差は見られなかった。これは、富裕層も貧困層も外的、内的のどちらからも幸福度を得ていると考えた上で、富裕層の物質的、外的なものから得られる幸福の一部を貧困層は内的から得ることで補っていると考えられるのではないかと考えた。

7. まとめと今後の課題

今回は、5人へのインタビューを踏まえて仮説を立てたが、人数を増やしてインタビューをすることで、より明確な傾向が見えてくると考える。また、所得と幸福度について扱ったが、宗教・ペット飼育の有無など、他の要素も検討することを求められると考える。

本論文では、タイ国内でのインタビューをして考察したが、視野を広げると同じことが世界規模で起こっている可能性があると考えた。発展途上国と先進国にまで発展しているのかも検討していく必要がある。

参考文献

- 岡部光明.(2015).何が人を幸せにするか? 経済的・社会的諸要因そして倫理の役割復活. 明治学院大学『国際学研究』, (48), 91-109.
- 岡本 泰.(2019).タイ経済の現状と課題について.ファイナンス. 経済産業省.(2020).医療国際カンントリーレポート 新興国等のヘルスケア市場環境に関する基本情報.
- こころ検定3級公式テキスト.(2017年7月1日第1版第2刷発行).日本学術会議協力学術研究団体メンタルヘルスケア学術学会監修.

ダン・ギルバート.(2004).私たちが幸せを感じる理由. TED.
https://www.ted.com/talks/dan_gilbert_asks_why_are_we_happy/transcript?language=ja

タイ国家統計局.(2017). 家庭の社会・経済状況調査
 中西翼.(2020). 貧困地区におけるコミュニティ維持型住居について: タイ・バンコク クロントイスラムを対象として.
 KGPS review: Kwansai Gakuin policy studies review, (27), 47-52.
 ぶらちけ. タイの生活水準や生活環境、文化・生活習慣などについて.(2017年10月30日)
<https://singainfo.com/?p=8497#i-3>

ArayZ.(2019). タイ人の変わる食生活.(2019-10月号).
https://arayz.com/columns/features_201910/

konoema.(2018). 「レガタム繁栄指数」 Legatum prosperity.
<https://jp.knoema.com/atlas/%E3%82%BF%E3%82%A4/topics/%E8%B2%A7%E5%9B%B0/%E6%89%80%E5%BE%97%E6%A0%BC%E5%B7%AE/GINI%E6%8C%87%E6%95%B0>.

Legatum Institute. (2020). THE LEGATUM PROSPERITY INDEX™ 2020.(2020). <https://www.prosperity.com/rankings>.
 newsclip. タイの世帯平均収入、月2万6973バーツ. 2017年12月17日. タイ統計局.(2017年1-6月).
<http://www.newsclip.be/article/2017/12/17/34981.html>

YAMADA Consulting Group Co., Ltd. (2019). タイ生活者の食に関する調査レポート.
https://s3-ap-northeast-1.amazonaws.com/ybc/ma/wp-content/uploads/2020/02/21135701/Consumer-Report_1-2.pdf.

https://s3-ap-northeast-1.amazonaws.com/ybc/ma/wp-content/uploads/2020/02/21135704/Consumer-Report_2-2.pdf.

・その他参考

国際世論調査(Annual Global End of Year Survey). WIN/Gallup International 社

国家経済社会開発庁(NESDB)

経済協力開発機構

(OECD). https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/page2_000009.html

産業精神保健研究機関. 世界幸福度調査 World Happiness Report. <http://riomh.umin.jp/happy.html>

タイ国政府観光庁. <https://www.thailandtravel.or.jp/>

Nation. (タイの英字紙)

地球幸福度指数(HPI). イギリスのシンクタンクニュー・エコノミクス財団 (NEF) .
 日本貿易振興機構(JETRO)

栄養教育の観点から見えるタイのスラムにおける貧困問題

山形県立山形東高等学校 2 年 土田一花

序論

「持続可能な開発目標 (SDGs)」の達成が掲げられている 2030 年まで 10 年を切り、最近では企業の理念やシンポジウムといった様々なところで、その 17 のゴールを見聞きすることが多くなった。17 のゴールのうちの 1 番目のゴール (SDG1) である「貧困をなくそう」を目にしたとき、アフリカの飢餓問題や世界各地にある紛争問題を思い浮かべる人は少なくないだろう。

ところで、SDGs の各項目に短い説明が続いていることはご存知だろうか。「貧困をなくそう」について見てみると「あらゆる場所あらゆる形態の貧困を終わらせる(外務省)」と書かれている。「あらゆる場所」から想像できるのは、言葉のとおり「世界中」ということだろうが、「あらゆる形態」についてはどうだろうか。貧困に種類があるということなのだろうか。

そう思い、調べてみると、貧困には大きくわけて 2 つの種類があることがわかった。

1 つは「絶対的貧困」、もう 1 つは「相対的貧困」だ。「絶対的貧困」は「1 日あたり 1.9 ドル以下で生活している人」と世界銀行によって定義されたものである (世界銀行 2015)。また、「相対的貧困」は「一定基準 (貧困線) を下回る等価可処分所得しか得ていない者の割合」と厚生労働省によって定義された、周りと比べた場合の貧困度を表したものだ(厚生労働省)。これらを受けて考えてみると、アフリカの貧困や紛争による貧困は絶対的貧困にあたるだろう。それらに対する支援は目にする事が多いが、相対的貧困への支援はどのようになっているのだろうか。考えてみれば、相対的貧困は定義の通りみると、とても身近なものなのではないか。経済的な格差は私たちでも日々感じる事ができる。より身近なところから、貧困問題の解決を考えることはできないだろうか。そう考え、私が注目したのは世界最大の格差社会を内包し、日本と同じアジア圏にあるタイである。

本研究では同国のスラムにおいて、貧困の原因を調査し、そこに住む人々が貧困から抜け出す手立ての 1 つを考察した。また、貧困は SDGs にあるように世界的な問題である。よってタイ王国のスラムという限定的な場所であっても、貧困問

題解決のための新しい視点を得ることができれば、それは汎用性が高いものであると考える。

本研究は、序論に続く第 1 章で、スラムに住む人々の貧困の原因を検討し、その貧困を断ち切る方法を考察する。第 2 章では、タイにおける栄養教育の現状分析を行う。そして第 3 章では、「体験型」の栄養教育の教材を開発する。これらによって、栄養教育の観点から見えるタイのスラムにおける貧困問題とその解決へ向けた取り組みを提案する。最後に結論として、本研究で導かれた知見をまとめる。

1 章 貧困に陥る原因の分析

1. 目的

第 1 章の目的は以下の 2 つである。

1-1. スラムに住む人々の貧困の原因を明らかにする

タイ最大のスラムであるクロントイスラムがどのような場所であるかを調査し、そこに住む人々がなぜ貧困に陥っているのか、その原因の 1 つを考える。

1-2. 貧困を断ち切る方法を考察する

スラムに住む人々が貧困から抜け出すための手立ての 1 つを現状分析から考える。

2. 研究方法

研究方法として、文献調査とインタビュー調査を組み合わせる。インタビューの概要は以下の通り。

実施日：2020 年 10 月 19 日

対象：認定 NPO 法人 IVY 阿部眞理子事務局次長

インタビュー内容：貧困地域に住む人々が貧困に陥った原因、スラムの現状など

3. 結果

3-1. クロントイスラムの現状

クロントイスラムはタイの首都にある同国最大のスラムである。面積 377 万 1.22 m²(2.357 ライ)、地区数は 43、人口規模は約 10 万人と言われているが正確な数字はわかっていない。

クロントイスラムに住む多くの人々は近くにあるクロントイの港湾局で働いていたが、現在は物流拠点が他の港に移ったため、港湾労働者は減少し、建築現場の作業員やタクシー運転手屋台での販売員として働く人々が増加している。また周辺国からの移民労働者の数も近年増加傾向にある。また、スラムに住む人々は不衛生や犯罪といった悪いイメージを伴う偏見に悩まされている。

3-2. 貧困の複雑な構造

序論で述べた通り、貧困は大きく分けて絶対的貧困と相対的貧困の 2 つに分けられるが、貧困の次元は、所得の域を大きく越え、健康と栄養の貧しさ、教育と技能の乏しさ、生活の貧しさ、住環境の悪さ、社会的排除、参加の欠如にまで及んでいる。それらを指標化したものに 2011 年版人間開発報

告書で述べられた、「多次元貧困指数(MPI)」がある。MPI は、保健、教育、所得という人間開発指数 (HDI) の 3 つの要素に関して、世帯レベルで複数の形態の貧困がどの程度重なり合っているかを表す指標であり、多次元貧困状態にある人の割合、および多次元貧困状態にある世帯が直面している貧困の深刻さを映し出すものである (国連開発計画 2011)。すなわち、MPI を用いることで貧困問題を多角的な視点で見ることができ、健康、教育、生活水準において、水や衛生施設 (トイレ)、十分な栄養または初等教育など、人々が取り残されている現状が明らかになるということだ。

2011 年版人間開発報告書では、世界の 109 개국、人口にして 55 億人 (世界の総人口の 79%に相当) を対象に、MPI の値を推計した。それによると、2000~2010 年に多次元貧困状態にあったのは対象国全体で約 16 億人 (対象国の総人口のおよそ 3 分の 1) であることがわかった。

つまり貧困問題は金銭の問題だけでなく、それに関わる健康、教育、生活水準の問題を解決しなければ、根本的な解決には至らないということである。

表 1 に具体的な指標項目を示し、ここでは健康と教育の 2 点に注目する。

表 1 : MPI の具体的な指標項目 (教育、健康、生活水準)

指標の分類	具体的な指標項目	
教育	1. 就学年数	就学経験年数が6年以上の世帯員がいない
	2. 子供の就学	学校に通うべき年齢の子供 ¹¹¹ が就学していない
健康	3. 子供の死	調査日までの過去5年間のうちに子供が亡くなった世帯
	4. 栄養	栄養不足の成人又は子供がいる (15歳以上の場合、BMI ¹¹² <18.5を栄養不足とする。15歳未満の子供の場合、体重 <WHO基準の2倍 (中央値 - 標準偏差 × 2) を栄養不足とする。)
生活水準	5. 電力	電気の供給を受けていない
	6. 衛生	改善された下水設備 ¹¹³ がない。又は、改善された下水設備を他の世帯と共用している
	7. 安全な飲料水	安全な水が得られない。又は安全な水を手にするのに往復30分以上かかる
	8. 床	家の床が泥、砂又は糞である
	9. 炊事用燃料	糞、木材又は木炭で料理をする
	10. 資産	ラジオ、テレビ、電話、自転車、二輪車、冷蔵庫、自動車、トラックのいずれも持っていない

出典：内閣府「国連開発計画『多次元貧困指数』を構成する項目一覧」

また、スラムなどの貧困地域では貧困の悪循環が問題になっており、これも貧困の構造を複雑にするものである。貧困の悪循環とは貧困の世代が 3 世代以上続き、貧困状態に陥る

という状態を表す言葉であり、外部からの介入がない限り、抜け出すことが難しいといわれている。

3-3. 貧困と健康の関係性の実態

MPI にもかかわる、東南アジアにおける貧困の実態として、健康と収入の問題がある。阿部氏によると、貧困から抜け出そうとするときに、健康であること、病気をしないことは大事なポイントであるということだ。貧困に陥る原因の 1 つに、働き手や家族の病気が含まれていることも少なくない。しかしながら、病気にならないために栄養を考えた食事をとるということは貧困地域に住む人々にとってかなり難しいということだ。実際に、阿部氏たち NPO 法人 IVY が支援を行ったカンボジアの貧困地域に住む人には、病気で仕事ができないから収入がなくて貧困に陥ってしまった、という現状があったが、その原因となった偏った食事をバランスの取れた食事に変えることができるほどの選択の余地は、彼らにはなかった。しかしその問題を解決することは間違いなく重要な点であることを、阿部氏のインタビューや MPI から導くことができる。

4. 考察

貧困に陥る原因には、住む地域のように、生まれた時から金銭的な問題を抱えている場合も多くある。しかし、インタビューや文献調査の結果から、貧困に陥る原因には直接的なお金の問題だけではない、さまざまな要素が絡んでいることが分かった。そしてこれらの結果から、「健康であること・病気になること」は非常に重要な点だと考える。それまで貧困状態ではなかった家族が、働き手の病気による減収や高価な医療費のために貧困に陥る、というような事例の存在はもちろん、一般的にも MPI として表されているものに「教育」や「健康」の項目があることもその理由である。健康に過ごし、仕事をし、収入を得ること。これが貧困から抜け出すための 1 つの策ではないだろうか。病気になるためには栄養価を考えた食事を摂ることが必要だ。そのためには栄養についての正しい知識を身に付けていることが前提になってくるだろう。では、タイの栄養教育の現状はどのようなものだろうか。より定着しやすい栄養教育の方法の確立が必要になってくるかもしれない。これらのことを踏まえて、「栄養教育が貧困の連鎖から抜け出すための手段の 1 つである。」という仮説を立て、さらに文献調査とインタビューを重ねていった。

2 章 タイの栄養教育の現状分析

1. 目的

第 2 章の目的は、1 章で行った現状分析およびそこから考えられる「栄養教育が貧困の連鎖から抜け出すための手段の 1 つである」という仮説に基づき、より効果的な栄養教育の形式、及び取り扱う内容などの方針を考察し、その方針にかかる仮説を導くことである。

2. 研究方法

研究方法として、文献調査とインタビュー調査を組み合わせる。文献調査とインタビュー調査の概要は以下の通りである。

2-1. 文献調査

より高い定着率を実現する教育方法にはどのようなものがあるか、また東南アジアに住む人々の栄養状態や、クロントイスラムの現状分析から栄養教育を行う際に扱うべきテーマが何かを調査した。

2-2. インタビュー

実施日：2020 年 11 月 12 日

対象：シーカーアジア財団職員（クロントイスラム支援団体） A さん

インタビュー内容：クロントイスラムの食糧の流通やスラムに住む人の食習慣、タイの栄養教育の現状について

3. 結果

3-1. 効果が発揮されにくい栄養教育

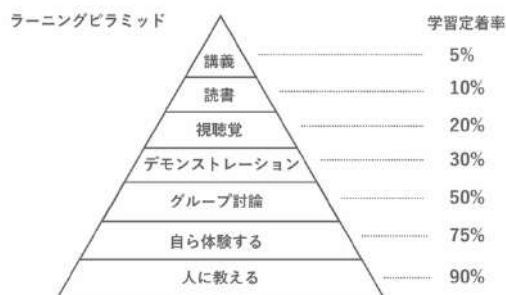
クロントイスラムはタイの首都バンコクに位置することから、食料の流通は比較的多く、スラムに住む人々は簡単に食料にアクセスすることができている。また、タイには屋台の文化があり、値段も安いことから外食の割合が多くなっており、砂糖や塩、香辛料を多く使った甘い料理を好む傾向にある。また、栄養教育の現状としては、A さんによると小学校で行われているということだ。しかし、日本のように家庭科という教科があって教えるという形ではなく、回数もそれほど多くはない。また、ヨウ素についての質問をした際に、魚類に多く含まれているというように海藻についての答えは

なかったことから、食文化が故の栄養に関する情報の提供のなされ方がることが分かった。ある程度の栄養教育がなされている一方で、スラムにおいてのその効果はあまり高くはないという現状もある。少ない所得の中で食料の選択をするときの優先順位は、自ずと安価であることになり、次いで自らの欲求などになる。栄養価を考えた食事を摂取したくても、価格の面で乗り越えられない障壁がある。

3-2. ラーニングピラミッドの理論

効果的な栄養教育を考える際に、Dale Edgar (1946) のラーニングピラミッド理論が参考になる。その理論とは、The“Cone of Experience (経験の円錐)”という概念で構成されている。人の経験や学習の過程を分類したモデルで、人は、まず体験して、次に自ら参加し観察し、最終的に言葉やビジュアルで表すことができるようになるという。これを基にしたラーニングピラミッドによると、学習定着率は「講義」「読書」「視聴覚」「デモンストレーション」「グループ討論」「自ら体験する」「人に教える」の順に上がることがわかっている。また、特に「グループ討論」「自ら体験する」「人に教える」の3つはアクティブラーニングとも呼ばれ、教育分野において重要視される考え方の1つである。ここで注目しておきたいのが、講義を受けるよりも自ら体験する方が70%も内容の定着率が上がるとされていることである。

図 1: ラーニングピラミッド理論 (Edgar 1946)



3-3. 注目すべきヨウ素不足の問題

Andersson (2012)によると、2003年から2011年にヨウ素不足の国は54から32に減少し、ヨウ素十分の国は67から105に増加した。しかし、地域的な差が大きく、東南アジアではヨウ素不足者が特に多く、アフリカでもヨウ素不足の改善が遅いことがわかった。その原因として考えられることが次の2つである。

1つ目は東南アジア諸国をはじめ、ヨウ素不足を抱える国には海藻を食べる食文化がないということである。ヨウ素は海藻に非常に多く含まれており、次いで魚類、乳製品の順に含有量が多くなっているが、海藻と他2つの含有量には大きな差がある。また、野菜や果物にはほとんどヨウ素が含まれていないため、食材からヨウ素を摂取することは難しい。

この対策として、タイ王国をはじめとする東南アジア諸国はヨウ素添加塩を導入しているが、ヨウ素不足の解決には至っていない。一方で、海外の食文化の流入により、海苔などの海藻を使った食品へのアクセスは簡単になってきているという現状もある。

2つ目は東南アジアの地理的条件にある。ヨウ素が欠乏している土壌では、ヨウ素含有量の低い農作物が生産される。ヒマラヤ、アルプス、アンデスなどの山岳地帯や、洪水が発生しやすい河川流域（特に南アジアおよび東南アジア）は、世界中で最もヨウ素が欠乏している地域である。このような地域に住む人々は、ヨウ素添加塩やヨウ素欠乏地域以外で生産された食物を摂取しなければ、ヨウ素欠乏症を発症する危険性がある。

また、ヨードの欠乏は、予防可能な脳へのダメージと知的発育遅滞の最も重要な要因である。妊娠期にあっては、妊婦の中度のヨード欠乏も胎児の発育の遅れや知的発育の不可逆的遅滞・ダメージにつながる可能性がある。また、ヨード欠乏は死産や流産の危険性を大きく高める。子どもが幼い時期にはヨード欠乏は言語・聴覚の能力に影響を与え、運動能力の発達や体の成長を遅らせる。さらに就学期の子どもや大人でも、ヨード不足により知能指数が平均10から15IQポイント落ちると推定されている。その意味でヨード欠乏症は、一国の発展に重要かつ深刻な影響を及ぼすと考えられる。

4. 考察

タイの栄養教育には改善の余地があると思う。具体的には、知識の正確さを高める、栄養教育に触れる機会を増やすなどである。また、効率よく栄養の知識を定着させる手段としてラーニングピラミッドの理論を用いた「体験型」の栄養教育が効果的だろう。この2点のことから、気軽に正しい栄養の情報に触れられること、好奇心を刺激し、子供たちが自ら学ぼうと思えるような形式であることが必要だと考える。また、栄養教育で扱う内容としては「ヨウ素」が効果的なものの1つではないか。海藻を食べる文化がないことから、普段その栄養素が何に含まれているか、私たちの体に対してどのよう

な働きをするものなのかをイメージすることは容易ではなく、摂取を勧める説明を聞いても、知識の定着は難しいように思われる。だからこそ、実験などの実際にヨウ素が含まれているものに触れる「体験型」の形式を用いることで、イメージが湧きやすくなり、円滑な知識の導入や主体的な学びを可能にすると考える。すなわち、仮説として「現地に合った栄養教育とは「体験型」の子どもたち主体の学びができるもの」であるとする。その仮説を検証するために、「体験型」を取り入れた、栄養教育の仕方について考えていった。

3章 栄養教育の教材開発

1. 目的

第3章の目的は、第2章で示した仮説に基づく栄養教育の形式・方針に基づいた教材開発を試み、仮説の検証を行うことである。

1-1. 2章の栄養教育の形式・方針に基づいた教材の開発

ラーニングピラミッドの理論に基づいた「体験型」の栄養教育の教材を開発する。

1-2. 2章の仮説の検証

「現地に合った栄養教育とは「体験型」の子どもたち主体の学びができるもの」であるかどうかを検証する。

2. 研究方法

2-1. 実験教材開発のためのヨウ素の抽出の基礎実験

栄養教育の内容を考えるにあたり、2章で取り上げたヨウ素に注目した。ヨウ素を多く含む海藻を食べる食文化がないことから、ヨウ素がどのような栄養素であるかがイメージしにくく、栄養素自体にもそれほど親しみがないように思われる。そこで、ヨウ素に対して、まずは興味を持ってもらい、正しい知識を手に入れた上で、ヨウ素添加塩の積極的な摂取や、日々の食事の中でのヨウ素の積極的な摂取につなげていきたいと考えた。「体験型」ということで、ヨウ素を見る体験として、自らヨウ素を抽出するという実験を取り入れた映像教材の開発を試みた。基にする実験は「海藻からのヨウ素の単離」であり、薬品や実験行程の面で、スラムに住む子

どもたちでもできるようなものにするために、まずは Control で実験を行う。その詳細は以下のとおりである。

【海藻からのヨウ素の単離実験】

目的

酸化還元反応を使って、海藻からヨウ素を分離し、ヨウ素デンプン反応で確認する。

材料

海藻、蒸発皿、ガスバーナー、乳鉢、2mol/l 硫酸、4%過酸化水素水、枝つきフラスコ、誘導管、1%デンプン水溶液

方法

- (1) はさみで細かく切った海藻 5g を蒸発皿に入れ、ガスバーナーで海藻中の有機物を除くために上下から灰になるまで焼く。
- (2) ヨウ素化合物を抽出しやすくするため、焼いた灰を乳鉢ですりつぶす。
- (3) すりつぶした灰を 100ml ビーカーに入れ、水 25ml を加えて数分間煮る。
- (4) (3)の溶液をろ過する。
- (5) ろ液に 2mol/l 硫酸を 2ml と、4%過酸化水素水 2ml を加えて、溶液の色の変化を確認する。色合いは、はじめ淡い黄色であるが、褐色へと変化してくる。もしも色つきが悪い場合は、もう一度同じ操作（2mol/l 硫酸を 2ml と、4%過酸化水素水 2ml を加える）を繰り返す。ここでは $2\text{NaI} + 2\text{H}_2\text{SO}_4 + \text{H}_2\text{O}_2 \rightarrow 2\text{NaHSO}_4 + 2\text{H}_2\text{O} + \text{I}_2$ の反応によりヨウ化物イオンが酸化され、ヨウ素となって遊離してくる。
- (6) 枝つきフラスコに(5)の溶液を移し、誘導管の先をヨウ化カリウム水溶液を入れた氷水中の試験管に入れておく。その後でフラスコを加熱してヨウ素を昇華させて捕集する。このとき、枝つきフラスコ内が淡い紫色になり、ヨウ素の昇華が確認でき、試験管内のヨウ化カリウム水溶液がヨウ素を吸収して淡い褐色を帯びてくる。また、ヨウ化カリウム水溶液を使わずに空の試験管を用いた場合、氷があたって強く冷やされている試験管壁にヨウ素が固体状態で確認できることもある。
- (7) 留出液に 1%デンプン水溶液を加えると青紫色になる。

2-2. デジタル絵本の開発

「体験型」を導入した、いつでも・どこでも・誰でも正しい栄養の情報に触れられるような新しい形式の栄養教育のデジタル絵本を開発する。

3. 結果・考察

3-1. 基礎実験段階での結果

上記の方法に従って、Control 実験を計5回行った。試料としては市販の乾燥わかめと乾燥昆布を用いた。1回目はろ過の過程をガーゼで行ったため、不純物が抽出液中に多くあったが、2回目以降はろ紙にすることで、純度の高い抽出液が得られた。試料の違いによる抽出液の色と、ヨウ素が抽出されたかどうかを確認するヨウ素でんぷん反応の様子は、表2のとおりである。

表2：海藻からのヨウ素単離実験のまとめ

	抽出液の色	ヨウ素デンプン反応の有無
乾燥わかめ	焦茶色	無
乾燥昆布	淡黄色	無

ヨウ素デンプン反応が見られなかったことから、ヨウ素は抽出されなかったと考えられる。その原因として考えられることは、試料がしっかりと灰になっていなかったということと、よく品の希釈の誤操作がある。今後の課題としては、まずは基礎実験を成功させることと、ヨウ素を抽出した後の活用方法を考えることである。

3-2. 子どもたちが「触れられる」デジタル教材

動画を埋め込んだり、クイズがあったり、スマートフォンやタブレット端末の画面に触れれば、新しい発見があるデジタル絵本のフォーマットを作ることができた。また扱う内容としては、ヨウ素だけでなく、ビタミンや鉄分などの微量栄養素、多量栄養素などを幅広く取り上げていきたいと考える。

結論

スラムとは「貧しい人達が集まって暮らしている都市部の一地域」である。よって最初は食料不足に苦しむ、治安の悪い地域を思い浮かべた。しかし、タイのスラムには食料が豊富なスラムもあることを知った。食料の少なさと貧困は比例していると思っていたため、それを疑問に思った。そこで調査

を重ね、食べ物はあって、生活できていても、仕事に就いてお金を稼ぐことができなかつたら結果として貧困、また貧困の悪循環に陥ってしまうという仮説を立てた。つまり、食料が豊富なスラムの貧困の原因は、食べ物が大量にあるからこそ、栄養の知識不足による偏食がおこって栄養が偏り、病気になることで、学校に行けずに教育を受けられなかったり、働けなかったりすることがあるということだ。そこで貧困の悪循環の一部を解決することでこの悪循環から抜け出せると考え、働けない状態になる原因の一つである「病気」に目をつけ、健康になる手助けをするために考えたのが「栄養教育」である。またそれは持続的でなければいけない。即効性のある他国や他地域からの資金援助はもちろん大切だが、持続性の面からみてもろい部分がある。よって栄養教育を行うことでそれを補うことができると思う。また、栄養はその地域の食文化と大きく関わっている。場所によって全くと言っていいほど異なり、この研究との関連で言えば、ヨウ素は日本と中国、韓国しか海藻を食べる文化は存在しない。その土地土地にあった栄養教育を考えることが、世界中どこであっても必要になることである。

この見解に沿えば、効果的な栄養教育は日本でも課題である。小中学校の家庭科の時間に多くの時間を使って栄養教育をするには、毎日の食事ですっかりと栄養を考えているかどうか、自分の食生活を振り返ってみてほしい。いつまでも健康で暮らし、仕事をして生きるために、効果的な栄養教育の確立は重要なものである。

参考文献

- Andersson Maria, Karumbunathan Vallikkannu, and Zimmermann Michael B. Global Iodine Status in 2011 and Trends over the Past Decade. April 2012.
- Dale, Edgar. The "Cone of Experience," *Audio-Visual Methods in Teaching*. New York: Dryden Press. 1946
- Zimmermann, Michael B. *Iodine deficiency*. *Endocr Rev*. 2009 Jun;30(4)
- World Bank. 2015. Global Poverty Line Update. <https://www.worldbank.org/en/topic/poverty/brief/global-poverty-line-faq>
- 外務省.JAPAN SDGs Action Platform. <https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/statistics/goal1.html>

厚生労働省. 国民生活基礎調査（貧困率）「よくあるご質問」

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/20-21a-01.pdf>

国連開発計画（UNDP）. 「多次元貧困指数とは」『人間開発
報告書 2011』 UNDP 駐日代表事務局、2011 年.

日本ユニセフ協会 - 都市に生きる子どもたち https://www.unicef.or.jp/osirase/back2012/pdf/SOWC_2012-Main_Report_JP_21Dec2011_summary.pdf 2012 年. (閲覧日 2020 年 10 月 11 日)

環境変化による環境意識の変容について ～心理学を用いたフィールド実験～

大阪高等学校 2 年 小川宗一郎

1. 序論：背景と目的

1-1. 環境問題の現状と課題

マイクロプラスチックや気候変動などの環境問題が近年大きく取り上げられており、人間環境への大きな被害も懸念されている。これは日本だけでなく、世界中での大きなトレンドになっており、世界中で炭素などの排出制限などが行われている。日本でも CO2 の排出量を 2050 年までに 0 に抑えるなどの目標が課されており、環境問題に大きく前進するための一歩を踏み出した。さらに、マイクロプラスチック問題の解決への取り組みとして、レジ袋の有料化などの取り組みが小泉環境大臣を筆頭に行われている。しかし、マイクロプラスチック問題を考えるにおいて「レジ袋の有料化」というのは氷山の一角に過ぎず、より海に流出するゴミを減らす政策や制度、テクノロジーが必要不可欠とされている。

しかし、コロナウイルスなどの影響もあり、環境問題についての具体的な解決が現状あまり進んでいないことも現状である。CSR などの企業の社会的責任を推奨する動きは行なっているものの、社会全体として問題に取り組む姿勢は薄いように感じる。現に、再生可能エネルギー事業を大きく発展させているのは、アメリカの企業などが多く、日本今後アメリカなどの後についていく形となっている。そして、環境問題に対して有効なアプローチを行なっていく国家にして行く為には、国民の環境意識の向上が基盤となり、その上に企業の CSR 活動などが成り立つ流れが必要である。しかし、具体的に大きく環境意識を変化させる行動を起こすことは難しい。1 例として温暖化対策サミットで世界に向けて大きく環境問題について訴えたグレタさんのような例が存在しているが、そのような行いは、確実に日本で効果が出る方法とは断言できない。

そこで学校という教育現場において環境意識の改善を実証できれば、環境意識を教育現場で向上させることができる手段の 1 つとして考えられることができる。実際に学校内でゴミ箱をデザインする授業を行ったことで生徒のゴミ分別意識を改善した例も存在している (引地、岸本 2016)。

それゆえ、本研究は学校現場をフィールドとした環境意識向上を図る実験を通して、実験フィールドに使用した学校の学生の環境意識に対する効果を検討することを目的とする。特に、先述のような背景の中でマイクロプラスチック問題の原因の根源とされている「ゴミのポイ捨ての解決」と「環境意識の改善」という 2 つを目標として、実験を通して検討していく。

1-2. 先行研究の検討

実際に環境を工夫することによってゴミのポイ捨てが減少するという研究が行われている (日本環境心理学会 2020)。この研究では、ゴミのポイ捨てが頻発しているフィールドにおいて、「どのような対策が有効なのか」を社会実験を通して検証し、根拠を持ってゴミのポイ捨て抑制に取り組めるようにする為の研究である。従来、良心に訴えかけるポスターやデザイン面で惹かれるポスターを設置することによりポイ捨ての抑制が試みられてきたが、具体的な効果などの根拠ははっきりとしなかった。そこで様々な工夫を行い、分析した結果、①子供の絵を設置する事、②草刈りにより実験フィールド内を整える工夫、③フィールド内に子供の絵を設置することを組み合わせた結果、ポイ捨てされたゴミの量が大きく減少したことがわかった。

そこで、本研究では、ゴミのポイ捨て量の減少に貢献した子供の絵でかつ環境問題について描かれたものと、環境問題について「なぜポイ捨てが規制されているのか」を考えてもらおうような絵とを合わせて、2 つのポスターをフィールドに設置する実験を行う。これらによって、環境でのゴミのポイ捨てを減らしつつ、環境意識へのアプローチを行うことは可能なのかを検証する。

2. 研究方法

フィールド内のゴミの量と環境意識の 2 つに関するフィールド実験を行い、観察とアンケートによってデータを収集し、実験で加えた操作の影響を分析する。

2-1. フィールド実験

2-1-1. 実験対象地の選定

本研究では、筆者が通う高校の校内を実験対象として使用し、学校側が抱えていた問題である、「靴箱内のゴミのポイ捨て」の抑止を目的において実験を行う。

実験対象地選定の際に、ゴミのポイ捨てが多い場所として例に上がっていたのが駐輪場と靴箱であった。どちらも、登下校の際にゴミをポイ捨てしてしまう事が原因だと考えられ、中でもよりゴミのポイ捨てが顕著に現れていたのが靴箱であった。さらに、生徒の利用数という視点から考えても、自転車通学の生徒しか使用しない駐輪場と全ての生徒が登下校時に使用する靴箱とでは、明らかに利用者数の差ができてしまう。

上記の 2 つの理由（ポイ捨て量と利用者数）から本研究の実験フィールドは靴箱に設定した。

2-1-2. 実験フィールドの状況

事前の調査では、下の写真 1, 2 のようにゴミのポイ捨てが多く見られていた。さらに靴箱の下にも飲み物の飲みカスが転がっているなどの現状が存在している。



写真 1,2：靴箱付近のゴミのポイ捨て

その後、学校側が靴箱清掃を毎日実施する事が決定された為、その後の継続的な観察を行う事ができなくなりました。

その後実験に移る過程においてコロナウイルスなどの影響で調整が続き、かなりの期間が開いての実験になってしまいました。そこで清掃停止の依頼書を学校に提出し、もう一度観察実験を実施した。その結果、写真 3, 4, 5 のように毎日最低 1

個以上のゴミが必ず靴箱内にポイ捨てされている事がわかった。

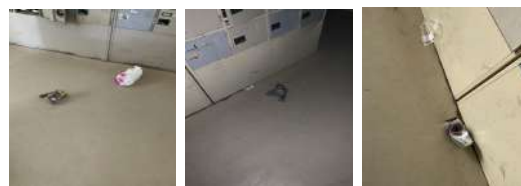


写真 3,4,5：ポイ捨てされたゴミ

2-1-3. 実験内容

本実験では先行研究（日本環境心理学会 2020）にあった中でも子供の絵についての結果を応用し、図 1 のような幻想的な絵と図 2 のようなポスターを設置した。

図 1：フィールドに設置した絵『プラスチックのうみ』

(出典：小学館 2020)



図 2：フィールドに設置したポスター



図 2 のポスターは、設置により「なぜ？」のように疑問を投げかけることによって、従来の「ポイ捨ては環境破壊」というような一般的なポスターに比べて被験者に対して思考を訴えかけるようなポスターになるような配慮が加えられている。

そして、このような研究を分析する方法として、観察とアンケート調査による 2 つの方法で研究の分析を行う。

2-2. データ収集と分析

2-2-1. 観察実験

観察実験では、ゴミのポイ捨て量が一番多かったかつ、事前調査を行ってきた 2 階の靴箱をフィールドとして扱う。実験期間は 2021 年 3 月 3 日から 3 月 10 日までの 1 週間を実験期間として設けている。観察期間においては 7 日間の内日

曜日を除く 6 日間行き、1 日あたり登校時と下校時の 2 回行う。よって計 12 回の観察を行うことになる。

2-2-2. アンケート調査

アンケートでは表 1 に示した通り、計 12 項目の設問を設ける。

表 1：アンケート設問表

①あなたは阪急電車で学校に通っていますか？ 選択肢：1, はい 2, いいえ
②2020 年 7 月 1 日より、多くの小売店（スーパー、コンビニなど）において、レジ袋が有料になりました。有料化する前と比較して、あなたの生活における環境問題への意識や行動は変化しましたか？ 選択肢：1, 変化した 2, 変化していない
③質問 2 で『変化した』と答え方に質問です。具体的に変えた意識や行動を教えてください。（複数選択可） 選択肢：1, 非有料化店でもレジ袋を辞退するようになった 2, ゴミの分別を意識するようになった。 3, マイボトルを持ち歩くようになった。 4, 環境問題のニュースを気にかけるようになった。 5, リサイクルにより積極的に取り組むようになった。 6, 使い捨て商品をできるだけ避けるようになった。 7, 多少高くても環境に良い商品を選ぶようになった。
④あなたは SDGs を知っていますか？ 選択肢：1, 知っている 2, 知らない
⑤あなたは海洋プラスチックゴミを知っていますか？ 選択肢：1, 知っている 2, 知らない
⑥あなたはポイ捨てされたゴミがどうなるのか考えたことがありますか？ 選択肢：1, はい 2, いいえ
⑦学校のゴミ箱を設置して欲しいと思う場所がありますか？あれば記入してください 自由記述
⑧あなたは校内でポイ捨てしたことがありますか？ 選択肢：1, ある 2, ない
⑨質問 8 で『ポイ捨てした事がある』と答えた人に質問です。どうしてポイ捨てをしてしまったのか理由を教えてください 自由記述
⑩ゴミをポイ捨てすることについて、あなたはどう思いますか？ 選択肢：1, 何も思わない 2, どちらかといえば何も思わない 3, どちらかといえば悪いと思う 4, 悪いと思う
⑪あなたは友人がポイ捨てをしている現場を見て、どう思いますか？ 選択肢：1, 何も思わない 2, どちらかといえば何も思わない 3, どちらかといえば悪いと思う 4, 悪いと思う
⑫学校の全員がマナーを守るために必要なことはなんでしょうか？ 自由記述

上記のように合計 12 個の設問を設けた。実験後と実験前に 2 度同じようなアンケートを行い、回答の変化を見て、意識の向上について結論を実施する。アンケートの意図については大きく 3 つの目的を設置して行なった。

第 1 の目的は、本研究以外の意識向上に取り組むイベント、もしくは政策の効果を確認する実験である。例えば、設問①には「あなたは阪急電車で学校に通っていますか？」という設問が存在する。学校に電車通学で通う人は必ず阪急の電車に乗らなければいけない状態になっている。そして、現在阪急電車の取り組みとして、SDGs の認知を高める目的の元、

『SDGs トレイン未来のゆめ・まち号』という取り組みが行われている。この取り組みは、全ての電車の中で何本かを SDGs の機体に変更されており、車内には SDGs についてのポスターやそれらの取り組みに関してのポスターが多く掲載されている。そして、この取り組み最大の特徴として、SDGs ゆめ・まち号の走行に必要な電力は再生可能エネルギー 100% になっているという事が最大の特徴として考えられる。そしてこれらのイベントの目的の 1 つとして SDGs 認知率の向上が考えられる。よって、阪急電車に通っている生徒と、

阪急電車以外で通っている生徒の環境意識を、後の設問によって探っていくためにこの設問を設置した。

第 2 の目的は、先程説明する際にも出てきた環境意識の調査である。このアンケートで環境意識の有無を判断する。先程述べた通り、アンケートは実験の前後で合計 2 回行う。実験前のアンケートで、事前の在校生の環境意識のデータを確認し、実験後のアンケートで、事前に確認したアンケートの結果から環境意識が向上したのかを確認する。

第 3 の目的として、先行調査との比較が挙げられる。今回のアンケート項目の中で第 1 回 日本人の環境危機意識調査 (PRTIMES2020年9月8日出版) の調査を参考に、実験を行った高校の在校生と、PRTIMES社調査の結果を比較することによって、在校生と世間との環境意識への差がどれほど大きいのかを、2 つのアンケート (本研究と先行調査) を用いて考える。この先行調査と同じ設問を設けたのは設問②の 2020年7月1日より、多くの小売店 (スーパー、コンビニなど) において、レジ袋が有料になりました。有料化する前と比較して、あなたの生活における環境問題への意識や行動は変化しましたか? という質問と、それに続く③の質問である。また、この実験で心理学を用いた先行研究である (日本環境心理学会 2020) の研究結果が学校というフィールドが違っている場でもうまく適応されるのかという先行研究の再検討もこの実験の目的の 1 つとして扱う。

2-3. 調査の流れ

フィールド実験調査の流れについて説明する。

第一に、学校側に靴箱の清掃中止の要望書を提出し、靴箱内のゴミの推移を確認できる状態にした。その後、1 週間ポイ捨てされたゴミの量の推移を確認・記録を行う。そして、ポスターを 2 種類設置し、その後 1 週間かけてゴミの量の推移を記録、という流れで実験を行なった。

3. 結果と考察

3-1. 観察実験の結果と考察

観察実験の結果、下記図 3 のような結果が得られた。

図 3: 実験対象地におけるポイ捨てゴミの量の推移

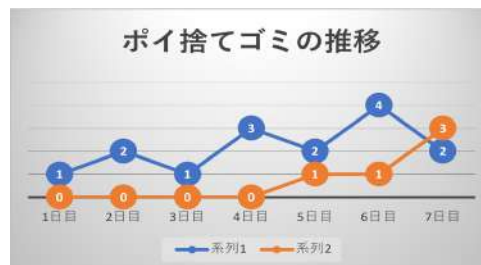


図 3 のグラフ上の数字は、青色が事前調査時のゴミのポイ捨て量を表しており、オレンジ色はポスターを設置したフィールド実験時のゴミの量を現したデータである。どちらも 1 日あたり登校時と下校時の 2 回に分けて観察を行い、その合計値を 1 日ごとの結果としてグラフに反映させている。

今回の観察実験の結果からは、圧倒的にフィールド実験を行なった時 (オレンジ色) のゴミの量が、実験を行う前 (青色) のゴミの量と比べて減少していることがわかる。

しかし、このフィールド実験の懸念点として、4 日目まではゴミのポイ捨て数が 0 に抑えられており、5、6 日目は 1 個に抑えられているにも関わらず、7 日目に 3 個と、急にゴミのポイ捨て量が上昇したことにある。このゴミのポイ捨て量の変化については検討が必要であると考えられる。

このような結果から、ポスターはゴミのポイ捨て防止に関して効果があったと考えられる。しかし、5 日目あたりからゴミの数が少しずつ増加し、7 日目には事前調査のゴミの量を上回る量のゴミが計測されるという結果になってしまった。この事から、最初の時点では、ポスターを認識し、ゴミのポイ捨てを抑制する効果があった、しかし、5 日目あたりから、ゴミの量が増加した事から、ポスターの効果が薄れてきたという事が考えられる。

3-2. アンケート調査の結果と考察

3-2-1. 1 度目のアンケート結果

1 度目のアンケートでは、実験フィールドに設定した学校の生徒 600 人がアンケートに協力してくれた。アンケートの結果下記表 2 のような結果が得られた。

表 2：1 度目のアンケート結果

<p>①あなたは阪急電車で学校に通っていますか？ 選択肢：はい・394人 いいえ・213人</p> <p>②2020年7月1日より、多くの小売店（スーパー、コンビニなど）において、レジ袋が有料になりました。有料化する前と比較して、あなたの生活における環境問題への意識や行動は変化しましたか？ 選択肢：変化した・318人 変化していない・289人</p> <p>③質問2で『変化した』と答え方に質問です。具体的に変えた意識や行動を教えてください。（複数選択可） 選択肢： 1, 非有料化店でもレジ袋を辞退するようになった・223人 2, ゴミの分別を意識するようになった・77人 3, マイボトルを持ち歩くようになった・64人 4, 環境問題のニュースを気にかけるようになった・56人 5, リサイクルにより積極的に取り組むようになった・37人 6, 使い捨て商品をできるだけ避けるようになった・47人 7, 多少高くても環境に良い商品を選ぶようになった・36人</p> <p>④あなたはSDGsを知っていますか？ 選択肢：知っている・380人 知らない・226人</p> <p>⑤あなたは海洋プラスチックゴミを知っていますか？ 選択肢：知っている・354人 知らない・253人</p> <p>⑥あなたはポイ捨てされたゴミがどうなるのか考えたことがありますか？ 選択肢：はい・426人 いいえ・181人</p> <p>⑦学校のゴミ箱を設置して欲しいと思う場所がありますか？あれば記入してください（自由記述・省略）</p> <p>⑧あなたは校内でポイ捨てしたことがありますか？ 選択肢：ある・3人 ない・602人</p> <p>⑨質問8で、『ポイ捨てした事がある』と答えた人に質問です。どうしてポイ捨てをしてしまったのか、理由を教えてください（自由記述・省略）</p> <p>⑩ゴミをポイ捨てすることについて、あなたはどのように思いますか？ 選択肢： 1, 何も思わない・9人 2, どちらかといえば何も思わない・23人 3, どちらかといえば悪いと思う・99人 4, 悪いと思う・474人</p> <p>⑪あなたは友人がポイ捨てをしている現場を見て、どう思いますか？ 選択肢： 1, 何も思わない・18人 2, どちらかといえば何も思わない・30人 3, どちらかといえば悪いと思う・122人 4, 悪いと思う・435人</p> <p>⑫学校の全員がマナーを守るために必要なことはなんだと思いますか？（自由記述・省略）</p>
--

自由記述の結果は複数存在するかつ、今回の研究に大きく関わらないので省略し、人数配分については、このような結果になった。

3-2-2. 2度目のアンケート結果

2度目のアンケートについては、アンケート1に含まれていた設問から、さらに必要なアンケートを絞ったアンケートをもう一度実施した。

アンケートを絞った条件としては、ポスター設置による環境意識の変容に関係しないアンケートは省いた。（例：⑫学校の全員がマナーを守るために必要なことはなんだと思いますか？など）

3-2-3. アンケートからの考察

アンケート調査の結果から、全体的に環境意識の高さを測るための設問②③④⑤などで過半数が「はい」という肯定的な回答をしている事がわかった。さらに、平均的に350人ほどがそれぞれの設問に「はい」と答えていることから、同じ人が肯定的な返答をしていることが考えられる。具体的に、SDGsの認知と海洋プラスチックへの認知はほぼ同じ人数になっていることから、「はい」と「いいえ」と回答している回答者が同じであると考えられる。

そして、SDGsの認知(④) > 海洋プラスチックの認知(⑤) > 行動の変化(②)という順序でアンケートの「はい」と答えた人が多くなっている。この量関係からわかることは、「認知する」という段階から、「実際に行動する」という段

階に移るまでに、何人かの人が脱落していくということがわかる。そしてアンケートの量的関係から、「はい」と答えた回答者はほとんどが行動に移しているということが考えられる。このことから、SDGs などの環境意識を高めて行くと同時に、認知から行動に移しやすい仕組みを作ることが必要であると考えられる。

3-3. 先行調査との比較と考察

第1回日本人の環境危機意識調査（PRTIMES 2020年9月8日出版）との比較から、現時点でのアンケートを実施した高校生と、世論調査との比較を行うことで、生徒と世論との意識の差を確認するために行う。

アンケートの質問②③の2項目について、表3,4に示す。それぞれ左が本研究での生徒のデータ、右が世論調査のデータを記し、人数ではなく全体のパーセント表示で行う（小数点以下四捨五入）。

②2020年7月1日より、多くの小売店（スーパー、コンビニなど）においてレジ袋が有料になりました。有料化する前と比較して、あなたの生活における環境問題への意識や行動は変化しましたか？

表3：質問②に関する回答比較

	生徒調査データ (校内母数 606)	世論調査データ
変化した	52%	74%
変化していない	48%	26%

③ 質問2で『変化した』と答え方に質問です。具体的に变えた意識や行動を教えてください。（複数選択可）

表4：質問③に関する回答比較

	生徒調査データ (校内母数 318)	世論調査データ
非有料化店でもレジ袋を辞退するようになった	70%	23%
ゴミの分別を意識するようになった	24%	14%
マイボトルを持ち歩くようになった	20%	13%
環境問題のニュースを気にかけるようになった	17%	10%
リサイクルにより積極的に取り組むようになった	12%	10%
使い捨て商品ができるだけ避けるようになった	15%	10%
多少高くても環境に良い商品を選ぶようになった	11%	5%

全体の数値から、行動自体を変化させた割合は世論調査の方が大きく、実験フィールドの生徒と22%差が開いている。しかし、具体的に变化した意識の項目ごとで見ると、生徒の行う具体的な行動の割合が圧倒的に多い事がわかった。この事から、意識を変えた人数は世論調査の方が多いが、意識を変えた数は生徒の方が多くことがわかった。しかし、この世論調査は2020年7月におこなわれており、今回のアンケートは2021年の2月に行ったため、この7ヶ月の間に意識を向上させる機会が多くあった可能性も考えられる。また、具体的に変えた意識、行動の割合が大きく生徒の方が上回っている事から、学生の方がアクションを起こす回数や種類が多い事が数値から確認できる事から、より、学生に対して環境意識へのアプローチを行う事は必要であると考えられる。

3-4. CSR 活動の効果の検討

2-2-2 で述べた、阪急がおこなっている SDGs についての CSR 活動の効果を検証するために、阪急電車で通学を行っているか？という質問と、SDGs を知っているか？という質問を掛け合わせることで、実際に CSR 活動がどれほど利用者に影響を与えているかを検討する。

「阪急電車に乗って通学しているか？」という質問に対して、「はい」と答えた人の中で、「SDGs を知っているか？」という質問にも「はい」と答えた人は、65%であった（少数点以下切り捨て）。そして、「阪急電車に乗って通学しているか？」という質問に対して、「いいえ」と答え、その中で、「SDGs を知っているか？」という質問に「はい」と答えた人は、54%であった。

このデータから、阪急電車で通学を行っている人と、阪急電車を使用せずに通学している人の間で、約11%の差が生じる事が判明した。

この事から、阪急電車が行っている CSR 活動は、SDGs の認知活動に貢献しているという事がわかった。さらに、この検証では、1年生の阪急電車利用者と非利用者の認知率に関してはあまり差がなかったものの、2年生になると、少し阪急電車を利用している生徒の認知率が高くなる傾向が見られた。この結果から、阪急電車の利用年月が多い程 SDGs への認知率が高くなる、という傾向が考えられる。

4.結論¹

今回の実験と調査により、ポスター設置などの環境意識を高める工夫や企業が実施している SDGs の認知活動はほぼ確実に効果があると考えることができる。本研究のポスター設置実験においても、ポイ捨て行動がポスター設置により減少することが観察された。ただし、時間の経過とともに効果が薄れることが推測される。

また、環境意識への影響を見るアンケート調査については、1 回目のアンケート調査と 2 回目のアンケート調査で大きく母数が異なってしまう結果になったため、今後の調査では母数などをなるべく揃えた場でのアンケート調査を行う。もしくは、SDGs が広まってきている社会で必要となってくる CSR 活動の取り組みと企業イメージなどの関連を深く探っていくことによって、より本質的な環境問題や社会問題として取り組まれている SDGs の達成につながると考えられる。

参考文献

- 岡本英雄, 「タイにおける環境意識の構造」, 『発展途上国の環境意識: 中国, タイの事例』, 1997 (315-340)
- 加藤悟・松村憲一, 『鉄道駅のゴミ箱デザインによる分別促進に関する社会実験』, 2010
- 蟹江憲史, 「第 1 回日本人の環境危機意識調査 コロナ流行語、環境問題に前向きな意識や行動 約 4 割」, 『PRTIMES』 (2020-09-08) 閲覧日 02-24, <https://prtimes.jp/main/html/rd/amp/p/000000006.00046771.html>
- 高橋直, 『ある商店街におけるゴミ捨て行動への介入の試み』, 1996 (94-101)
- 日本環境心理学会, 「河川でのポイ捨てを減らそう!」, 『環境心理学の知見を利用した社会実験: 環境省モデル事業速報-』, 『第 13 回日本環境心理学会シンポジウム報告』 (第 8 巻 第一号), 2020 (26-34)
- 引地力男・岸本佳子, 「小学生のゴミ箱分別意識の改善を目指したゴミ箱の製作実習」, 『工学教育』 64.4 (2016): 4_83-4_88.

シェル・ロード作 ジュリア・ブラットマン絵 (川上拓土 訳), 『プラスチックのうみ』, 小学館, 2020.06.05

¹ 本研究は、筆者による「せかい探究部」外での探究活動とも連携しており、本論文集編纂時点において、研究および論文執筆継続中である。

せかい探究部 1 期生 (2020.6 - 2021.3)

水曜クラス

石川沙瑛子 (順天高等学校 2 年)
臼井 真由夏 (関西学院千里国際高等部 3 年)
江原 咲月 (文化学園大学杉並高等学校 2 年)
小川 宗一郎 (大阪高等学校 2 年)
佐保田 千優 (共立女子高等学校 2 年)
谷川 明穂 (つくば開成高等学校 3 年)
原田 彩花 (広尾学園高等学校)
福井 七海 (公文国際学園高等部 2 年)
矢野 莉央 (関西学院千里国際高等部 3 年)
吉岡 聖都 (立命館宇治高等学校 2 年)

土曜クラス

池谷 麻菜 (Kalani High School Grade 11)
伊藤 笑利夏 (神奈川県立希望ヶ丘高校 3 年)
梅原 里緒 (成城学園高校 2 年)
土田 一花 (山形県立山形東高校 2 年)
西尾 茉莉杏 (白陵高等学校 2 年)
土方 楓子 (共立女子高等学校 3 年)
北東 愛海 (共立女子高等学校 2 年)
山元なのは (京都府立洛北高校 2 年)

監督

新江梨佳 (Sophia GED 教育プログラムディレクター)

顧問

廣里 恭史 (Sophia GED 代表取締役社長 / 上智大学グローバル教育センター教授)

編集後記

高校生探究学習プログラム「せかい探究部」、記念すべき1冊目の論文集が完成しました。1期生の個性、各々のわくわく感や学びの成果が凝縮された、世界で唯一の作品たちです。高校生の今の興味関心や思考を存分に入れ込みながら、大学の研究ベースで本格的に執筆された論文は、どれも本当に読みごたえがあり、今のその人にしか書けないものとなっています。

この論文集を、東南アジアをはじめとする研究の学術的な成果として、そして1期生のみなさんの学びの軌跡の記録として、この後に残し、共有できることを嬉しく思います。

2020年の予想していなかったコロナ禍、しかしそこから「学び」というものを新たな角度から考える機会を得て「せかい探究部」は生まれました。信念やビジョンはありながら、具体的なものは組み上げ切らないまま、とにかくやってみようと思切りに発車スタートしました。そんな未知数のプログラム、すべてが第1号となる新しい活動に、1期生として日本全国・一部海外からの高校生のみなさんが参加し、それぞれの形で一緒に「せかい探究部」を世の中で実態あるプログラムへと育ててくれたことに、感動と深い感謝の気持ちでいっぱいです。

試行錯誤や挑戦の連続だった新しいプログラムを押し進めて走り抜くことができたのは、日々1期生が見せてくれる好奇心や行動力、共有してくれる発見や驚きの素晴らしさ、そして何より、活動を通じて深まっていくみなさんとのかけがえのない関係性が生む力があったからだと思います。実際には一度も会っていないとは思えないような将来につながる仲間が増えたことは、私たちにとっての新たな大きなわくわく感の発見でした。

1期生が共に創ってきてくれたプログラムが2期、3期と続き、関わったみなさんと様々な形で継続的に一緒に活動していける未来を描きながら、「せかい探究部」は今後も発展していきます。

これからも、せかい探究部の部員のみなさんが、自分や世界やその間に生まれるわくわくを探り、彩りある人生を生き、世界をより鮮やかなものにしていってくれることを願っています。

新江梨佳（「せかい探究部」監督）
Sophia GED 教育プログラムディレクター

せかい探究部 1期生論文集

SophiaGED 高校生探究学習プログラム「せかい探究部」

2021年7月発行

Sophia Global Education and Discovery Co., Ltd. (Sophia GED)
159/16 Serm-Mit Tower, 10th Floor, Room 119, Sukhumvit 21 (Asoke) Road,
Klongtoey-Nua, Wattana, Bangkok 10110, Thailand

<https://sophia-ged.com/ja/>

<https://sekaitankyubu.sophia-ged.com/>
